

フィジー共和国
南太平洋大学 ICT キャパシティ
ビルディングプロジェクト
終了時評価調査報告書

平成24年9月
(2012 年)

独立行政法人国際協力機構
経済基盤開発部

基 盤
J R
12-262

フィジー共和国
南太平洋大学 ICT キャパシティ
ビルディングプロジェクト
終了時評価調査報告書

平成24年9月
(2012 年)

独立行政法人国際協力機構
経済基盤開発部

目 次

目 次

地 図

写 真

略語表

評価調査結果要約表

第1章 評価調査の概要	1
1－1 調査団派遣の経緯と目的	1
1－2 調査団の構成と調査日程	1
1－2－1 調査団（合同評価委員会日本側メンバー）の構成	1
1－2－2 合同評価委員会フィジー・USP 側メンバー	2
1－2－3 調査団日程	2
1－3 プロジェクトの概要	3
第2章 評価の方法	5
2－1 評価のポイント	5
2－2 調査方針	5
2－3 データ収集・分析方法	6
2－4 評価調査の制約・限界	6
第3章 PDM の変遷	8
第4章 プロジェクトの実績及び実施プロセスの検証	10
4－1 投入実績	10
4－1－1 日本側投入	10
4－1－2 USP 側投入	14
4－2 アウトプットの実績	15
4－3 プロジェクト目標の達成度	20
4－4 上位目標の達成見込み	21
4－5 実施プロセスの検証	22
第5章 評価結果	25
5－1 評価5項目ごとの評価	25
5－1－1 妥当性	25
5－1－2 有効性	26
5－1－3 効率性	27
5－1－4 インパクト	28
5－1－5 持続性（見込み）	29

5-2 結 論	30
第6章 提言及び教訓	31
6-1 提 言	31
6-1-1 プロジェクト終了までに完了させることが必要な活動に関する提言	31
6-1-2 プロジェクト終了後、プロジェクト効果を持続させるために必要となる事項に関する提言	32
6-2 教 訓	32
付属資料	
1. ミニッツ・合同評価報告書	37
2. 評価グリッド（和文）	121
3. インタビュー概要及び質問票回答のまとめ	139
4. エンドライン調査項目	146

南太平洋地域 全体図



写



Joint Coordination Committee 集合写真

真



Minutes of Meetings 署名式



トンガ ババウラーニングセンター



トンガ タプキャンパスでのインタビュー



トンガ ハーパイセンター



トンガ ハーパイセンター 高校の中にセンターがあり、高校生もネットを使用できる

略 語 表

ACS	Australian Computer Society	オーストラリアコンピューター学会
ADB	Asian Development Bank	アジア開発銀行
BNC	Bachelor of Net-centric Computing	ネットセントリックコンピューター 学士
BSE	Bachelor of Software Engineering	ソフトウェアエンジニアリング学士
CFDL	Centre for Flexible and Distance Learning	遠隔教育センター
C/P	Counterpart	カウンターパート
CS	Computing Science	コンピューター科学
CS/IS	Computing Science and Information Systems	コンピューター科学/情報システム
DAC	Development Assistance Committee	開発援助委員会
FNU	Fiji National University	フィジー国立大学
FSTE	Faculty of Science, Technology and Environment	科学技術環境学部
ICT	Information and Communication Technology	情報通信技術
IS	Information Systems	情報システム
IT	Information Technology	情報技術
ITIL	Information Technology Infrastructure Library	
ITS	IT Services	IT サービス部
ITU	International Telecommunication Union	国際通信連合
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteers	青年海外協力隊
JPCERT/CC	Japan Computer Emergency Response Team/Coordination Center	JPCERT コーディネーションセンター
KPI	Key Performance Indicators	重要業績評価指標
MOE	Ministry of Education	教育省
NOC	Network Operation Centre	ネットワークオペレーションセンター
OECD	Organization for Economic Co-operation and Development	経済協力開発機構
OER	Open Educational Resources	オープン教育リソース
OJT	On the Job Training	オン・ザ・ジョブ・トレーニング（職 場研修）
PacCERT	Pacific Computer Emergency Response Team	太平洋地域コンピューター緊急対応 センター

PALM	Pacific Islands Leaders' Meeting	日本・太平洋諸島フォーラム（PIF） 首脳会議（島サミット）
PCMA	Paired Carrier Multiple Access	衛星通信において異なる基地局で同一周波数の同時利用を可能とする技術
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PIF	Pacific Islands Forum	太平洋諸島フォーラム
PIRRC	Pacific ICT Regulatory Resource Centre	太平洋島嶼国 ICT 規制リソースセンター
PITA	Pacific Islands Telecommunication Association	太平洋諸国電気通信協会
PO	Plan of Operation	活動計画
R/D	Record of Discussion	討議議事録
SCIMS	School of Computing, Information Systems and Mathematical Sciences	コンピューター科学・情報システム・数理学科
SMS	Short Message Service	携帯電話でのメッセージ（テキスト） 交換機能
SPC	Secretariat of Pacific Community	太平洋共同体
SPICTEX	South Pacific ICT EXPO	南太平洋 ICT 万博
TFL	Telecom Fiji Ltd.	テレコムフィジー
TVET	Technical and Vocational Education and Training	技術・職業教育訓練
USP	The University of the South Pacific	南太平洋大学

評価調査結果要約表

1. 案件の概要		
国名：フィジー共和国		案件名：南太平洋大学 ICT キャパシティビルディングプロジェクト
分野：情報通信技術		援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：経済基盤開発部運輸交通・情報通信グループ		協力金額（評価時点）：3.7 億円
協力期間	(R/D)：2010 年 2 月 1 日～2013 年 1 月 31 日	先方関係機関：南太平洋大学
	(延長)：	日本側協力機関：JPCERT/CC ¹ /熊本大学
	(F/U)：	他の関連協力：（無償）南太平洋大学情報通信技術センター整備計画
1-1 協力の背景と概要 <p>南太平洋大学（The University of the South Pacific：USP）は、1968 年に地域島嶼国 12 カ国がそれぞれ資金を拠出し共同設立した域内最高水準の国際高等教育機関である。USP は、フィジー共和国（以下、「フィジー」と記す）の首都スバの本校舎に域内各国から留学生を受け入れるとともに、域内各国の学生に対し衛星通信を利用した遠隔教育（USP-Net）を実施している。大洋州地域は高等教育機関が少なく、USP の遠隔キャンパスが唯一の高等教育機関である国も少なくない。</p> <p>過去 2002～2005 年には、技術協力プロジェクトとして、コンピューター科学・情報システム教育、遠隔教育、IT（Information Technology：情報技術）研究開発に対する支援が実施された。その後も、増加する学生数に対して ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）関連施設の不足を補うため、わが国の無償資金協力により、大洋州における情報通信技術の中核施設となる「Japan-Pacific ICT センター」（以下、「ICT センター」）を建設し、JICA は 2010 年 2 月から 2013 年 1 月まで、USP をカウンターパート機関として技術協力プロジェクト「南太平洋大学 ICT キャパシティビルディングプロジェクト」を実施している。本プロジェクトに対し、現在派遣中の 2 名の長期専門家に加え、延べ 20 名程度の短期専門家の派遣が開始されている。</p>		
1-2 協力内容 <p>(1) 上位目標</p> <p>USP が改善された ICT 環境を通じて、南太平洋地域の ICT 人的資源開発に貢献する</p> <p>(2) プロジェクト目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 魅力的な CS（Computing Science：コンピューター科学）/IS（Information Systems：情報システム）コースが大洋州地域に提供される USP の ICT サービス提供能力が強化される 		

1 Japan Computer Emergency Response Team/Coordination Center（JPCERT コーディネーションセンター）

(3) アウトプット

1. 新しい国際認定レベルの BNC (Bachelor of Net-centric Computing : ネットセントリックコンピュータ学士) /BSE (Bachelor of Software Engineering : ソフトウェアエンジニアリング学士) 学士号プログラムが提供される
2. USP-Net (遠隔教育システム) が効率的に利用され、ITS (IT Services : IT サービス部) のサービス提供が向上する
3. 遠隔教育において新 ICT 技術が活用され、推進される
4. Japan-Pacific ICT センターの運営方針及びサービス体制が確立される

(4) 投入 (評価時点)

日本側 : 総投入額 3.7 億円

長期専門家派遣	2 名	機材供与	約 3,900 万円
短期専門家派遣	計 23 名	ローカルコスト負担	約 280 万円
研修員受入れ	10 名		

相手国側 :

カウンターパート配置 21 名 機材購入 : 機材に係る VAT (付加価値税) 負担
土地・施設提供 : 専門家執務室 ローカルコスト負担 17 万 2,780 フィジードル (FJD)
その他 : 衛星通信費用 (プロジェクト開始後から 2012 年 7 月末現在 48 万 2,030FJD)、ICT センタースタッフ人件費 (年間 49 万 3,000FJD)、ICT センター運営費 (年間 60 万 4,100FJD)

2. 評価調査団の概要

調査者	団長・総括 : 新関 良夫	JICA 国際協力専門員
	協力企画 : 吉田 健太郎	JICA フィジー事務所所員
	評価分析 : 織本 厚子	株式会社日本開発サービス調査部研究員
調査期間	2012 年 7 月 31 日 ~ 2012 年 8 月 17 日	評価種類 : 終了時評価

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) 投入

日本側の専門家派遣、本邦研修及び機材投入 (衛星設備等) について、予定されていたよりも多くの機材投入が行われたが、内容は適切で効果的に投入された。タイミングについては、チーフアドバイザー派遣が 7 カ月遅れたことを除き、適当であった。チーフアドバイザー不在中は、USP 側及び日本側の努力により大きな影響なく進めることができた。

USP 側は、プロジェクトディレクター (コンピューター・情報・数理学科長兼 ICT センター長) が、2010 年 5 月以降空席状態となっている以外は、PDM で定められたとおりのインプットを実施している。プロジェクトディレクター業務は、コンピューター科学・情報システム・数理学科 (School of Computing, Information Systems and Mathematical Sciences : SCIMS) 長と ICT センター長に分離され、2012 年 1 月に ICT センター長が着任し、ビジネスプランの作成及びビジネスインキュベーションのリーダーとなっている。また、USP のプロジェクトと直接かかわるインプットのなかで、3 年間の太平洋地域コンピューター緊急対応センター (Pacific Computer Emergency Response Team : PacCERT) 職員 (2 名) 給与をコミットした

ことは特筆に値する。

(2) アウトプット

現行プロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix：PDM）のアウトプット指標の達成レベルは、既に達成しているもの及びプロジェクト完了までに達成する可能性が高いものがほとんどであった。ただし、アウトプット達成の指標のなかには、USP の学年末（12 月）までデータが揃わないものやサンプルを定めて定量的な調査を実施する必要がある項目があるため、エンドライン調査（2012 年 11 月中旬から 12 月上旬を想定）において結果を確定する必要がある。

現在、達成が不明確な指標としては、指標 4-1（ICT センターの運用計画が策定され承認された事実）があり、プロジェクト終了時には部分的に達成されることが予想される指標には、指標 4-3（すべてのインキュベーションスペースが占有され、占有しているテナントが、ICT センターから受けるサービスや支援に満足している）がある。

(3) プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標の指標の達成状況については、エンドライン調査において定量的な結果を確定する必要があるものの、本調査範囲（トンガキャンパス視察、インタビュー及び質問票調査）において、プロジェクト完了前にすべての指標が達成される可能性は高いと判断されるため、プロジェクト目標は達成できると考えられる（「指標 1. BNC/BSE 学士号コースが国際的な認定機関により単位を認められる」は達成した）。

3－2 評価結果の要約

(1) 妥当性

以下の理由により妥当性は非常に高いと考えられる。

パシフィック・プランにおける大洋州地域デジタル戦略や、USP における戦略計画及び 3 カ年計画とも合致している。日本の援助の方向性に関しては、第 5 回日本・太平洋諸国フォーラム（PALM5）の首脳宣言における「持続的な開発」に沿っており、PALM6 の「持続可能な開発及び人間の安全保障」に引き継がれている。JICA 事業展開計画においても島嶼・遠隔地教育支援プログラムに沿って案件が形成されている。また、南太平洋地域では USP が ICT 人材育成の中核を担っている点や、わが国が ICT 分野の豊富な知見（技術開発、運用、教育、啓発等）を有する点を考慮すると、実施機関を USP に定め、CS/IS コースを設立するとともに、ICT サービス提供能力の強化を図る本プロジェクトは、手段としても適切であると考えられる。

(2) 有効性

以下の理由により、有効性は比較的高いと考えられる。

前述の「3－1 実績の確認 (3) プロジェクト目標の達成状況」のとおり、「プロジェクトのカウンターパートが離職しない（そのポジションが満たされている）」というアウトプットレベルの外部要因を満たすか不安材料はあるものの、プロジェクト完了前にすべての指標が達成される可能性は高いと判断され、プロジェクト目標は達成できると考えられる。

また、プロジェクト目標を達成するのに、有効な貢献要因（地域の ICT 政策が USP を後押ししていることや情報通信に係る地域機関が ICT センターに集結してシナジー効果が発現し始めていること）がみられる。

阻害要因については、ICT センター長不在の期間が長かったこと、PacCERT 立ち上げに時間がかかり、ささいな日常業務においても理事会全体の合意を取り付ける手続きが必要であること、上記外部要因とも関連しているが SCIMS の教授や講師が離職していることなど、アプトプット達成に影響を与えていると考えられる要因があるが、現状では、プロジェクト目標達成を阻むほどの影響は有しない。

(3) 効率性

以下の理由により効率性は中程度であると考えられる。

ICT センタービジネスプランが策定され承認されるという指標以外は、アウトプット達成を測る指標はおおむね達成されている。

前述の「3-1 実績の確認 (1) 投入」のとおり、大部分の投入は、その量・質・タイミングともに適切であり着実に実施されている。特にアウトプット 3 については、当初予定されていたよりも大きな成果を上げ、カウンターパートから高く評価されている。ただし、活動レベルの外部要因である「ITS、CFDL（Centre for Flexible and Distance Learning：遠隔教育センター）、SCIMS 及び ICT センターのトップマネジメント関係者がプロジェクトに活発に参画している」については、ICT センター長が 8 カ月前に着任したばかりであり、まだプロジェクトに活発に参画しているとはいえない。

(4) インパクト

プロジェクトの上位目標の達成の検証には時期尚早であるが、現時点のアウトプット達成状況から達成できる見込みであると判断できる。また、現時点ではネガティブなインパクトはみられず、既に下記 3 点のポジティブなインパクトが発現している。

① USP のフィジー中高等学校への協力

アディ・マオパ中高等学校への Ku-band 設置及び USP-Net の提供が開始されている。

USP は、フィジーの公立中高等学校の e-learning をサポートすることが決まっており、本プロジェクトで技術が向上したカウンターパートにより、プロジェクトの枠を越えた協力が開始されている。

② プロジェクトのターゲットグループを超えた裨益

- トンガのハーパイ (Ha'apai) 離島ラーニングセンターは Ha'apai 中高等学校の敷地内にあるため、Ku-band²が設置されてから、USP の学生だけではなく、中高等学校関係者、政府関係者等が同センターを利用している。
- ICT センターで開催されたセミナーやワークショップは、USP スタッフや学生に限らず、外部教育関係者（教職者、学生）、ICT 企業スタッフや政府関係者等にも提供されている。

² 無線通信で用いられる周波数帯域のうち、12~18GHz の帯域を使う仕様。これまで USP で主に使用されている C-band に比べて小型のアンテナ、コンパクトな置局機材での衛星通信が可能だが、C-band に比べて雨の影響を受けやすい。

③ トンガキャンパスの学生数の増加

上位目標の達成指標の一つにある学生数の増加について、トンガキャンパス中、本島のトンガタブ本校及びババウ（Vava'u）離島ラーニングセンターにおいては学生数が増加している。特にババウ離島ラーニングセンターについては、Ku-band 設置後、今までトンガタブ（本島）で就学していた学生が、トンガタブでしか受けられなかった講座やコースを同センターで継続受講することが可能になったため、地元（離島）に戻ったケースが多くみられた。

(5) 持続性（見込み）

以下の点で、持続性は高いと考えられる。

政治や組織の側面では、パシフィック・プランの大洋州地域デジタル戦略や USP の 2020 年に向けたビジョン等の存在もあり、USP からは長期にわたる継続的なコミットメントが期待でき、信頼できるカウンターパートである。また、財務的にもプロジェクトの効果持続に必要な供与機材の経常費用、維持費用等に対する予算の手当て、確保を行っており、問題がない。

技術的な側面においては、カウンターパートの能力は強化され、プロジェクト完了後も活動を継続することに問題ないとするカウンターパートが大部分であった。しかしながら、カウンターパートのうち、何名か離職者が出たこともあり、技術面での自立発展性は組織面や財務面での自立発展性と比べると弱い。ただし、UPS も専門家も、離職によるリスクを最初から勘案し、人材・技術面における自立発展性を確保するために、システムとして持続的に機能するように配慮したプロジェクト運営がなされている。

3-3 効果発現に貢献した要因

2010 年にトンガで開催された ICT 大臣会合において、ICT センターに PacCERT、太平洋島嶼国 ICT 規制リソースセンター（Pacific ICT Regulatory Resource Centre : PIRRC）、太平洋諸国電気通信協会（Pacific Islands Telecommunication Association : PITA）、国際通信連合（International Telecommunication Union : ITU）の入居及び、USP と太平洋共同体（Secretariat of Pacific Community : SPC）が大洋州地域における ICT 開発を主導することが承認されたことはプロジェクトの実施に正の影響を与えたと考えられており、実際に上記 4 機関が ICT センターに入居し、ICT に関連する地域国際機関が結集することでシナジー効果が発現し始めている。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

ICT センター長不在問題に関しては、研究・リサーチとマネジメントを兼ねたポジションを埋めることを断念し、研究・リサーチは、SCIMS の学科長、ICT センターマネジメント全般に関しては ICT センター長として職務を切り離して公募し、2012 年 1 月にビジネスプランの策定とインキュベーションを担当する ICT センター長が着任した。

PacCERT 設立の活動開始はスタッフへの給与が確保できずに遅れたが、現在はその遅れを取り戻すべく進んでいる。ただし、USP の PacCERT へのスタッフ給与は 3 年間と期限付きであるため、その間に自立発展していけるようサポートが必要となっている。また、PacCERT 理事会メンバー全体のコンセンサスが取れないと前に進めないシステムとなっていることは、今後

も PacCERT に影響すると考えられる。

新学士号プログラムのオーストラリアコンピューター学会（Australian Computer Society : ACS）による仮国際認証後に、3 名の教授・講師が自己都合で離職した。外部要因で認識されているものであるが、残された教授、助教授、講師への負担が大きくなっており、早急に人の手当てが行われないと、プロジェクトに負の影響を与える可能性がある。

3-5 結 論

実績の検証、プロジェクトの実施プロセス及び5 項目評価の結果、プロジェクトはプロジェクト期間内にプロジェクト目標を達成できると考えられる。したがって、討議議事録（Record of Discussion : R/D）で計画された予定期間のとおり、プロジェクトを終了することが適当である。

3-6 提 言

(1) プロジェクト終了までに完了させる必要のある活動について

① ICT センタービジネスプランの策定（USP 側・日本側プロジェクトチームに対する提言）

ICT センターの方向性を決定するために重要であるため、プロジェクトスーパーバイザーを中心に対話と相互理解の下、早急にビジネスプランを策定することが望まれる。

② 残りの Ku-band 設置の完了（USP 側・日本側プロジェクトチームに対する提言）

指標では9カ所の Ku-band を配置することとなっているが、現状では6カ所の配置にとどまっている。USP としては残りのプロジェクト期間で配置可能としているが、調査団として残りの期間で3カ所配置することを提言した。

③ エンドライン調査の実施（JICA への提言）

プロジェクト目標の指標を達成しているかどうかについては、新学士号コースについては、学生の満足度が分かるデータがプロジェクト完了直前まで入手が難しいこと、（ある程度母集団を限定した）定量的な追加調査が必要であるため、本調査にて確認した評価結果の確定のために、エンドライン調査（2012 年 11 月中旬から 12 月上旬）を実施する必要がある。一部の指標では、調査対象が広い（全学生等）ため、適当なスケールを設定してエンドライン調査を行うよう提言した。

(2) プロジェクト終了後、プロジェクト効果を持続させるために必要となる事項について

① インキュベーションスペースのテナントに対する継続した支援（USP への提言）

インキュベーションスペースのテナントが選ばれたが、ビジネスインキュベーションを成功させるためには、プロジェクト終了後についてもテナントに対する技術的・事務的な支援を継続する必要がある。

② 高まりつつある友好・連携関係を正式な形にし、確固なものにする（USP、熊本大学、PacCERT 及び JPCERT/CC に対する提言）

本プロジェクトを通じて、熊本大学と CFDL、JPCERT/CC と PacCERT の連携が実現し、技術移転に大きな成果をもたらした。今後は、これらの連携がさらに深まるように、例えば組織間の MoU（覚書）の締結などを通じて関係強化に取り組む必要があることを提言した。

③ 学生へのサービス向上のため、ICT 施設への投資の継続（USP に対する提言）

Ku-band 導入により、リモートキャンパスの学習環境が飛躍的に改善されたことが確認された。しかし、これまでの C-band を活用しているキャンパスについては、さらなる環境の改善の声が聞かれた。今後、リモートキャンパスの学生の増加が期待されるため、引き続き、ICT 関連機材の改善が必要であることを提言した。

④ プロジェクトによって発現した効果を地域内に拡大発展していく（USP 及び JICA に対する提言）

本プロジェクトでは、新しいプログラムの新設や Ku-band の導入をはじめとする遠隔教育のインフラ整備を行ってきたが、一部の取り組みはさらなる継続的な取り組みが必要である。2000 年から本分野での支援を続けているが、USP、JICA には引き続き、本セクターでリードしていく必要があることを提言した。

3-7 教 訓

(1) 遠隔地支援の強調

本プロジェクトは、離島部における学習環境改善に大きな成果をもたらした。しかし、今回のトンガでの調査を通じて、さらなる改善のニーズがあることが分かった。大洋州のような隔離性の高い地域においては、遠隔地に住む直接受益者の意見を吸い上げて案件形成をすることが重要である。

(2) プロジェクト実施における相互理解・信頼醸成の重要性

相互理解や信頼醸成をプロジェクトの早期に築くことは、問題ができた際には、パートナー同士の協働により解決の糸口を早期に発見することが可能となる。

本プロジェクトにおいては、カウンターパートと直接のコミュニケーションを可能な限り行い、問合せにはできるだけ早く応対し、威圧的な態度を極力避けることを実践したことで、相互理解や信頼醸成を確固たるものにできた。このようなコミュニケーションの重要性は当然のことであるが、場合によっては忘れられやすいことでもあるため、必ず留意する必要がある。

第1章 評価調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

南太平洋大学（USP）は、1968年に地域島嶼国12カ国がそれぞれ資金を拠出し共同設立した域内最高水準の国際高等教育機関である。USPは、フィジー共和国（以下、「フィジー」と記す）の首都スバの本校舎に域内各国から留学生を受け入れるとともに、域内各国の学生に対し衛星通信を利用した遠隔教育（USP-Net）を実施している。大洋州地域は高等教育機関が少なく、USPの遠隔キャンパスが唯一の高等教育機関である国も少なくない。

しかしながら、USP-Netは、通信量の増加に伴い、ネットワーク帯域が飽和状態となっており、遠隔キャンパスにおける遠隔教育学生の学習に支障が生じている。衛星通信を経由した遠隔教育を進めていくにあたって、重要なネットワーク網となるため、パフォーマンスの向上が必要とされている。また、対面授業の機会が限られているUSP加盟各国の遠隔キャンパスに対し、本校との格差を減少するために、学習管理システムやモバイル技術を利用した遠隔教育学生の学習支援の促進が必要とされている。

大洋州においてICT（情報通信技術）人材の需要は増加傾向にあるのと同時に、フィジー、オーストラリア、ニュージーランドを含めた近隣諸国では、ICT関連コースの提供の競争に拍車がかかってきており、域内最高水準の国際高等教育機関であり続けるためには、USPは、プロフェッショナルな学士号コースを提供する必要に迫られていた。

2011年にヌメアで開催された、大洋州地域ICT大臣会合において、USPは、域内におけるICT開発の中心として正式に認められ、今後、域内共同体へのICT関連コースの提供、インキュベーション支援やICTに関連する付帯サービスを提供することが期待されている。

過去2002～2005年には、技術協力プロジェクトとして、コンピューター科学・情報システム教育、遠隔教育、IT（情報技術）研究開発に対する支援が実施された。その後も、増加する学生数に対してICT関連施設の不足を補うため、わが国の無償資金協力により、大洋州における情報通信技術の中核施設となる「Japan-Pacific ICTセンター」（以下、「ICTセンター」）の建設が開始され、2010年4月に第1期工事が完了している。「南太平洋大学ICTキャパシティビルディングプロジェクト」は、USPの教育的な側面だけではなく、ICTセンターが大洋州域内のICT研究、利用、リソースの中心として活用されるよう、2010年2月から3年間の技術協力プロジェクトとして開始された。本プロジェクトに対し、現在派遣中の2名の長期専門家（チーフアドバイザー、業務調整）に加え、約20名程度の短期専門家を派遣しているが、プロジェクト完了まで6カ月を切り、プロジェクトの有効性、残りの6カ月間の活動内容及び将来のICT協力の方向性を検討するため、終了時評価を実施した。

1-2 調査団の構成と調査日程

1-2-1 調査団（合同評価委員会日本側メンバー）の構成

担 当	氏 名	所 属	調査日程
団長/総括	新関 良夫	JICA 国際協力専門員	2012/8/7 - 2012/8/17
協力企画	吉田 健太郎	JICA フィジー事務所所員	2012/8/1 - 2012/8/16
評価分析	織本 厚子	株式会社日本開発サービス 調査部 研究員	2012/7/31 - 2012/8/17

1-2-2 合同評価委員会フィジー・USP 側メンバー

担 当	氏 名	所 属
メンバー	Mr. Joshua Loco	教育省技術職業教育訓練部 コンピューター教育、e-learning、遠隔教育プロジェクト担当教育官
メンバー	Ms. Sera Kogure Vada-Pareti	USP 副学長補事務所（総務・地域キャンパス） キズナプロジェクト・コーディネーター

1-2-3 調査団日程

日 順	月 日	活 動
1	7 月 31 日（火）	出発（織本団員）
2	8 月 1 日（水）	フィジー着（織本団員） 16:00 JICA フィジー事務所、プロジェクトチーム打合せ
3	8 月 2 日（木）	＜フィジー ラウザラキャンパス調査＞ 9:00 Manager of PacCERT、Director of ICT Center、Dean of FSTE インタビュー ----- 14:00 Acting Director of CFDL, IT Industry、JICA 専門家インタビュー
4	8 月 3 日（金）	9:00 Acting CEO of TFL、Ministry of Education インタビュー ----- 14:00 Manager of PITA、Acting Deputy Director of ITS、Senior Lecturer of SCIMS インタビュー
5	8 月 4 日（土）	トンガ王国（以下、「トンガ」）着（吉田団員）
6	8 月 5 日（日）	報告書作成、データ分析
7	8 月 6 日（月）	9:00 JICA トンガ支所訪問 10:00 事前打合せ（Mr. Kisione Finau, ITS Director） ----- トンガ着（織本団員、福島チーフリーダー）
8	8 月 7 日（火）	＜トンガキャンパス調査＞ 9:00 ICT 関係者グループインタビュー 10:00 学生グループインタビュー 11:00 キャンパスダイレクターインタビュー ----- ババウ移動（吉田団員、織本団員）、トンガ着（新関団長）
9	8 月 8 日（水）	ババウ移動（新関団長） ＜トンガ ババウセンター調査＞ 10:00 センター関係者グループインタビュー 11:00 学生グループインタビュー ----- 14:00 センター視察
10	8 月 9 日（木）	ハーパイ移動 ＜トンガ ハーパイセンター調査＞ 10:00 センター関係者グループインタビュー 11:00 学生グループインタビュー -----

日順	月 日	活 動
		14:00 センター視察 スクアロファ移動
11	8 月 10 日 (金)	11:30 在トンガ日本大使館 (川田参事官)、JICA トンガ支所帰国報告 スバ移動
12	8 月 11 日 (土)	団内会議
13	8 月 12 日 (日)	団内会議
14	8 月 13 日 (月)	10:00 Dr. Esther Williams, Deputy Vice-Chancellor 表敬訪問 16:00 在フィジー日本大使館 (田辺次席) 表敬訪問
15	8 月 14 日 (火)	9:00 終了時評価合同評価事前打合せ 14:00 終了時評価合同評価協議
16	8 月 15 日 (水)	終了時評価報告書作成準備
17	8 月 16 日 (木)	11:30 第 4 回合同調整委員会 14:00 次期プロジェクトについての打合せ ナンディ移動 (新関団長、織本団員)
18	8 月 17 日 (金)	帰国 (新関団長、織本団員)

PacCERT : Pacific Computer Emergency Response Team (太平洋地域コンピューター緊急対応センター)

FSTE : Faculty of Science, Technology and Environment (科学技術環境学部)

CFDL : Centre for Flexible and Distance Learning (遠隔教育センター)

TFL : Telecom Fiji Ltd. (テレコムフィジー)

PITA : Pacific Islands Telecommunication Association (太平洋諸国電気通信協会)

ITS : IT Services (IT サービス部)

SCIMS : School of Computing, Information Systems and Mathematical Sciences (コンピューター科学・情報システム・数理学科)

1-3 プロジェクトの概要

プロジェクト名	和名：南太平洋大学 ICT キャパシティビルディングプロジェクト 英名：The ICT for Human Development and Human Security Project
実施地域	フィジー国スバ市及び域内 USP キャンパス
実施期間	2010 年 2 月から 2013 年 1 月までの 3 年間
実施機関	日本側： 独立行政法人国際協力機構 長期専門家 2 名 (チーフアドバイザー、業務調整兼ネットワーク専門家) 短期専門家 22 名程度 (株式会社パデコ他) 熊本大学 JPCERT/CC (Japan Computer Emergency Response Team/Coordination Center : JPCERT コーディネーションセンター) 国際会議パネリスト

	<p>フィジー側：南太平洋大学（The University of the South Pacific：USP） 遠隔教育センター（Centre for Flexible and Distance Learning：CFDL） IT サービス部（Information Technology Services：ITS） コンピューター科学・情報システム・数理学科（School of Computing, Information and Mathematical Sciences：SCIMS） Japan-Pacific ICT センター（Japan-Pacific ICT Centre）</p>
上位目標	USP が改善された ICT 環境を通じて、南太平洋地域の ICT 人的資源開発に貢献する
プロジェクト目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 魅力的な CS/IS（コンピューター科学/情報システム）コースが大洋州地域に提供される 2. USP の ICT サービス提供能力が強化される
成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新しい国際認定レベルの BNC（ネットセントリックコンピュータ学士）/BSE（ソフトウェアエンジニアリング学士）学士号プログラムが提供される 2. USP-Net（遠隔教育システム）が効率的に利用され、ITS のサービス提供が向上する 3. 遠隔教育において新 ICT 技術が活用され、推進される 4. Japan-Pacific ICT センターの運営方針及びサービス体制が確立される

第2章 評価の方法

2-1 評価のポイント

(1) 遠隔地（離島ラーニングセンター）への効果の検証

Ku-band¹を導入したことによる学習環境の変化、評価（雨天時の状況、障害時の対応、故障時の修理対応など含む）についてリモートキャンパススタッフ・学生などからヒアリングを行い、USP が課題と認識しているフィジー本校・各国首都キャンパス・各国リモートキャンパスのデジタルデバイドに関する現状・課題を調査する。また、大学の本来業務としての活用に限らない USP-Net の活用についても情報収集を行う。

(2) Japan-Pacific ICT センター関連の活動状況の検証

Director の配置はなされたものの、プロジェクト後半での配置であり、アウトプット達成に負の影響があったことは否めない。また、同センター内につくられた PacCERT についても主要メンバーの退職や機材調達の遅延などから専門家（JPCERT）からの技術移転が効率的に実施できていない現状もあるため、今後の課題も含めた調査を行う。特に、今後の課題の一つとして、ビジネスインキュベーションの取り組みがプロジェクト終了後に継続されるかという点も含める。

2-2 調査方針

日本及びフィジー、USP から評価メンバーを選出し、以下のとおり合同で評価を実施する。評価結果は合同評価報告書にまとめ協議・合意する。

(1) プロジェクトの実績（プロジェクト目標、アウトプットの達成度、投入実績等）や実施プロセスを含むプロジェクト情報を整理し、実施状況の把握・分析を行う。

項 目	視 点
実績の検証	<ul style="list-style-type: none">・ 投入は計画どおり実施されたか・ アウトプットは計画どおり達成されたか・ プロジェクト目標は達成されるか・ 上位目標達成の見込みはあるか
実施プロセスの検証	<ul style="list-style-type: none">・ 活動は計画どおりに実施されたか・ 技術移転の方法に問題はなかったか・ プロジェクトのマネジメント体制（モニタリング、プロジェクト内コミュニケーションなど）・ 実施機関やカウンターパートのプロジェクトに対する認識は高いか・ 実施過程で生じている問題や、効果発現に影響を与えた要因は何か

(2) 評価調査に必要な評価設問を検討し、評価5項目ごとに具体的な評価設問を設定し、評価デザインとして「評価グリッド」を作成する。

¹ 無線通信で用いられる周波数帯域のうち、12～18GHz の帯域を使う仕様。これまで USP で主に使用されている C-band に比べて小型のアンテナ、コンパクトな置局機材での衛星通信が可能だが、C-band に比べて雨の影響を受けやすい。

評価 5 項目	視 点
妥当性	プロジェクトのめざしている効果（プロジェクト目標や上位目標）が、評価を実施する時点において妥当か、問題や課題の解決策として適切か、相手国と日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当か、等を問う。
有効性	プロジェクト期間中に、また、プロジェクトのアウトプットによってプロジェクト目標が達成される見込みがあるかを問う。
効率性	プロジェクトのコストと効果の関係に着目し、投入要素等が有効に活用されているか（あるいは、されるか）を問う。
インパクト	プロジェクト実施によりもたらされる、より長期的・間接的效果や波及効果をみる。予期していなかった正・負の効果・影響を含む。
持続性	協力が終了しても、プロジェクトで発現した効果が持続しているか（あるいは、持続の見込みがあるか）を問う。

(3) 質問票に対する回答、現地調査（関係者へのインタビュー、トンガキャンパス視察等）を行い、評価グリッドに基づき、各分野の評価・分析とともにプロジェクトの総合的な評価を行い、合同評価報告書案を作成する。

(4) プロジェクト合同評価委員会を開催し、合同評価報告書を完成させる。

(5) 合同調整委員会（Joint Coordination Committee : JCC）を開催し、合同評価報告書を報告し、ミニッツ（M/M）に署名する。

(6) 帰国後、報告会を開催し、終了時評価報告書を作成する。

2-3 データ収集・分析方法

本終了時評価では、データ収集方法として、質問票（38 票回収）、文献レビュー〔プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）最新版、事前評価調査報告書、プロジェクト専門家報告書、現地収集資料等〕、関係者へのインタビュー（計 53 名）、トンガキャンパス（ババウ離島ラーニングセンター及びハーパイ離島ラーニングセンター）視察、調査を実施した。

収集した定性的・定量的データを分析し、評価 5 項目に従って評価結果を取りまとめ、日本側及びフィジー・USP 側から構成される合同評価委員会を開催し、評価結果を検証、提言と教訓を取りまとめた。

2-4 評価調査の制約・限界

終了時評価は、プロジェクト終了約 6 カ月前に実施されるため、インタビュー及び質問票調査により、プロジェクト目標の達成見込みを検証することは可能であるが、目標達成の指標について、12 月以降でないと入手できないデータが存在した。また、今回の現地調査では、地方へのインパクトを確認するため、トンガキャンパスや離島のセンターにおける調査を実施したが、USP は 12 カ国にまたがる大学であり、大きな母集団に対し調査を行う必要があるデータについては、

エンドライン調査によって本評価の確定を行う必要がある。

第3章 PDM の変遷

終了時評価に至るまでに、プロジェクトでは討議議事録(R/D)時に合意されていた PDM Version 0 をプロジェクト開始 6 カ月後の第 1 回 JCC で Version 1.0 に改訂している。

2011 年 6 月に実施された中間レビュー調査において、PDM Version 1.0 の指標に、検証可能な値が示されていないという問題が指摘されていたため、その後、PDM Version 2.0 に改訂が行われ、2011 年 12 月に JCC にて承認された。

主な改訂内容（追加及び削除）は、下記の表に挙げられている。それ以外の変更は、主に、指標を検証可能な形に変更することや、英語の言い回しを適切にするというところが大半であった。

Outputs		
Indicator 2-5	Ver 1	-
	Ver 2	The fact that proactive response system and incident management database system are utilized to enhance customer-centred IT services delivery
Indicator 3-1	Ver 1	Percentage of Moodle-assisted courses (Baseline:41% Target:90%)
	Ver 2	Percentage of Moodle-assisted courses increases to 90%; The fact that reliability, availability and performance of Moodle system are considerably enhanced
Indicator 3-2	Ver 1	The fact that the trial of student support system using mobile technology is conducted
	Ver 2	At least 1 interactive m-learning pilot project is conducted successfully
Indicator 4-2	Ver 1	Contents of Community/professional courses offered in ICT Centre Number of Community/professional courses offered in ICT Centre Evaluation of courses by participants (Satisfaction Rate)
	Ver 2	<i>Dropped</i>
Indicator 4-5	Ver 1	<i>It was included in Indicator 4-4.</i>
	Ver 2	PacCERT is established at the ICT Centre and equipped to fill the basic requirement to provide services to the region
Project Purpose		
Ver 1	1. Attractive CS/IS and/or other ICT related courses are delivered across the region. 2. ICT related facilities in the USP are enhanced.	
Ver 2	1. Attractive CS/IS programmes are delivered across the region 2. USP’s capacity to deliver ICT Services is enhanced	
Overall Goal		
Ver 1	1. USP contributes to the ICT human resources development in the South Pacific region. 2. ICT related learning environment in the USP is improved.	
Ver 2	USP contributes to the ICT human resources development in the South Pacific region through its improved ICT environment	

Target Groups	
Ver 1	Information Technology Service (ITS), Centre for Flexible and Distance Education (CFDL), and School of Computing, Information and Mathematical Sciences (SCIMS), Japan-Pacific ICT Centre
Ver 2	Students and Staff of School of Computing, Information and Mathematical Sciences (SCIMS), Staff of Information Technology Service (ITS), Staff of Centre for Flexible and Distance Learning (CFDL), Staff of Japan-Pacific ICT Centre (incl. PacCERT)

第4章 プロジェクトの実績及び実施プロセスの検証

4-1 投入実績

4-1-1 日本側投入

専門家派遣、研修、機材供与、在外事務所強化費に係る日本側の投入は以下のとおり（同投入の内訳等については、付属資料「1. ミニッツ・合同評価報告書」の「Annex-6」を参照）。

(1) 専門家の派遣

2010年2月から調査時点までに、2名の長期専門家、23名の短期専門家が、表4-1に示すとおり派遣された²。

チーフアドバイザーについては、契約期間が2期設定されており、2010年9月から2012年3月までと2012年4月から2013年1月までの予定となっている。チーフアドバイザーは、プロジェクト開始から7カ月遅れて派遣され、1年間に9カ月（3カ月×3）の派遣期間となっている。業務調整/ネットワーク専門家はプロジェクト開始時点より派遣が開始され、3年間の派遣期間となっている。

短期専門家については、契約期間は2期の設定で、2010年2月から2011年8月及び2011年10月から2013年1月となっている。第I期については、株式会社パデコより8名、熊本大学から2名の短期専門家が派遣されている。

その後、JPCERT/CC専門家の派遣は、これからとなっており、調査時点ではまだ派遣実績はなかった。

表4-1 専門家派遣実績

氏 名	派遣分野	派遣期間
I. 長期専門家：		
福島 和良	チーフアドバイザー	2010.09.27- 2012.03.31
		2012.04.01-2013.01.31
村上 信也	業務調整/ネットワーク	2010.02.01 - 2013.01.31
II. 短期専門家：		
II-1 パデコ株式会社		
太田 剛（第I期のみ）	ITIL ³ /ソフトウェア工学/業務主任（第I期）	2010.03.13-2010.03.26
		2010.06.19-2010.07.08
		2010.08.28-2010.09.13
		2010.11.05-2010.12.02
		2011.05.08-2011.05.22
		2011.06.04-2011.06.18
豊島 淳子（第I期のみ）	評価分析（教育）	2010.02.27-2010.03.21

² 表4-1においては、現在分かっている派遣予定についても記入されている。

³ Information Technology Infrastructure Library

氏 名	派遣分野	派遣期間
渡辺 成良	カリキュラムアドバイザー（ソフトウェア工学）/モバイル技術	2010.06.19-2010.07.18 2010.09.11-2010.11.14 2011.06.25-2011.07.18 2011.10.28-2011.11.28 2012.02.17-2012.03.19 2012.05.25-2012.06.25 2012.08.10-2012.10.14 ⁴ 2012.10.26-2012.12.02 ⁵
プラマニク カデル博	衛星通信システム/カリキュラム アドバイザー（ネットセン トリック・コンピューティ ング）	2010.02.20-2010.06.20 2010.09.11-2010.10.31 2011.04.29-2011.05.16 2011.06.24-2011.07.26 2011.10.28-2011.12.03 2012.02.10-2012.04.08 2012.05.25-2012.06.16 2012.07.20-2012.09.01 +2 週間程度の派遣を予定
平塚 亮三（第Ⅰ期のみ）	ネットワーク工学	2010.09.18-2010.10.03
倉知 良紀	ネットワーク工学/ITIL（第Ⅱ期） 〔評価分析（IT）：第Ⅰ期のみ〕	2010.02.27-2010.03.21 2010.06.19-2010.07.18 2011.04.17-2011.05.01 2011.05.18-2011.06.01 2011.11.04-2011.12.12 2012.02.03-2012.03.05 2012.05.04-2012.06.04 2012.06.24-2012.08.04 +2 回の派遣を予定
高橋 富士信	インキュベーション 1（第Ⅰ期のみ）	2010.08.07-2010.08.15 2011.07.16-2011.07.24
近松 佳郎	インキュベーション 1/業務主任 （第Ⅱ期）	2010.09.11-2010.10.03 2011.07.16-2011.07.31
斉藤 亮	ソフトウェア工学（第Ⅱ期のみ）	2012.04.27-2012.05.10
鷹取 功	インキュベーション 2	2012.02.17-2012.03.19 2012.05.27-2012.06.15 2012.08.XX- +1 回派遣予定

⁴ 業務範囲外（USP 依頼業務）の期間を含む。

⁵ 同上

氏 名	派遣分野	派遣期間
II-2 熊本大学		
鈴木 克明	遠隔教育 1	2011.03.11-2011.03.28 2011.11.12-2011.11.24 +1 回派遣予定
根本 淳子	遠隔教育 2	2011.03.11-2011.03.28 2011.11.14-2011.11.24 +1 回派遣予定
II-3 JPCERT/CC		
小宮山 功一朗	情報セキュリティ (CERT) 1	2011.07.16-2011.07.30 2012.03.09-2012.03.09 2012.07.09-2012.07.13 +1 回派遣予定
梅村 香	情報セキュリティ (CERT) 2	2011.07.16-2011.07.30
平塚 伸世	情報セキュリティ (CERT) 3	2011.10.22-2011.11.13 2012.07.09-2012.07.21
佐藤 浩樹	情報セキュリティ (CERT) 4	2011.10.22-2011.11.13
満永 拓邦	情報セキュリティ (CERT) 5	2011.11.13-2011.12.02 2012.03.01-2012.03.09
II-4 国際会議パネリスト		
小菅 俊夫 (デジタルハリウッド大学教授)	ICT と文化 1	2012.02.22-2012.02.24
佐賀 健二 (元東洋大学教授)	ICT と文化 2	2012.02.22-2012.02.24
内海 良夫 (JTEC)	ICT と文化 3	2012.02.22-2012.02.24
土佐 直子 (京都大学教授)	ICT と文化 4	2012.02.22-2012.02.24
稲見 雅彦 (慶応大学教授)	ICT と文化 5	2012.02.22-2012.02.24
菅谷 実 (慶応大学教授)	ICT と文化 6	2012.02.22-2012.02.24
II-5 日本開発サービス株式会社		
白石 祐子	m-learning 専門家	プロジェクト終了までに 2 週間程度×2 回派遣予定
II-6 AS エンジニアリング		
吉田 俊六	OER ⁶ 専門家	プロジェクト終了までに 3 週間程度×1 回派遣予定

⁶ Open Educational Resources (オープン教育リソース)

(2) 研 修

2012 年 8 月 1 日時点において、本邦研修には、長期研修 1 名、短期研修に 7 名が参加し、2012 年 9 月に参加予定となっている 2 名を加えると、計 10 名が本邦研修を受講する予定となっている。その他、国内で開催されたセミナーやワークショップ、研修コースには、USP の関係者（学生や教授、講師、スタッフ等）だけでなく、教育関係者や政府関係者、IT 企業及び地域機関のスタッフ等の参加者が延べ 800 名以上にのぼっている。また、シンポジウムや国際会議のセミナーやパネルにも 200 名以上が参加した（詳細は、付属資料「1. ミニッツ・合同評価報告書」の「Annex-6」を参照）。

表 4－2 本邦研修実績

種 類	研修名	期 間	参加者数
本邦研修	Educational Technology-Based Instructional Systems	1.5 年間	1
	ネットワーク監視	12 日間	2
	Ku-band 衛星通信システム	19 日間	2
	モバイルラーニング	12 日間	2
	IT Engineering Trainer in Public Institution	75 日間	1
	IT セキュリティ（2012 年 9 月実施予定）	14 日間	2

表 4－3 国内セミナー・研修開催実績

種 類	研修名	時間×日数（またはセッション）	参加者数
国内セミナー	グローバルトレンドセミナー vol.1-vol.6	2 時間×6 日×1 2 時間×5 日×4 2 時間×4 日×1	354
	ITIL 関連セミナー	2 時間×1 日 2 時間×4 セッション 1 時間×2 日	101
	Cisco-JICA 遠隔セミナー	2.5 時間×1 日 2.2 時間×1 日	43
	遠隔教育キャパシティビルディング ワークショップ	3 時間×8 セッション 3 時間×1 セッション	70
	USP-JICA 公開セミナー Vol.1 - Vol. 4	1 時間×1 日×2 0.75 時間×1 日×2	200+
	PacCERT CSIRT ブーツキャンプトレ ーニング	6.5 時間セッション×3 日	30
シンポジウム/ 国際会議	SPICTEX 2011JICA 公開シンポジウム	2 時間セッション×2	140+
	SPICTEX 2011JICA 公開セミナー	1 時間セッション×2	40+
	USP-JICA 「ICT とオセアニア文化」 国際会議	30-45 分セッション×5	100+

(3) 機材供与

機材供与については、Ku-band を含む衛星関連機材のほか、コンピューターや ICT センターの機材に 88 万 7,183 フィジードル (FJD) 相当 (2012 年 8 月現在) を供与している (内訳は、付属資料「1. ミニッツ・合同評価報告書」の「Annex-6」を参照)。USP とフィジー政府間の VAT (付加価値税) 未還付問題があり、ITIL や PacCERT 関連の機材導入が遅れたが、USP が VAT 立て替えをすることで、解決している。また、衛星関連機材については、現地調達ができない機材であったこと及び途中で仕様変更が発生したため、調達に遅れが生じたが、現地事務所、日本人専門家側双方の努力により解決し、調達は完了している。

結果として当初予定していたよりも多くの機材が導入された。3 カ所のリモートサイトにおける Ku-band を除くすべての機材は既に設置・導入が完了しており、教育及び ICT サービスの提供のために日々活用されていることが確認された。

4-1-2 USP 側投入

カウンターパートの配置、予算の措置、土地、建物、資材の提供に係る USP 側の投入は以下のとおり (同投入の内訳等については、付属資料「1. ミニッツ・合同評価報告書」の「Annex-5」を参照)。

ちなみに、2010 年度から、USP は ICT センターに係る運営費用をカバーしている (ICT センターに係る年間の運営費用は、スタッフ等人件費が約 49 万 3,000FJD、スタッフ以外の費用が約 60 万 4,000FJD となっている)。

(1) カウンターパートの配置

プロジェクトに関するカウンターパート側のマネジメント担当者として、6 名の職員が配置されることになっているが、プロジェクトディレクターは 2010 年 5 月から 1 年以上不在となっている。しかし、プロジェクトスーパーバイザーがプロジェクトリーダーたちと協力し、不在による負の影響の発現を防いだ。ICT センター長は、アカデミック部分 (研究・リサーチ) と ICT センターマネジメントに職務を 2 つに分割し、ICT センターマネジメントのなかでもビジネスインキュベーションとビジネスプランの策定を主要な業務とし、2012 年 1 月に着任した。その他、現在、合計 21 名 (FSTE : 4 名、ITS : 6 名、CFDL : 7 名、ICT センター関連 : 4 名) のカウンターパートが配置されている。カウンターパートのすべてはフルタイムではなく、パートタイムであるが、カウンターパート以外の職員や学生の間でもプロジェクトの認識度は高く、プロジェクト専門家が技術移転を行ったスタッフの数は多い (内訳は、付属資料「1. ミニッツ・合同評価報告書」の「Annex-5」を参照)。

(2) 日本側専門家の執務スペース

USP 側からは、PDM に沿ったプロジェクト実施に必要な執務スペース、水道、光熱、インターネット接続等が提供されている。

(3) プロジェクトに必要な予算措置

USP 側は、ICT センター運営に係る費用を全額賄っている。また、Ku-band 衛星用トランスポンダーのレンタル料や遠隔サイトへの機器の設置に係る費用も手当てしている。

4-2 アウトプットの実績

【アウトプット 1】新しい国際認定レベルの BNC/BSE 学士号プログラムが提供される

同アウトプットは、PDM Version 2.0 の改訂時に、達成目標を上位変更された。同アウトプットの達成を測る指標において既に満たされているものもあり、このアウトプットはほぼ達成されているが、エンドライン調査の結果から確定されることが期待される。

指標 1-1 国際標準に則ったカリキュラムガイドラインに沿った BNC/BSE 学士号プログラムが開発されている事実及び BNC/BSE 学士号プログラムが国際認定団体の認定条件を満たしている事実

SCIMS において新しい CS（コンピューター科学）/IS（情報システム）学士号コース（ソフトウェア工学及びネットセントリックコンピューティング）が 2011 年 7 月から提供されており、2012 年 6 月にオーストラリアコンピューター学会（Australian Computer Society : ACS）から仮認定を受けた。本指標は達成されている。

指標 1-2 グローバルトレンドセミナーに参加した講師やスタッフの 70%以上がセミナーの内容やレベルに満足している

既に 6 種類のグローバルトレンドセミナー「ソフトウェア品質保証」「ネットワーク工学」「ユーザーインターフェース及びユーザーを中心としたデザイン」「クラウド・コンピューティングとセキュリティ」「ソフトウェア・テストツール」及び「アンドロイド・プログラミングと ITIL」が開催された。アンケート調査の結果、全体的な満足度は 81.9%と高かった。一つのセミナーだけが 70%を下回った（67.5%）が、この数値は「満足した」と「とても満足した」だけを集計したものであり、「良かった」を含めるとほぼ 100%のレベルに達している。このため、本指標は達成されたと判断できる。

グローバルトレンドセミナーは新学士号プログラムの質の向上に役立っているため、アウトプット 1 に貢献していると考えられる。

【アウトプット 2】USP-Net が効率的に利用され、ITS のサービス提供が向上する

中間レビューにおいては、調達段階で遅延が認められたものの、本アウトプット中の大部分の活動の進捗には問題がなかった。本コンポーネントに関係するカウンターパートのうち、インタビューを受けたすべてのカウンターパートは、アウトプット 2 の進捗に満足していると回答し、プロジェクト終了までにアウトプット 2 を達成できると自信をもっていた。以下に述べる指標 2-1 から指標 2-5 に関する調査結果からもアウトプット 2 の達成見込みは高いと判断できる。

指標 2-1 USPNet の帯域利用効率が 2009 年と比較して上昇する/地方キャンパスの Moodle⁷にお

⁷ 質の高いオンライン学習過程（コース）をつくることを助けるオープンソースのパッケージソフト。

けるファイルダウンロードの速度が USP-Net アップグレード前と比較して 100%以上速くなる
インタビューした USP の学生たち（スバ本校及びトンガキャンパス）は全員、2010 年と比べて USP-Net は大きく改善したと述べていた。

アジア開発銀行（Asian Development Bank：ADB、インド政府拠出金）と JICA の協調により実現した iDirect 機材を設置してから、USP-Net のダウンロード速度は地方キャンパスにおいても大幅に改善された。

例 1：中間レビューにおいて、バヌアツでは、60～120 秒かかっていたものが 20 秒でダウンロードできるようになったというものから（ダウンロード速度 3～6 倍）、300 秒かかっていたものが 1 秒になった（ダウンロード速度 300 倍）という結果が得られている。

例 2：トンガのハーパイ離島ラーニングセンター及びババウ離島ラーニングセンターにおいて、Moodle にログオンすることさえも難しかった状況が、1 分でログオンできるようになり、3MB の PDF 教材を Moodle からダウンロードが可能となった。

例 3：トンガキャンパスにおいては、利用頻度の高いスタッフにインタビューしたところ、インターネット、Banner 及び Moodle において明らかに速度が改善されたとしており、プロジェクトによって供与された PCMA（ロードバランサー）装置を 2012 年 7 月に設置された前後で比較したところ、21%の速度改善がされており、この値は装置の調整が進めばさらに速度が速くなると考えられている。

以上の調査結果から、例 1、例 2 のように大幅に改善されたキャンパスもあるが、例 3 のようにすべての地方キャンパスで 100%以上の速度改善がなされているわけではないため、本指標は部分的に達成されたと評価できる。

指標 2-2 Ku-band がハブ（USP 本校）及び離島 USP ラーニングセンター9 カ所に設置されているという事実

ITS から 2 名のスタッフが直接当指標に関連のある本邦研修に 2011 年 2 月に参加した。調達は遅れがあったものの、現在では問題なく進んでいる。USP 本校に設置されたハブの Ku-band サテライトは問題なく動作しており、6 カ所の Ku-Band（トンガ 2 カ所、バヌアツ 1 カ所、ソロモン諸島 1 カ所、フィジー 2 カ所）は既に設置済みとなっており、残る 3 カ所（バヌアツ 1 カ所、ソロモン諸島 1 カ所、サモア 1 カ所）についても 2012 年中に設置が完了し、ネットワークに接続される予定となっている⁸。

このため、本指標はプロジェクト終了時までには達成される見込みである。

指標 2-3 70%以上のセミナー参加者（USP の IT 関係スタッフ）が ITIL の概念及び重要性を認識している

ITIL は、フィジーだけでなく、大洋州地域全体において新しい概念であるが、調査中にインタビュー及び質問票により回答した ITS スタッフは全員 ITIL の重要性を認識しており、今後も改善を継続していけるようコミットしている。ITIL に関連したワークショップもグローバルトレンドセミナー「アンドロイド・プログラミングと ITIL」を含め 5 回開催され、90%以上の参

⁸ JICA から供与された VSAT アンテナシステム数は 10 個で、指標に記載されていない 1 個は、本校のハブのほかに、co-location 設置してあるもの。これにより地方の運用状況（受信の事前情報）を得て素早い対処が可能となる。設置後安定運用が確認されるまで（通常 2 年間）システムをモニターすることになっている。

加者がセミナーが役に立っており、満足度が高いと評価する（「参加者アンケート調査の結果」）など、ITIL の概念が関係者内に広く認識されている。

ITIL 関連のソフトウェアの調達は完了し、既に活用されている。

「参加者アンケート」におけるセミナー満足度は非常に高いため、同指標は達成されることが考えられるが、ITIL の概念及び重要性を真に理解しているかという理解度を確認するためには、エンドライン調査によって定量的なデータを確定する必要がある。

指標 2-4 70%以上の利用者が ITS サービス提供が改善していると感じており、ITS カスタマーサービスに満足している

インタビュー及び質問票で回答したスタッフ、教員及び学生は、ITS スタッフによるサービス提供に満足しており、ITS は以前と比較してシステムティックに問題に対応していると感じている。

トンガにおける現地調査において、トンガキャンパス、ハーパイ離島ラーニングセンター及びババウ離島ラーニングセンターのスタッフ全員が、ITS のサービスデリバリーに満足していると述べた。

利用者の 70%以上が ITS サービスの改善を感じているかという定量的なデータはエンドライン調査で確定する必要があるものの、本調査で得た情報から調査団は、本指標は達成される見込みが高いと判断した。

指標 2-5 プロジェクトアクティブ・リスポンス・システム及びインシデント・マネジメント・データベース・システムが IT サービス提供を強化するために利用されている

ネットワークオペレーションセンター（Network Operation Centre : NOC）はネットワークで起こり得る問題を発見し警告するツールを開発しており、同ツールで集められた情報が主要なネットワークの問題を解決・防ぐために利用されることにより、カスタマー中心の IT サービス提供が強化されることが期待されている。

プロジェクトアクティブ・リスポンス・システムは既に確立されており、インシデント・マネジメント・データベース・システムは完了寸前で、カスタマー中心の IT サービス提供強化のために本プロジェクト終了までには実用化されることになっている。

このため、本指標は達成できる可能性が高い。

【アウトプット 3】遠隔教育において新 ICT 技術が活用され、推進される

ほぼ計画どおりに活動は実行されている。指標によっては既に達成されているものも多く、インタビュー及び質問票により回答したカウンターパートは全員、アウトプット 3 はプロジェクト終了までに達成できると述べていたことから、このアウトプットは達成される見込みである。

指標 3-1 Moodle を利用する遠隔教育提供科目の割合が 90%まで増加する/Moodle システムの安定性、利用性及び機能性が強化される

この指標は USP の重要業績評価指標（Key Performance Indicators : KPI）から採用されたものである。Moodle を利用する遠隔教育提供科目の割合は、2009 年 5 月には 41%であったが、2011 年 12 月には 85%まで増加しており、プロジェクト終了までには、目標値である 90%を達成で

きる見込みとなっている。

CFDL のスタッフの多くは、CFDL 外のスタッフにも公開されている日本人専門家によるワークショップが有効であり、Moodle 利用の効果的な方法を学ぶことで、本指標に良い影響を与えたとしている。

JICA は、ロードバランサー（PCMA）を導入した。同機材によって、サーバーの付加の平衡が改善され、Moodle システムの安定性、利用性、機能性の強化に役立ったため、Moodle を利用する遠隔教育提供科目増加に寄与したと考えられる。

指標 3-2 モバイル技術を利用した相互学生支援システムのパイロットプロジェクトが1件以上成功裏に実施される

ITS 内でモバイル技術の活用を検討している m-learning チームは、現在 6 件のプロジェクトを試行中であり、既に SMS（Short Message Service）ゲートウェイを提供し、学生支援の機能性が増加してきている。USP 副学長によれば、1,000 台のタブレット購入を含む 20 万 FJD を m-learning の開発に充てており、20 コースの Moodle の機能をタブレット上で提供するトライアルをサモアで 2012 年 8 月から開始することになっている。

m-learning のコンポーネントについては、PDM Version 1.0 ではモバイル技術を使ったかなり限られた内容であったところ、本指標は目標を上位とする改訂を行うなど、もともと考えられていたスコープを超えた達成が見込まれている。

FSTE 及び CFDL は m-learning の可能性を認識しており、本指標についても、調査団はプロジェクト完了までに達成できると判断した。

指標 3-3 70%以上の CFDL スタッフ及び教員は、遠隔教育法のワークショップに満足している/ワークショップの成果がコースデザインや開発に実践されている事実

インタビュー及び質問票で回答したスタッフ及び教員すべては、遠隔教育法のワークショップに満足していると回答した（ワークショップ参加者の満足度は 79%）。したがって、同指標の前半については、達成できたと考えられる。

PDM Version 2.0 改訂時に追加された後半の指標については、CFDL のスタッフや教員に関しては、同ワークショップの成果がコースデザインや開発で実践されていたため、達成できた。さらに、日本人専門家は、CFDL のスタッフや教員以外にも公開のワークショップを開催しており、大学教授や講師がワークショップで学んだ知識や技術をコースデザインや開発に利用している可能性はあるが、この点はエンドライン調査によって確定されるべきである。

【アウトプット 4】 Japan-Pacific ICT センターの運営方針及びサービスが確立される

「指標 4-2 ICT センターにおいて 4 回以上の広域 ICT イベントが開催される」及び「指標 4-4 広域 ICT 機関のための事務所スペースがすべて占有されている」は既に達成されている。

しかしながら、「指標 4-3 インキュベーションスペースが占有され、占有テナントが ICT から受けられるサービスや支援に対して満足している」の進行は遅く、「指標 4-1 ICT センターの運用計画が策定され承認された事実」については、新しく ICT センター長が採用されたため、新しいビジネスプランを策定している状況となっている。

新しいビジネスプランはまだ策定・承認されていないものの、それ以外の活動は開始されてお

り、評価団は、アウトプット 4 は達成されると判断した。

指標 4-1 ICT センターの運用計画が策定され承認された事実

中間レビューにおいて、既に達成されたと考えられていたが、新 ICT センター長の着任により、ビジネスプランの変更を余儀なくされている。大学の広いインプットをもって、一刻も早く新ビジネスプランを策定する必要がある。

この点は大学側も理解しており、ビジネスプラン策定を促進する意向である点が確認できたことから、本指標はプロジェクト終了までに達成される見込みであると判断した。

なお、同プランの策定の有無にかかわらず、これまでの運用方針に沿って日々の業務は滞りなく実施されており（実際、以下の指標 4-2 から指標 4-5 についてもおおむね順調な進捗をみせている）、現時点で本指標の未達成が ICT センターのサービス確立に及ぼす影響は限定的であると考えられる。

指標 4-2 ICT センターにおいて 4 回以上の広域 ICT イベントが開催される

「南太平洋 ICT 万博」「大洋州ネットワークオペレーターグループ第 9 回教育ワークショップ及び研修」「インターネットガバナンスフォーラム」「日本宇宙航空研究開発機構（JAXA）－JICA/JOCV－USP 教育イベント」及び「ICT 及びオセアニア文化に関する国際会議」など、既に 5 回の広域及び国際的な ICT イベントが ICT センターで開催されている。

本指標は達成されている。

指標 4-3 インキュベーションスペースが占有され、占有テナントが ICT から受けられるサービスや支援に対して満足している

この指標に関連する活動の進捗状況は思わしくなかった。

インキュベーションスペースは 3 スペースあるが、テナントは入居していない。しかしながら、ようやく賃貸契約・条件が整い、テナント選定が行われたため、間もなくインキュベーションスペースはすべて占有される予定となっている。問題は、プロジェクトの終了が迫っているために、ICT センターが提供するテナントへのサービスと支援の質を確実にすることが難しいことである。

プロジェクト完了前のエンドライン調査でテナントの満足度を検証することが望ましい。

よって、調査団は、本指標については、プロジェクト完了までに部分的に達成可能と判断した。

指標 4-4 広域 ICT 機関のための事務所スペースがすべて占有されている

ICT センターには、ICT 関連地域機関のために 4 オフィススペースが準備されており、PITA、太平洋島嶼国 ICT リソースセンター（PIRRC）、国際通信連合（ITU）及び PacCERT が入居した。PITA に関しては、ICT センターにオフィスを移動する以前から、ICT センターで ICT に関するトレーニングコースを開催している。PacCERT はプロジェクトを通して JPCERT/CC から支援を受け、発足した。

本指標を超えたインパクトとしては、4 つの ICT 広域事務所が終結したことで、情報共有や技術の共有が図られ始めていることである。

本指標は達成された。

指標 4-5 PacCERT が ICT センターに設立され、地域内にサービスを提供する基本的な体制が整う

サイバーセキュリティに関するセミナー及びパネルディスカッションが 2011 年 7 月の ICT EXPO で開催され、JPCERT/CC のプロジェクト専門家が PacCERT 設立の支援を開始している。IT セキュリティは大洋州でも重要な 이슈 として認識され始めており、2 年間常勤スタッフが決まらなかったために開始されなかったコンポーネントであるが、現在は遅れを取り戻すべく進行しており、JPCERT/CC のプロジェクト専門家及び PacCERT のスタッフも遅れを取り戻せると考えている。PacCERT 事務所の整備はおおかた終わり、マネジャーと技術スタッフが 2012 年 9 月、2 週間の本邦研修にて集中的なインシデント・ハンドリングとマルウェア分析を習得することで、基本的な業務をカバーすることができるようになると思われる。

本指標は、プロジェクト完了までに達成することが可能であると考えられる。

4-3 プロジェクト目標の達成度

【プロジェクト目標 1】魅力的な CS/IS コースが大洋州地域に提供される

【プロジェクト目標 2】USP の ICT サービス提供能力が強化される

いくつかの指標については、プロジェクト終了時の情報が必要であることから、調査団はエンドライン調査（2012 年 11 月中旬から 12 月上旬を想定）の実施を提案し、関係者の了承を得た。エンドライン調査において定量的に確定しなくてはならない指標があるものの、本調査結果としては、プロジェクト目標は、下記の理由によりプロジェクトが完了する前に達成できる見込みと判断した。

- ① ソフトウェア工学（Bachelor of Software Engineering : BSE）及びネットセントリックコンピューティング（Bachelor of Net-centric Computing : BNC）の二つの学士号プログラムが 2011 年 7 月（2011 年度後期）から提供されており、それぞれのプログラムに 12 名ずつ所属している。2012 年前期からは、BNC には 38 名、BSE には 44 名の学生が入学しており、オーストラリアコンピューター学会（Australian Computer Society : ACS）の認定が受けられたことによりさらに BNC と BSE 取得を希望する学生が増加すると考えられる。
- ② USP-Net がアップグレードされ、ICT サービス提供能力が強化されている。

指標 1. BNC/BSE 学士号プログラムが国際的な認定機関によって暫定的に単位認定された事実

BNC 及び BSE は両方とも暫定的に ACS に単位認定された。ACS はソウル協定に所属し、同団体で認められた単位は、英国、米国、カナダ、オーストラリア、香港、台湾、日本で単位が認められる。本指標は達成された。

指標 2. 80%以上の BNC/BSE 学士号プログラム在学生在が、同プログラムに満足している

2011 年後期の学生によるコースレビューでは、BNC/BSE 学士号プログラムに対する満足度は高い。また、ICT センター内にソフトウェア工学及びネットセントリックコンピューティングのラボが設置されることになっており、さらに学生の満足度が上昇することが見込まれてい

る。同プログラムは 2011 年後期から提供が開始されたばかりのプログラムであるため、エンドライン調査によって 2012 年の学生によるコースレビュー結果を確認する必要がある。よって本指標の達成度は未確認である。

指標 3. 70%以上の本校及びリージョナルキャンパス在学生在が、ICT を通じた教育サービスの提供に満足している

トンガのパバウ離島ラーニングセンター及びハーパイ離島ラーニングセンターでインタビューした学生は全員が、Ku-band が設置されてから USP-Net の接続が早くなり教育サービスが向上していることに対する謝意を表していた。

しかしながら、定量的に同指標を確定するために、エンドライン調査によって、ある程度調査対象の母集団を定めただけで、本指標の達成状況を検証する必要がある。よって本指標の達成度は未確認である。

指標 4. 70%以上の ICT センターの利害関係者及び利用者が ICT センターの施設やサービスに満足している。

ICT センターに対する関係者の期待は大きい。ICT センター利用者からは、ICT センター及び JICA の支援に対するポジティブなコメントが寄せられている。

ICT センターの主要な利用者として、科学技術環境学部（Faculty of Science, Technology and Environment : FSTE）学部長は、当初の計画よりもアクターが増えたため、スペースの問題はあるものの、ICT センターの機能に満足していると述べた。ACS が、2012 年 6 月に暫定的な単位認定を認めるかどうかを決めるために施設訪問した際に、新学部プログラムが ICT センター内で必要な施設を有すると認められたことも特筆に値する。

利害関係者及び ICT センター利用者の満足度を統計的に測る資料はなかったが、FSTE、PITA、PacCERT 等、インタビューに応じた利害関係者や利用者計 53 名は全員が、インタビューの結果 ICT センターの施設やサービスに満足していることが確認できた。しかしながら、本指標の達成度は未確認である。

4-4 上位目標の達成見込み

【上位目標】 USP が改善された ICT 環境を通じて、南太平洋地域の ICT 人的資源開発に貢献する

上位目標達成を検証するのは時期尚早であるが、プロジェクト目標と上位目標は密接に関係しており、プロジェクト目標が達成されれば、プロジェクト終了後 3 年から 5 年の間に達成する見込みは大きいと考えられる。

指標 3、4、5 及び 6 については、各指標について留意点を記述する。

指標 1. インタビューに応じた USP 卒業生の雇用者（民間及び政府）の 70%以上が（ICT 関連）スキルレベルに満足している

指標 2. インタビューに応じた BNC/BSE 学士号プログラムを修了した USP 卒業生の 80%以上が同コースに満足している

指標 3. BNC/BSE 学士号プログラムが国際的に単位認定されている事実

BNC/BSE 学士号プログラムの ACS における正式な単位認定は、最初の学生が卒業して 1 年たってからとなっているため、2017 年以降でなければ達成が不可能である。

指標 4. CS/IS プログラムの在籍者が 2010 年と比べて増加している

インタビューのなかで、本指標については、本プロジェクトの効果を測るためには、本プロジェクトにより 2011 年に開始された BNC/BSE の学生数に限るべきであるという意見も出された。ただし、本プロジェクトは、BNC/BSE コースの設立以外の活動も行っているため、BNC/BSE の学生数も確認するが、CS/IS プログラムの在籍者を指標とする必要がある。

指標 5. 学生数に対するコンピューター台数

コンピューター台数は客観的に ICT 教育環境がどの程度整備されているのかを示す指標としては分かりやすく、USP 側も本指標を非常に重要な KPI ととらえているため、本指標が設定されている。ただし、必ずしも「コンピューター台数の増加＝ICT 教育の質の改善」となるわけではなく、教員のスキルやカリキュラム等がより重要である点は留意すべきである。

指標 6. リージョナルキャンパスにおける学生数が 2010 年と比べて増加している

本指標の達成を検証するのは時期尚早であるが、トンガキャンパスの学生数は 2010 年と比較して増加しており、増加傾向が継続すると考えられる。

指標 7. 本校及びリージョナルキャンパスの学生の授業や教育サービス提供への満足度が 2012 年に実施されたエンドライン調査と同じか上昇している

4-5 実施プロセスの検証

(1) 活 動

プロジェクトは、コンポーネントによっては遅れたものもあるが、おおむね PDM 及び活動計画 (Plan of Operation : PO) どおりに、活動を実施している (同活動の内訳等については、付属資料「1. ミニッツ・合同評価報告書」の「Annex-3」を参照)。

(2) 技術移転の手法

本プロジェクトにおいては、本邦研修、OJT (On the Job Training)、長期・短期専門家によるセミナーやワークショップにより、技術移転を包括的にサポートしている。技術移転の手法に問題はみられず、カウンターパートをはじめとする関係者からの評価は高かった。

短期専門家から受ける支援への満足度もとても高かったが、ITS のシニアスタッフからは、プロジェクト第 1 期には、NOC と ITIL が別々の専門家によってハンドリングされていたが、第 2 期からは、同一の専門家が担当したことで、NOC が情報を収集し、ネットワークシステムから警告を出すのに対し、集められた情報や警告を使って ITIL フレームワークに則って問題を解決するというようにリンクがとられるようになったことが効果的であったという声があった。その他、新学士号プログラムについては、USP 側の人的資源が不足しているという側面があるという声があった。

(3) プロジェクト管理

プロジェクト管理に大きな問題はみられなかった。

プロジェクトは、2 カ月に 1 度プロジェクト関係者が集まる「プロジェクト・ミーティング」が 2010 年 10 月の第 1 回 JCC まで開催されていた。その後、プロジェクトは、プロジェクト関係者内での情報共有・交換の場をもつため、短期専門家の参加を含め、定期的もしくは一時的なミーティングへの参加によりプロジェクト管理を行っている（USP Net-Task Force 月例会合、ITIL ワーキンググループ月例会合、SCIMS 理事四半期会合、m-learning 会合、2012 国際会議運営委員会月例会合など）。

一般的に日本人長期専門家とカウンターパートの関係は緊密で、大学学部や支援部との間の仲介役としても機能している。しかし、新しいカウンターパートのなかには、USP カウンターパート及びプロジェクトチームとの関係がまだ強固となっていないカウンターパートが存在していた。

(4) プロジェクトに対する認識

インタビューした数名の学生を含むカウンターパートやターゲットグループにおいて、プロジェクトに対して特に USP-Net のコンポーネントの認識度が高かった。教育省のコンピューター教育の担当官は、バヌア・バラブ島のアディ・マオパ中・高等学校が Ku-band の設置を受けたこともあり、プロジェクトをよく認識していた。ICT に関する開発パートナー機関のなかでは、ITU、PIRRC、PITA 及び PacCERT が ICT センターに入居するなど、プロジェクトとの関係は密であるが、太平洋共同体（SPC）は、サイバーセキュリティは SPC の優先分野でもあり、PacCERT の理事会役員も務めるなど、プロジェクトの連携関係は強化されている。

(5) プロジェクト効果に影響した貢献要因

2010 年 6 月 16 日及び 17 日に、トンガで開催された ICT 大臣会合において、ICT センターは、域内機関である PacCERT、PIRRC、PITA、ITU の拠点とすること、USP と SPC は大洋州地域全体の ICT 開発のイニシアティブをとることが承認されたが、これにより、USP は、地域内の ICT 開発の主要な提供者として認識され、USP 内における ICT 開発に対するさらなるコミットメントを引き出した。また、実際に ICT センターが PacCERT、PIRRC、PITA 及び ITU の拠点となることが実現し、ICT 大臣会合と USP のコミットメントにより、強くポジティブな効果がプロジェクトの有効性に大きく影響した。

(6) プロジェクト効果に影響した阻害要因

ICT センター長の不在は、特にアウトプット 4 に負の影響を与えていると考えられていたが、プロジェクトスーパーバイザーをはじめとした努力により、多くの活動がカバーされている。新しい ICT センター長は 2012 年 1 月に着任し、ビジネスプランの策定、ビジネスインキュベーション及び地域機関の連携を担当している。

PacCERT については、約 2 年間、スタッフの給与を含む運営資金のめどがたたなかったこともありなかなか本格始動がなされていなかったが、JPCERT/CC の支援を受けた ITS ディレクターの努力もあり、理事会が発足した。3 年後の財政的独立を目標とする 5 年間の戦略ペ

ーパーが作成された。USP は理事長として、オフィススペースの提供及び3年間のスタッフの給与をカバーすることを決定している。PacCERT はすべての物事の決定にすべての理事会メンバーの合意が必要であるため、現状の理事会のシステムが必ずしもスムーズな運営を約束するものではない状況にある。

アウトプットレベルの外部要因として、「ITS、CFDL、SCIMS 及び ICT センターのカウンターパートが継続して USP に勤務している」が挙げられているが、2、3名の教授及び講師が最近になって辞職したため、残された教授や講師への負担が増している。BNC/BSE コースは ACS に仮単位認定をされているが、これには、教員のレビューや提供されている教育の質も含まれているため、教授や講師を失うことは、阻害要因となる可能性が否めない。

第5章 評価結果

本評価は、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）の観点により実施された（評価内容の詳細等については、付属資料「2. 評価グリッド」を参照）。

5-1 評価5項目ごとの評価

5-1-1 妥当性

下記の観点から妥当性は非常に高いと判断される。

(1) 大洋州地域政策との整合性

プロジェクトは、大洋州地域政策である「パシフィック・プラン」中の「大洋州地域デジタル戦略」と整合性がある。

「大洋州地域デジタル戦略」は、パシフィック・プラン中、大洋州フォーラム国の経済成長、持続的開発、グッドガバナンス及びセキュリティを促進するためのイニシアティブの一つである。同戦略には、通信技術アクセスの向上、コスト削減、グローバル ICT バックボーンとしての確立、投資拡大のため不適切な規制を解除すること、ICT スキル強化が優先課題となっている。

(2) USP 戦略計画との整合性

プロジェクトは、下記戦略計画と整合性がある。

- ① USP は、メンバー国の教育大臣及び太平洋諸島フォーラム（Pacific Islands Forum : PIF）、SPC からの代表で構成される大学評議会によって運営されているが、USP 「2020 年までの展望を示した最終報告書（The Final Report, A Regional University of Excellence : Weaving Past and Present for the Future, A Vision to the Year 2020）」のなかに、ICT 開発及び ICT 教育が含まれている。
- ② USP 戦略計画 2010-2012 のなかで、「2010 年までに大洋州島嶼国のなかで新しい ICT センターが建設され、それにより、域内メンバー国の情報技術のニーズに重大で持続可能な貢献をしていくことが可能となる」としており、戦略計画のなかには、ICT に関連する項目が含まれている。
- ③ USP は、現在、USP 戦略計画 2013-2018 を策定中となっているが、USP の副学長補によると、ICT 開発は USP 戦略のコアとも呼べるものであり、プロジェクトの妥当性は高くなることはあっても低くなることはない旨述べた。

(3) 日本側の援助方針との整合性

- ① 2009 年 5 月に北海道で開催された太平洋・島サミット（Pacific Islands Leaders' Meeting : PALM）において採択された「北海道アイランダーズ宣言」のなかで、「経済成長」「持続可能な開発」「良い統治」「安全確保」及び「人と人の交流～キズナ・プラン～」を支援策の柱とし、「持続可能な開発」の教育分野のなかで、「教員のキャパシティビルディングや、離島や地方部における教育機会の拡大のための支援」と「持続可能な社会の構築に向けて活躍する人材の育成」が挙げられており、特に前者

の「教員のキャパシティビルディングや、離島や地方部における教育機会の拡大のための支援」については、貢献対象として、USP が挙げられている。2012 年 5 月には PALM6 が開催され、ミレニアム開発目標（MDG）を達成するためにも保健や教育を含めた社会サービス提供により持続的開発と人間の安全保障を推進することの重要性を含めた「持続的開発と人間の安全保障」が大洋州諸国に対する支援の優先課題の一つであることが確認された。

- ② フィジー及び大洋州域内に対する国別援助方針は策定されていないため、対フィジー事業展開計画が対フィジー及び大洋州域内協力に関する JICA の支援の方向性を示している。現行の事業展開計画（2012 年 4 月版）では、優先課題としては、「環境/気候変動」及び「脆弱性の克服」とされており、「脆弱性の克服」のなかには、開発課題として、「大洋州地域の遠隔教育の強化」が挙げられており、本プロジェクトは、同開発課題中の「島嶼・遠隔地教育支援プログラム」下に位置づけられている。協力プログラムとしては、「無償資金協力により南太平洋大学の遠隔教育及びコンピューター教育の機材・施設を整備するとともに、ICT センターの活用を支援するため、技術協力プロジェクトにより、当該分野におけるキャパシティビルディングを実施する」と整理されており、日本側の援助方針と合致している。

（4）必要性及び手段としての適切性

上記（1）で述べたとおり、大洋州地域政策では ICT 分野を経済成長の柱としており、南太平洋地域の ICT 人的資源開発に寄与する本プロジェクトの必要性は高い。また、南太平洋地域では USP が ICT 教育の中核を担っている点や、わが国が ICT 分野の豊富な知見（技術開発、運用、教育、啓発等）を有する点を考慮すると、実施機関を USP に定め、CS/IS コースを設立するとともに、ICT サービス提供能力の強化を図る本プロジェクトは、手段としての適切性も高いと考えられる。

5-1-2 有効性

大部分のアウトプットは達成できる可能性が高く、進捗状況も着実である。いくつかのコンポーネントについては、部分的な達成となる可能性があるが、コンポーネントによっては予想を上回る効果を上げているものもあるため、有効性は比較的高いと考えられる。

（1）プロジェクト目標の達成度

「4-3 プロジェクト目標の達成度」にもあるように、プロジェクト目標の達成状況を測る指標の達成状況については、エンドライン調査において定量的な結果を確定する必要がある指標があるものの、プロジェクト目標は達成できると考えられる。

アウトプットの大部分は達成されており、「指標 1. BNC/BSE 学士号コースが国際的な認定機関により単位を認められる」においては既に達成されている。指標 2、3 及び 4 については、本調査範囲（遠隔キャンパスや BNC/BSE コースの学生や教員及び ICT センター関係者に対するインタビュー及び質問票調査、トンガキャンパス視察）においては満たされていることが確認できた。

また、無償資金協力によって設立された ICT センターを、より有効活用することを本プ

プロジェクトで促進できた点では、同案件との相乗効果が発揮できた。

(2) アウトプットとプロジェクト目標の関連性

4つのアウトプットのうち、アウトプット1、2及び3は、国際的認定を受けた修士コースを改善されたインフラを通じたより良いサービスによって提供することにつながっており、プロジェクト目標1「魅力的なCS/ISコースが大洋州地域に提供される」に直接関連している。コンテンツ、インフラ、サービスといったすべての側面を強化するためのアウトプットとなっており、目標1を達成するために十分であると判断できる。

また、アウトプット2、3及び4によって、改善されたインフラを通じてより良いサービスの提供が可能となるほか、ICTセンターを巻き込んだ幅広いサービス提供が可能となるため、プロジェクト目標2「USPのICTサービス提供能力が強化される」に直接関連している。日常的なインフラ運用の強化、Moodleやモバイル技術を活用した革新的なサービスへの取り組み強化、ICTセンターによる高等教育の枠を越えたサービス提供がそれぞれのアウトプットにより実現され総合的なICTサービス提供能力強化につながっており、目標2を達成するために十分であると判断できる。

(3) プロジェクトの進捗に影響を与えた貢献要因及び阻害要因の有無

プロジェクトの進捗に影響を与えた要因はいくつか存在する。貢献・阻害要因については、「4-5 実施プロセスの検証」に詳細を記した。

(4) アウトプットレベルの外部要因が満たされているか

大部分の外部要因は満たされているが、「4-5 実施プロセスの検証」の阻害要因にも記述があるとおり、アウトプットレベルの外部要因として、「ITS、CFDL、SCIMS及びICTセンターのカウンターパートが継続してUSPに勤務している」については2、3名の教授及び講師が最近になって辞職するなど、現在満たされていない状況にあり、プロジェクト目標達成の阻害要因とならないよう、USPが対応を急いでいる。

5-1-3 効率性

関係者の努力により大きな問題を生じさせることなくプロジェクトは進捗しているが、下記のように、専門家や機材の投入タイミングの遅れや外部要因の影響などは生じていた。このため、効率性は中程度であると判断する。

(1) アウトプットの達成レベル

ICTセンタービジネスプランが策定され承認されるという指標以外は、アウトプット達成を測る指標はおおむね達成されている。また、アウトプット達成状況から、個々の活動についても、アウトプットを産出するに十分なものであったと判断できる。なお、ビジネスプラン策定に関しては、ICTセンター長の人選に時間を要したことが主な要因であり、活動そのものは十分であったと考えられる。

(2) アウトプットを達成するための投入の質、量、タイミング、コスト

「4-1 投入実績」に述べられているとおり、大部分の投入は、その量・質・タイミングともに適切であり着実に実施されている。特にアウトプット3については、当初予定されていたよりも大きな成果を上げ、カウンターパートから高く評価されている。プロジェクト前半には、プロジェクトのチーフの派遣及び機材調達の遅れがみられたが、現在では解決している。

ICTセンター長不在問題に関しては、2012年1月にセンター長が着任し、ビジネスプラン策定、ビジネスインキュベーションと地域機関連携を担当している。コストについては、本プロジェクトの前案件である「南太平洋大学遠隔教育・情報通信技術強化プロジェクト」（2002年7月から2005年6月まで）と比較すると、同案件は約3.2億円の予算規模（長期専門家4名、短期専門家延べ27名、機材供与約9,700万円）であった。本プロジェクトと類似の活動もあるが、異なる活動もあるため単純比較は困難であるが、当時長期専門家4名を投入していたが、本案件では当時及びその後の無償資金協力等で培った実施機関との関係を基に、長期専門家2名という体制で実施できた点や無償資金協力でのICTセンターというリソースを有効活用するなど、コスト面でも効率的に活動が実施できた点は評価できる。

(3) 活動レベルの外部要因が満たされているか

活動レベルの外部要因である「カウンターパートのトップマネジメント（ITS、CFDL、SCIMS及びICTセンター）がプロジェクトに活発に参画している」については、一部満たされていないが、他のカウンターパートがフォローすることによってプロジェクトへの影響が最小限に抑えられている。

5-1-4 インパクト

プロジェクトの上位目標の達成の検証には時期尚早であるが、現時点のアウトプット達成状況から、上位目標「USPが改善されたICT環境を通じて、南太平洋地域のICT人的資源開発に貢献する」は達成できる見込みであると判断できる。理由は、「4-4 上位目標の達成見込み」に記載の事項に加え、現時点でネガティブなインパクトはみられず、既に下記3点のポジティブなインパクトが発現していることが挙げられる。

① USPのフィジー中高等学校への協力

アディ・マオパ中高等学校へのKu-band設置及びUSP-Netの提供が開始されているが、USPは、フィジーの公立中高等学校のe-learningをサポートすることが決まっており、本プロジェクトで技術が向上したカウンターパートにより、プロジェクトを超えた協力が開始されている。

② プロジェクトのターゲットグループを超えた裨益

- トンガのハーパイ離島ラーニングセンターはハーパイ中高等学校の敷地内にあるため、Ku-bandが設置されてから、USPの学生だけではなく、中高等学校関係者、政府関係者等が同センターを利用している。
- ICTセンターで開催されたセミナーやワークショップは、USPスタッフや学生に限らず、外部教育関係者〔フィジー国立大学（Fiji National University : FNU）のような他

大学関係者や中高等学校の教職者、学生」、ICT 企業スタッフや政府関係者等にも提供されている。

③ トンガキャンパスの学生数の増加

上位目標の達成指標の一つにある学生数の増加について、トンガキャンパス中、本島のトンガタブ本校及びババウ離島ラーニングセンターにおいては学生数が増加している。特にババウラーニングセンターについては、Ku-band 設置後、今までトンガタブ（本島）で就学していた学生が、トンガタブでしか受けられなかった講座やコースを同センターで継続受講することが可能になったため、地元（離島）に戻ったケースが多くみられた。

5-1-5 持続性（見込み）

以下の点で、持続性は高いと考えられる。

(1) 政治的、組織的な側面

パシフィック・プランの大洋州地域デジタル戦略や USP の 2020 年に向けたビジョン等の存在もあり、USP は ICT の発展及び教育に対する長期にわたる継続的なコミットメントが期待でき、信頼できるカウンターパートである。また、USP は地域の中核的高等教育機関になるとの特色を打ち出し、運営資金を拠出している加盟各国からの学生に対し、より良い教育をより利便性の高い手段で提供することに尽力している。履修者数が多く需要の高い学問領域（CS/IS を含む）における授業科目を充実させ、より多くの授業料収入を得ることも経営の観点から重要視し、それを実際に実行している。こうした大学の明確な運営方針から、USP は当該地域のデュアルモード（対面及び遠隔教育）の高等教育機関として存続していくことができると考えられる。

(2) 財政的な側面

USP はプロジェクトの効果持続に必要な供与機材の経常費用（C-band 及び Ku-band の衛星通信費用や ICT センターの電気代）、プロジェクトの活動に関連する費用（国際単位認定及び m-learning コンポーネントに係る費用）、及び ICT センター維持管理費用（ICT センター長を含む ICT センタースタッフの給与及び PacCERT スタッフの 3 年間の給与）に対する予算の手当て、確保を行っており、プロジェクト終了後もプロジェクトで実施されている活動を継続していくのに問題はないとしている。

(3) 技術的な側面

導入する ICT 関連技術、機材については、USP のマネジメント層も教育提供のためのツールとして認識し、大洋州地域の実情に合ったものを導入し、技術者も育成されている。そのため、プロジェクト終了後にメンテナンス技術不足などによって使われなくなるなどの問題は起きにくいと考えられ、プロジェクト終了後も活動を継続することに問題ないとするカウンターパートが大部分であった。しかしながら、カウンターパートのうち、何名か離職者が出たこともあり、技術面での持続性は組織面や財務面での持続性と比べると弱い。ただし、この点については、本プロジェクト当初から USP も専門家も認識しており、こうしたリスクを最初から勘案し、人材・技術面における自立発展性を確保するために、

システムとして持続的に機能するように配慮して本プロジェクトを運営してきている。

5－2 結 論

実績の検証、プロジェクトの実施プロセス及び5項目評価の結果、プロジェクトはプロジェクト期間内にプロジェクト目標を達成できると考えられる。したがって、R/Dで計画された予定期間のとおり、プロジェクトを終了することが適当である。

第6章 提言及び教訓

USPにおいて、専門家派遣を通じた技術支援を行っている日本に対するカウンターパートの信頼は非常に大きく、ICT分野においては、日本をリーディングドナーと位置づけており、今後も日本とパートナーシップを組んでいきたいという大きな期待がある。

韓国、中国、マレーシア等が大洋州におけるICT分野における支援に興味を示しているなか、大洋州地域におけるICTの中核を担っていくことが期待されている USP に対し、ICT センターを日本が支援している意味は大きく、今後も引き続き存在感を保つことを期待したい。

終了まで半年を切った本プロジェクトにおいて、プロジェクト終了までに実施する必要性がある活動に関する提言並びに、プロジェクト終了後にプロジェクト効果を持続させるために必要となる事項に関する提言及び本プロジェクト実施により得られた教訓を以下に記す。

6-1 提言

6-1-1 プロジェクト終了までに完了させることが必要な活動に関する提言

(1) ICT センタービジネスプランの策定 (USP 側・日本側プロジェクトチームに対する提言)

「アウトプット 4 : Japan-Pacific ICT センターの運営方針及びサービス体制が確立される」に係る活動の大部分は ICT センタービジネスプランなしで進められてきたが、ICT センターの方向性を確定するためにもビジネスプランを完成させることは重要であるため、プロジェクトスーパーバイザーを中心に対話と相互理解の下、早急にビジネスプランを策定することが望まれる。

開発パートナーからはビデオコンファレンスや他のファシリティの利用を希望する声がある。センター利用規定が策定されたため、ICT センターを持続可能な施設にしていくために必要な収入源確保に結びつくことが期待されている。

(2) 残りの Ku-band 設置の完了 (USP 側・日本側プロジェクトチームに対する提言)

インタビュー及び質問票に回答したカウンターパートの全員が、「指標 2-2 Ku-band がハブ (USP 本校) 及び離島 USP ラーニングセンター9カ所に設置されているという事実」がプロジェクト終了前に完了するのに問題ないとしている。Ku-band 衛星の設置による大きなインパクトを遠隔キャンパスや離島ラーニングセンターで確認したため、残る3カ所の Ku-band の設置をプロジェクト終了前までに必ず完了するよう提言した。

(3) エンドライン調査の実施 (JICA への提言)

プロジェクト目標の指標を達成しているかどうかについては、新学士号コースについては、学生の満足度が分かるデータがプロジェクト完了直前まで入手が難しいこと、(ある程度母集団を限定した) 定量的な追加調査が必要であるため、本調査にて確認した評価結果の確定のために、エンドライン調査を実施する必要がある。一部の指標では、調査対象が広い(全学生等)ため、適当なスケールを設定してエンドライン調査を行うよう提言した(エンドライン調査の詳細については、付属資料「1. ミニッツ・合同評価報告書」の「Annex-8」及び付属資料「4. エンドライン調査項目」を参照)。

6-1-2 プロジェクト終了後、プロジェクト効果を持続させるために必要となる事項に関する提言

(1) インキュベーションスペースのテナントに対する継続した支援（USP への提言）

ビジネスインキュベーションに係る活動が本格始動したのは、第Ⅱ期に入ってからであったが、ようやくインキュベーションスペースのテナントが選出された。ビジネスインキュベーションスペースを効果的で魅力的なものにするためには、USP がプロジェクト終了後もテナントに対する技術的・事務的な支援を提供し、テナントが有効なビジネスを軌道に乗せることができるようにその状況を確認し、総合的な支援を継続することが不可欠である。

(2) 高まりつつある友好・連携関係を正式な形にし、確固なものにする（USP、熊本大学、PacCERT 及び JPCERT/CC に対する提言）

本プロジェクトを通じて、熊本大学と CFDL、JPCERT/CC と PacCERT の連携が実現し、技術移転に大きな成果をもたらした。今後は、これらの連携がさらに深まるよう、組織間の MoU（覚書）の締結などを通じて連携関係を正式な形にすることによって関係強化を促進する必要があることを提言した。

(3) 学生へのサービス向上のため、ICT 施設への投資の継続（USP に対する提言）

Ku-band 導入により、リモートキャンパスの学習環境が飛躍的に改善されたことが確認された。しかし、これまでの C-band を活用しているキャンパスについては、さらなる環境の改善の声が聞かれた。今後、リモートキャンパスの学生の増加が期待されるため、引き続き、ICT 関連機材の改善が必要であることを提言した。

(4) プロジェクトによって発現した効果を地域内に拡大発展していく（USP 及び JICA に対する提言）

本プロジェクトでは、新しいプログラムの新設や Ku-band の導入をはじめとする遠隔教育のインフラ整備を行ってきたが、一部の取り組みはさらなる継続的な取り組みが必要である。JICA は、2000 年から本分野での支援を続けているが、その成果がようやく芽を出したばかりであるため、USP 及び JICA が引き続き、大洋州地域における ICT の発展をリードしていく必要があることを提言した。

6-2 教 訓

(1) 遠隔地支援の強調

本プロジェクトは、離島部における学習環境改善に大きな成果をもたらした。しかし、今回のトンガでの調査を通じて、さらなる改善のニーズがあることが分かった。大洋州のような隔離性の高い地域においては、遠隔地に住む直接受益者の意見を吸い上げて案件形成をすることが重要である。

(2) プロジェクト実施における相互理解・信頼醸成の重要性

相互理解や信頼醸成をプロジェクトの早期に築くことは、問題ができた際には、パートナ

一同士の協働により解決の糸口を早期に発見することが可能となる。

本プロジェクトにおいては、カウンターパートと直接のコミュニケーションを可能な限り行い、問合せにはできるだけ早く応対し、威圧的な態度を極力避けることを実践したことで、相互理解や信頼醸成を確固たるものにできた。このようなコミュニケーションの重要性は当然のことであるが、場合によっては忘れられやすいことでもあるため、必ず留意する必要がある。

付 属 資 料

1. ミニッツ・合同評価報告書
2. 評価グリッド（和文）
3. インタビュー概要及び質問票回答のまとめ
4. エンドライン調査項目

**MINUTES OF MEETING
AMONG
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY,
THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF FIJI
AND
THE UNIVERSITY OF THE SOUTH PACIFIC
ON
JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR
THE ICT FOR HUMAN DEVELOPMENT AND HUMAN SECURITY PROJECT**

The Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as “the Team”) organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) and headed by Mr. Yoshio Niizeki, visited the Republic of Fiji from Aug 1 to Aug 16, 2012 for the purpose of conducting a terminal evaluation of “The ICT for Human Development and Human Security Project” (hereinafter referred to as “the Project”).

During its stay in the Republic of Fiji, the Team evaluated the progress and achievement of the Project and had a series of discussions including Joint Coordination Committee (JCC) with the University of the South Pacific (hereinafter referred to as “USP”) and the Government of the Republic of Fiji (hereinafter referred to as “GoF”).

As a result of the discussions, the Team, USP and GoF agreed to the matters in the documents attached hereto.

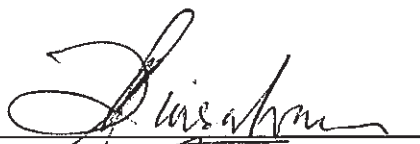
Suva, August 16, 2012



Mr. Yoshio Niizeki
Team Leader
Terminal Evaluation Team
Japan International Cooperation Agency
Japan



Dr. Esther Batiri Williams
Deputy Vice-Chancellor (A&RC)
The University of the South Pacific



Ms. Alumeci Tuisawau
Director, Curriculum Advisory Services /
Technical Vocational Education & Training
Ministry of Education, National Heritage,
Culture & Arts
The Republic of Fiji

ATTACHMENT

JOINT TERMINAL EVALUATION REPORT
ON
THE ICT FOR HUMAN DEVELOPMENT AND HUMAN SECURITY PROJECT

Suva, August 16, 2012

USP – Fiji - Japan Joint Evaluation Team

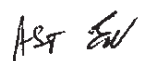


Table of Contents

Abbreviations

1. OUTLINE OF THE PROJECT	1
1-1 BACKGROUND OF THE PROJECT.....	1
1-2 SUMMARY OF THE PROJECT	2
2. OBJECTIVES AND METHODS OF THE EVALUATION.....	2
2-1 OBJECTIVES OF THE EVALUATION.....	2
2-2 METHODS OF THE EVALUATION	2
2-3 PROCEDURE OF THE EVALUATION	3
2-4 MEMBERS AND SCHEDULE OF THE TEAM	4
3. REVISION OF THE PROJECT DESIGN MATRIX (PDM).....	6
4. RESULTS OF THE EVALUATION	7
4-1 THE PROJECT PERFORMANCE	7
4-2 THE PROJECT IMPLEMENTATION PROCESS	19
4-3 FIVE EVALUATION CRITERIA	22
5. CONCLUSIONS AND RECOMMENDATIONS	27
5-1 CONCLUSIONS	27
5-2 RECOMMENDATIONS	27
5-3 LESSONS LEARNT.....	29


List of Annex

Annex-1:	Project Design Matrix (PDM) Version 2.0
Annex-2:	Evaluation grid with findings
Annex-3:	Plan of Operation (PO)
Annex-4:	List of Interviewees
Annex-5:	Input of USP side
	(1) Summary of USPs input
	(2) List of Counterparts
Annex-6:	Input of JICA's side
	(1) Summary of JICA's input
	(2) List of Experts
	(3) List of Trainings and Seminars
	(4) Provision of equipment
Annex-7:	JCC Participants' List
Annex-8:	List of the data/information to obtain at end-line survey




Abbreviations

ACS	: Australian Computer Society
ADB	: Asian Development Bank
BNC	: Bachelor of Net-centric Computing
BSE	: Bachelor of Software Engineering
CFDL	: Centre for Flexible and Distance Learning
C/P	: Counterpart
CS	: Computing Science
CS/IS	: Computing Science and Information Systems
DAC	: Development Assistance Committee
DFL	: Distance and Flexible Learning
FNU	: Fiji National University
FSTE	: Faculty of Science, Technology and Environment
ICT	: Information and Communication Technology
IS	: Information Systems
IT	: Information Technology
ITIL	: Information Technology Infrastructure Library
ITS	: IT Services
ITU	: International Telecommunication Union
JCC	: Joint Coordination Committee
JICA	: Japan International Cooperation Agency
JPCERT/CC	: Japan Computer Emergency Response Team/Coordination Centre
KPI	: Key Performance Indicators
MOE	: Ministry of Education
NOC	: Network Operation Centre
OECD	: Organization for Economic Co-operation and Development
OER	: Open Educational Resources
OJT	: On the Job Training
PacCERT	: Pacific Computer Emergency Response Team
PALM	: Pacific Islands Leaders Meeting
PCMA	: Paired Carrier Multiple Access
PDM	: Project Design Matrix
PIF	: Pacific Islands Forum
PIRRC	: Pacific ICT Regulatory Resource Centre
PITA	: Pacific Islands Telecommunication Association
PO	: Plan of Operation
R/D	: Record of Discussion



SCIMS : School of Computing, Information and Mathematical Sciences
SPC : Secretariat of Pacific Community
SPICTEX : South Pacific ICT EXPO
TFL : Telecom Fiji Ltd.
TVET : Technical and Vocational Education and Training
USP : The University of the South Pacific

CPM

ASA

1. Outline of the Project

1-1 Background of the Project

Since its establishment by 12 member countries in 1968, the University of the South Pacific (USP) has been a premier provider of tertiary education for the region. USP not only accepts students from member countries to the main campus in Suva but also provides distance education courses through its satellite communication system (approximately 40% of the 20,000 students took distance education courses, as of 2008). In 1998, Japan, in a coordinated effort with Australia and New Zealand, funded an improvement of USPNet facilities and the provision of equipment. The USPNet is a distance education network acting as a bridge between remote campuses, within 12 member countries, via a satellite communication system. There are relatively few tertiary education organizations in the Pacific islands nations and, for some member countries, USP is the sole tertiary education provider. Therefore, there is considerable expectation that USP will continue to provide effective distance education courses throughout the region.


In recent years, the network band of USPNet has reached overload, due to an increase in communications traffic and distance learning students' course work. The USPNet is a vital network for distance learners and needs to improve its performance. As only limited opportunities for face-to-face lectures are available at USP regional campuses, it is considered necessary to develop learning support systems for distance learning students, supported by mobile technology.

Demand is growing for human resources in Information and Communication Technology (ICT) in the Pacific region, and tertiary education organizations, including in Fiji, Australia and New Zealand, have started to compete in offering ICT related courses. If it wishes to remain as one of the best universities in the region, it is urgent that USP develop more professional ICT bachelor programmes in response to demand from the private sectors.

At the last ICT Ministerial meeting, held in Noumea in 2011, the USP was officially recognised to be a centre of ICT development for the region. It is now expected to offer ICT related courses to communities across the region, support incubation, and to provide additional services regarding ICT.

An ICT capacity building project was implemented between 2002 to 2005 covering the areas of Computer Science (CS), Distance and Flexible Learning (DFL), and IT Research and Training. Moreover, a Japan-Pacific ICT Centre construction was completed in September 2011 funded with Japanese Grant Aid, with the aim of strengthening the ICT related functions within USP. 'The ICT for Human Development and Human Security Project' commenced in February 2010 with a planned duration of three years. The project is expected to support not only educational aspects of the USP, but also to establish the ICT Centre as a core institution for ICT research, utilization and resource for the Pacific region.

The project is expected to be completed in January 2013, and a Terminal Evaluation



Team has been dispatched to evaluate the project.

1-2 Summary of the Project

1-2-1 Overall goal

USP contributes to the ICT human resources development in the South Pacific region through its improved ICT environment

1-2-2 Project purpose

- (1) Attractive CS/IS programmes are delivered across the region
- (2) USP's capacity to deliver ICT Services is enhanced

1-2-3 Outputs

- <Output 1> New internationally-accreditible BNC/BSE bachelor programmes are offered
- <Output 2> USPNet is efficiently used and ITS's service delivery is enhanced
- <Output 3> New ICT technologies are utilized and promoted in delivery of distance learning
- <Output 4> Operational policy and services of the Japan-Pacific ICT centre are established

2. Objectives and methods of the evaluation

2-1 Objectives of the evaluation

The main purpose of the evaluation is to examine if the project can achieve the project purposes before its end in January 2013. Actual inputs, activities and the implementation process will be reviewed and compared to the project purpose and output achievement levels and against the latest Project Design Matrix (PDM) and the Plan of Operations (P/O). Through sharing evaluation findings and discussion with the Joint Coordination Committee (JCC) a consensus on a direction for the remaining period of the project should be achieved.

2-2 Methods of the evaluation

Evaluation activities were conducted by the Joint Team (hereinafter referred to as "the Team"), which was composed of a Japanese Team and a Fijian Government and USP Team. These activities included reviewing project documents, such as, the Record of Discussions (R/D), the latest PDM (Annex-1), the PO and progress reports, and minutes of meetings, a questionnaire survey, interviews and discussions with officials/staff members of

the USP and parties concerned. It also should be noted that a site visit to Tonga was included within the survey to examine the level of impact created by the Project for the benefit of remote campuses and centres. The Team analysed the collected data based on the examination of the project performance and implementation process, and five evaluation criteria listed in the following table.

(1) Examination of the project performance and implementation process

Examination of the project performance	<ul style="list-style-type: none"> • Were the inputs implemented as planned? • Were the outputs produced as planned? • Will the project purpose be achieved? • Is there any prospect that the overall goal will be achieved?
Examination of the project implementation process	<ul style="list-style-type: none"> • Were activities implemented as planned? • Were there any problems in the method for technology transfer? • Were there any problems in the project management system? (i.e. monitoring, communication within the project, etc.) • Does the project have a high recognition level within implementing organizations and counterpart organizations? • Did any problems occur during the process of implementing the project, or any other factors that influenced effectiveness?

(2) Five evaluation criteria

Items	Review points
Relevance	Relevance of the Project is reviewed by the validity of the Project Purpose and Overall Goal in connection with the regional development policy and the needs of the target groups and/or ultimate beneficiaries in the Pacific Region.
Effectiveness	Effectiveness is assessed to what extent the Project has achieved its Project purpose, clarifying the relationship between the Project Purpose and Outputs.
Efficiency	Efficiency of the Project implementation is analysed with emphasis on the relationship between Outputs and Inputs in terms of timing, quality and quantity.
Impacts	Impact of the Project is assessed in terms of positive/negative, and intended/unintended influence caused by the Project.
Sustainability	Sustainability of the Project is assessed in terms of institutional, financial and technical aspects by examining the extent to which the achievements of the Project will be sustained after the Project is completed.

2-3 Procedure of the evaluation

- (1) To review and analyse progress of the project including, the appropriateness of inputs and the level of achievement of project objectives and outputs.
- (2) To examine and agree upon evaluation questions, and create an Evaluation Grid in accordance with five evaluation criteria (Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impacts and Sustainability).
- (3) To evaluate and analyse the project based on the results of a questionnaire, site visits and interviews with concerned parties, with the goal of creating a comprehensive

evaluation report.

- (4) To inform the Fijian, USP and Japanese sides of the results of the survey, and to sign a Minutes of Meeting (M/M) after both parties have agreed upon the results.

2-4 Members and schedule of the Team

2-4-1 Japanese Team

Name	Designation	Title and Affiliation
Mr. Yoshio NIIZEKI	Leader	Senior Advisor (ICT, Knowledge Management) Japan International Cooperation Agency (JICA)
Mr. Kentaro YOSHIDA	Cooperation Planning	Assistant Resident Representative Fiji Office Japan International Cooperation Agency (JICA)
Mrs. Atsuko ORIMOTO	Evaluation Analysis	Consultant, Japan Development Services Co., Ltd.

2-4-2 Fiji and USP Team

Name	Designation	Title and Affiliation
Mr. Joshua Loco	Member	Education Officer for Computer Education, e-learning, and distance learning projects, Technical Vocational Education & Training, Ministry of Education
Ms. Sera Kogure Vada-Pareti	Member	Kizuna Project Coordinator, Office of the Deputy Vice-Chancellor (Administration & Regional Campuses), The University of the South Pacific

2-4-3 The schedule of the evaluation

Date		Activities
1 Aug.	Wed.	<ul style="list-style-type: none"> Consultant member arrived at Suva Visiting JICA Fiji Office
2 Aug.	Thurs.	<ul style="list-style-type: none"> Meeting with a representative from PacCERT Meeting with the Director of ICT Centre Meeting with a Project counterpart (Dean of FSTE) Meeting with a Project counterpart (Ag. Director of CFDL) Meeting with an executive from a private company (Software Factory)

Date		Activities
		<ul style="list-style-type: none"> Meeting with project counterpart (Senior lecturer of SCIMS) Meeting with a project expert
3 Aug.	Fri.	<ul style="list-style-type: none"> Meeting with the Acting CEO of TFL (and the President of PITA) Visiting a Joint Evaluation Member (Ministry of Education) Meeting with Project counterparts (ITS) Meeting with Project counterparts (SCIMS) Meeting with a project expert
4 Aug.	Sat.	<ul style="list-style-type: none"> Preparation for the survey in Tonga and the Evaluation Report An evaluation member moves to Tonga
5 Aug.	Sun.	<ul style="list-style-type: none"> Preparation for the survey in Tonga and the Evaluation Report
6 Aug.	Mon.	<ul style="list-style-type: none"> An evaluation member moves to Tonga
7 Aug.	Tue.	<ul style="list-style-type: none"> Meeting with the Director of Tonga Campus Meeting with Staffs of Tonga Campus Group discussion with students Evaluation members moved to Vava'u
8 Aug.	Wed.	<ul style="list-style-type: none"> Meeting with a project counterpart (ITS Director) Leader of the evaluation team joined the team. Meeting within Japanese Team Site visit and survey (Vava'u Learning Centre) Interview with the coordinator of the centre and a staff from ITS Tonga Group discussion with students Meeting with a project expert
9 Aug	Thurs.	<ul style="list-style-type: none"> Site visit and survey (Ha'apai Learning Centre) Interview with the coordinator of the centre Group discussion with students Moved to Tongatapu
10 Aug	Fri.	<ul style="list-style-type: none"> Site visit and survey (USP Tonga campus) Courtesy call to the Embassy of Japan in Tonga Moved to Suva
11 Aug.	Sat.	<ul style="list-style-type: none"> Preparing evaluation report and the Minutes of Meeting
12 Aug.	Sun.	<ul style="list-style-type: none"> Preparing evaluation report and the Minutes of Meeting
13 Aug.	Mon.	<ul style="list-style-type: none"> Meeting with Acting Vice-Chancellor and President of the USP / Project Supervisor Courtesy call to the Director of ICT Centre Meeting with a representative from SPC Courtesy call to the Embassy of Japan in Fiji
14 Aug.	Tue.	<ul style="list-style-type: none"> Meeting with project experts Joint Evaluation Meeting

Date		Activities
15 Aug.	Wed.	<ul style="list-style-type: none"> Site visit (ICT Centre) Finalising the Joint Evaluation Report
16 Aug.	Thurs.	<ul style="list-style-type: none"> JCC meeting Presentation of the evaluation report Signing of the Minutes of Meeting Meeting for the applied project Moving to Nadi
17 Aug.	Fri	<ul style="list-style-type: none"> Leaving Fiji

3. Revision of the Project Design Matrix (PDM)

The Project Design Matrix (PDM) for the Project was revised and formally approved by the JCC on the 2nd of December 2011; thus, this latest version of the PDM was confirmed as the PDM Version 2.0.

Major changes are described in the following table:

Outputs		
Indicator 2-5	Ver 1	-
	Ver 2	The fact that proactive response system and incident management database system are utilized to enhance customer-centred IT services delivery
Indicator 3-1	Ver 1	Percentage of Moodle-assisted courses (Baseline: 41% Target: 90%)
	Ver 2	Percentage of Moodle-assisted courses increases to 90%; The fact that reliability, availability and performance of Moodle system are considerably enhanced
Indicator 3-1	Ver 1	The fact that the trial of student support system using mobile technology is conducted
	Ver 2	At least 1 interactive m-learning pilot project is conducted successfully
Indicator 4-2	Ver 1	Contents of Community/professional courses offered in ICT Centre Number of Community/professional courses offered in ICT Centre Evaluation of courses by participants (Satisfaction Rate)
	Ver 2	<i>Dropped</i>
Indicator 4-5	Ver 1	<i>It was included in Indicator 4-4.</i>
	Ver 2	PacCERT is established at the ICT Centre and equipped to fill the basic requirement to provide services to the region
Project Purpose		
Ver 1	1. Attractive CS/IS and/or other ICT related courses are delivered across the region. 2. ICT related facilities in the USP are enhanced.	
Ver 2	1. Attractive CS/IS programmes are delivered across the region 2. USP's capacity to deliver ICT Services is enhanced	
Overall Goal		
Ver 1	1. USP contributes to the ICT human resources development in the South Pacific region. 2. ICT related learning environment in the USP is improved.	
Ver 2	USP contributes to the ICT human resources development in the South Pacific region through its improved ICT environment	
Target Groups		
Ver 1	Information Technology Service (ITS), Centre for Flexible and Distance Education (CFDL), and School of Computing, Information and Mathematical Sciences (SCIMS), Japan-Pacific ICT Centre	

Gm

AST

Ver 2	Students and Staff of School of Computing, Information and Mathematical Sciences (SCIMS), Staff of Information Technology Service (ITS), Staff of Centre for Flexible and Distance Learning (CFDL), Staff of Japan-Pacific ICT Centre (incl. PacCERT)
-------	---

Apart from the alternations mentioned on the table; other minor changes were undertaken to alter indicators to be more easily verifiable, the separation of indicators where several indicators were combined as a single indicator, and to rephrase some English sentences.

4. Results of the evaluation

4-1 The Project performance

4-1-1 Input

(1) Japanese side

The Team considers that overall inputs by the Japanese side have been appropriate both in quantity and timing. Although a delay in the arrival of the Chief Advisor (seven months delayed) may have indirectly affected the progress of some activities during the first half of the Project through the combined efforts of both the USP counterparts and Japanese team, the Project seems to have overcome any negative impacts.

A summary of inputs by the Japanese side is as follows. Details of the inputs are shown in the Evaluation Grid (Annex-2) and the inputs from the JICA side (Annex-6).

Inputs by the Japanese Side, Planned and Actual

Plan (as per R/D of October 2009)	Actual (as of July 2012)
<u>Teams of experts</u> Long Term Experts One (1) Chief Advisor One (1) Project Coordinator / Computer Network Short Term Experts Numbers, duration, and expertise were not specified	<u>Teams of experts</u> Long Term Experts One (1) Chief Advisor (Assigned from September 2010 and works nine (9) months per year. The contract is divided into two phases: September 2010 to March 2012 and April 2012 to January 2013) One (1) Project Coordinator / Computer Network Short Term Experts: Experts from PADECO Co., Ltd., Kumamoto University, and JPCERT/CC were dispatched in various expertise. Details and timings for the dispatches were confirmed between the short-term experts and respective counterparts after consideration of other aspects of the project such as equipment, USP schedules, etc. PADECO's contracts for the Project are divided into two phases: February 2010 to August 2011 and October 2011 to January 2013. (1) Kumamoto University Two (2) Distance Learning Pedagogy

Plan (as per R/D of October 2009)	Actual (as of July 2012)
	<p>(2) JPCERT/CC Four (4) Information Security (CERT)</p> <p>(3) PADECO 1st Phase One (1) Team Leader/ITIL/Software Engineering(SE) One (1) Evaluation (Education) One (1) Curriculum Advisor(SE)/Mobile Technology One (1) Curriculum Advisor (Net-centric Computing / Satellite Network) One (1) Evaluation (IT) / Network Monitoring System / Network Engineering One (1) Incubation 1 One (1) Incubation 2 / Deputy Team Leader</p> <p>(4) PADECO 2nd Phase One (1) Team Leader / Incubation 1 One (1) ITIL/Network Monitoring System / Network Engineering One (1) Curriculum Advisor for SE / Mobile Technology One (1) Curriculum Advisor (Net-centric Computing) / Satellite Network One (1) Software Engineering One (1) Incubation 2</p> <p>(5) ICT experts for International Conference on Information and Communications Technologies and Oceanian Culture Five (5) ICT and Culture (Professors from Digital Hollywood University, Keio University, Kyoto University)</p> <p>(6) JDS Co., Ltd. One (1) m-learning expert (planned)</p> <p>(7) AS Engineering One (1) OER expert (planned)</p>
<p><u>Equipment and materials</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - Necessary equipment for enhancing bandwidth efficiency of the USPNet (WAN Optimizers for Main Campus and Regional Campuses, and Network Equipment) - Other equipment would be provided if necessary upon mutual agreement 	<p><u>Equipment and materials</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - Total 46 items Mainly satellite related and USPNet equipment including Ku-band, computers and other equipment for the ICT Centre. <p>Actual expenses to date: Approx. 887,183 (FJD)¹ (See Annex-6)</p>
<p><u>Trainings</u></p> <p>Not specified</p>	<p><u>Trainings</u> (See Annex-6)</p> <ul style="list-style-type: none"> - A total of eight (8) persons had been trained on courses in Japan². Two (2) will be taking courses in Japan in September 2012. - A total of 18 seminars/workshops (one day to six days) were held, and series of seminars and symposiums were provided in two major USP events (SPICTEX 2011 and International Conference). Over 1,280 participants attended the trainings/seminars in Fiji. - Seven (7) seminars/workshops in regards to

¹ 1USD=1.79FJD, 1JPY=0.02284FJD (11 August, 2012, CoinMill.com-The Currency Converter)

² One trainee is for long-term training (taking post-graduate degree in Kumamoto University), and others are short training courses.

Ym

MS

Plan (as per R/D of October 2009)	Actual (as of July 2012)
	m-learning, OER, Distance Learning Pedagogy, and incubation, are planned to be held before the completion of the Project.
<u>Operational cost</u> Not mentioned	<u>Operational cost</u> (Utility, internet connection, etc.) Actual expenses as of June 2012: 62,987 (FJD) (See Annex-6)

(2) USP side

The Team considers that overall inputs by the USP side have been appropriate both in quantity and timing. The position of the Director of the ICT Centre has been finally filled with the Director being assigned in January 2012. Currently, the Director of the ICT Centre is in charge of the incubation and networking with the regional organisations.

A summary of inputs by the USP side is as follows. Details of the inputs are shown in the Evaluation Grid (Annex-2) and the inputs from the USP side (Annex-5)

Inputs by the USP Side, Planned and Actual

Plan (as per R/D of October 2009)	Actual (as of July 2012)
<u>Human resources</u> Project Management One (1) Project Supervisor One (1) Project Director Four (4) Project Leaders (CS/IS Education, USPNet/IT Services and Support Delivery, Distance Learning, and ICT Centre) Technical Counterparts - Professor(s)/Lecturers, SCIMS - Staff of the System and Network, ITS - Staff of the User Services, ITS - Staff of the Project & Regional, ITS - Staff of the Course Design and Development, CFDL - Staff of the Japan-Pacific ICT Centre Other support staff including administrative, business, finance, human resources, marketing staff and secretaries mutually agreed upon necessary.	<u>Human resources</u> Project Management One (1) Project Supervisor One (1) Project Director ³ Four (4) Project Leaders ⁴ Technical Counterparts - Professor(s)/Lecturers, SCIMS - Staff of the System and Network, ITS - Staff of the User Services, ITS - Staff of the Project & Regional, ITS - Staff of the Course Design and Development, CFDL - Staff of the Japan-Pacific ICT Centre - Staff of PacCERT (See Annex-5)

³ Professor of CS/IS and Director of the ICT Centre resigned in early 2010, and the most of the time Project Direct has been vacant.

⁴ The Head of SCIMS changed several times, and the Dean of FSTE continuously assisted the component of the CS/IS education and ICT Centre.

gm

sal R55

Plan (as per R/D of October 2009)	Actual (as of July 2012)
<u>Facilities</u> - Essential facilities for the implementation of the Project - Office space and other necessary furniture and facilities for Japanese experts in USP - Facilities, Utilities and Services such as electricity, water supply, sewage system, telephones, internet and furniture necessary for the Project activities - Other facilities mutually agreed upon as necessary	<u>Facilities</u> - Two office spaces were allocated for Japanese expert team, and the utilities costs have been covered. 13,620 (FJD) (See Annex-5)
<u>Expenses</u> Expenses necessary for the implementation of the Project (Not specified)	<u>Expenses</u> The USP committed to the operational cost of the ICT Centre. Additionally, there will be a recurrent rental fee for the Ku-band satellite transponder and the costs associated with the establishment of the remote site. 640,190 (FJD) (See Annex-5)

* ICT Centre's Staff Costs per year is approximately 493,000 FJD

** ICT Centre's Non-Staff Operation Costs per year is approximately 604,100 FJD

4-1-2 Output

The Team confirmed that, to date, overall progress towards attainment of outputs has been adequate with some outputs having already fulfilled their indicators in accordance with the latest PDM (Version 2.0, 2 December 2011). However, there remain some indicators that will require verification in the end-line survey (details described in the relevant paragraph below).

<Output1> New internationally - accreditable BNC/BSE bachelor programmes are offered.

New BNC/BSE bachelor programmes have been offered and provisionally accredited by the Australian Computer Society (ACS) from June 2012. This output has been attained.

Output 1 was altered to achieve a higher goal during the last revision of the PDM, since it had already been attained at the time of the mid-term review.

Indicator 1-1. The fact that the BNC/BSE bachelor programmes are developed complying with the international standard curricula guidelines;

The fact that the BNC/BSE bachelor programmes are developed complying with the requirements of an international accreditation body.

Two new bachelor degree programs, the Software Engineering and Net-Centric Computing, have been offered from July 2011, and provisionally accredited by the

ACS in June 2012. This indicator is accomplished.

Indicator 1-2. More than 70% of lecturers and staff participated to the global trend seminars are satisfied with the contents and the level of the seminars

There have been 6 global trend seminars held to date; including, 'Software Quality Assurance', 'Network Engineering', 'User-Interface and User Centered Design (UI&UCD)', 'Cloud Computing and Security', 'Software Testing Tools', and 'Android Programming and ITIL'. The satisfaction levels for seminar participants was high with an average satisfactory rate of 81.9%. Only one global trend seminar fell under 70% (67.5%); however, this result included only 'Satisfied' and 'Very Satisfied' responses, and if it was to include 'Good' results a level of 100% satisfaction would be achieved. Details of the satisfaction rate and findings are shown in the Evaluation Grid (Annex-2).

It was explained that the series of global trend seminars were integral within improving the quality of the courses of the new bachelor's programmes; therefore these have been instrumental in achieving Output 1.

<Output 2> USPNet is efficiently used and ITS's service delivery is enhanced.

At the time of the mid-term review, there remained delays within the procurement process; however, most activities under this output are now proceeding well. All the C/Ps expressed satisfaction with the progress of Output 2, and were confident that Output 2 would be attained before completion of the Project.

Indicator 2-1. USPNet bandwidth utilization efficiency is optimized compared to 2009;

File download speed from Moodle at regional campus improves at least 100% compared to before USPNet upgrade

All students interviewed in the Mid-Term Review (Laucala Campus and Tonga Campus) agreed that USPNet had greatly improved since 2010. After the iDirect equipment was set up, jointly funded by the Indian Government through Asian Development Bank (ADB) and JICA, download speeds with USPNet were enormously improved, even at the remote campuses. This indicator has most likely been accomplished at campuses and learning centres where the USPNet upgrades have been taken place; as it is stated below:

- (1) At the time of Mid-term Review, it was reported that there was vast reduction in download times from Moodle within the USPNet, ranging from, 60-120 seconds to 20 seconds (smallest reduction in time) to 300 seconds to 1 second (biggest reduction in time) in Vanuatu.

- (2) In Ha'apai Learning Centre and Vava'u Learning Centre in Tonga, it was almost impossible to log-on to Moodle, however, it was reported that now it only took less than 1 minute to log-on and browse a 3MB PDF course material from Moodle.
- (3) Most staff members of USP Tonga Campus expressed there was noticeable change in the speed for the Internet, Banner and Moodle. Recently PCMA equipment was introduced (August 2012) and the average total throughput gained 21% (8,540kb/s to 10,824kb/s) compared to July 2012 (one month ago). Currently PCMA is functioning with minimum settings and it is expected the further gains after tuning once the network is stabilized..

Indicator 2-2. The fact that Ku-Band are established in the hub (USP main campus) and 9 remote USP learning centres

Two staff from ITS undertook a training course in Japan directly related to this issue in February 2011. The hub for the Ku-band satellite at Laucala campus is operational and Ku-Band satellites for six (two in Tonga, one in Vanuatu, one in Solomon Islands, and two in Fiji) out of nine remote sites have been established. It is expected that by later this year the remaining three sites (one in Vanuatu, one in Solomon Islands, and one in Samoa), will be connected to the network. This indicator will be accomplished.

Indicator 2-3. More than 70% of seminar participants (USP IT related staff) acknowledge the concept of ITIL and its importance

ITIL is a new concept, not only in Fiji but within the Pacific region; however, all ITS staff who were interviewed or responded to the questionnaires, acknowledged the importance of ITIL and were committed to progress further. An ITIL workshop for stakeholders has been held and the concept of ITIL has begun to be more widely acknowledged. There have been five ITIL related seminars, including 'Android Programming and ITIL' as a global trend seminar, and more than 90% of the participants, who returned the questionnaire, rated the seminars were good, satisfactory or very satisfactory.

The procurement process for software in relation to ITIL has been completed.

This indicator will most likely be accomplished; however, finalized data will need to be reported in the end-line survey.

Indicator 2-4. More than 70% of users recognize improvement of ITS services delivery compared to before the project and are satisfied with ITS services delivery

All staffs, faculties and students interviewed and answered the questionnaire were



satisfied with the services delivered by ITS staff and understood how ITS operates more systematically.

During the site visit in Tonga, all staff members of Tonga Campus, Ha'apai Learning Centre and Vava'u Learning Centre, expressed their gratitude on ITS service delivery.

This data will be obtained in the end-line survey, however, the Team considers that this indicator will most likely accomplished.

Indicator 2-5. The fact that proactive response system and incident management database system are utilized to enhance customer-centred IT services delivery

The NOC has developed a tool to detect and alert for possible trouble on the network. It is hoped that this collected information can be utilised effectively to solve and prevent major network problems. It is expected that this will be utilised fully within the ITIL framework, and thereby customer-centred IT service delivery will be enhanced.

A proactive response system has been established, and an incident management database system are about to complete to be utilised to enhanced customer-centred IT services delivery.

This indicator will most likely accomplished.

<Output3> New ICT technologies are utilized and promoted in delivery of distance learning.

Most activities have been carried out as planned. Some of the indicators have already been attained and all counterparts interviewed, or who answered the questionnaire, were confident that Output 3 would be attained fully before completion of the Project.

**Indicator 3-1. Percentage of Moodle-assisted courses increases to 90%;
The fact that reliability, availability and performance of Moodle system are considerably enhanced**

As of May 2009, only 41% of courses were Moodle-assisted courses. This indicator was adopted from USP's KPI. The latest USP statistics show that, at the second semester of 2011, the number of Moodle-assisted courses reached 85%. The Team considers that 90% will most likely be accomplished before completion of the Project.

Many USP counterparts commented that the workshops held by Japanese experts were open to non CFDL staff, and that this had helped some professors and

lecturers learn effective ways to utilise Moodle, and had thereby positively affected this indicator.

JICA has provided a load balancer and a set of Moodle servers for redundancy. According to CFDL technical staff, these equipment has greatly contributed towards balancing out the servers, leading to the Moodle system being stabilised and increasing its reliability, availability and performance; thus it has indirectly contributed increasing the numbers of Moodle-assisted courses.

Indicator 3-2. At least 1 interactive m-learning pilot project is conducted successfully.

The united m-learning team is currently working on six projects and has set up SMS gateway which is providing increased functionality. The Vice Chancellor & President has approved an allocation of 200,000 FJD funding for m-learning, including funds to purchase 1,000 tablets, and the m-learning team is planning to implement trials on utilising some of the Moodle functions on 20 courses. Furthermore, a pilot project to utilise m-learning systems via smart tablet devices (Apple iPads) in Alafua Campus, Samoa is expected to start from August 2012. The scope of m-learning in the former PDM (PDM Version 1.0) was limited to implement a trial of the student support system using mobile technology, and this indicator exceeded what was originally expected.

Both FSTE and CFDL recognised the great potential for m-learning, and the Team is confident that this indicator will be accomplished before completion of the Project.

Indicator 3-3. More than 70% of CFDL and concerned faculties staff are satisfied with the workshops on distance learning pedagogy;

The fact that the outcomes of workshops were implemented into course design and development

All CFDL staff and faculties who were interviewed, or responded to the questionnaire, were satisfied with the workshops on distance learning pedagogy. The satisfaction level of workshop participants was high with the average satisfactory rate being 79%. Details for the satisfactory rate and findings are shown in the Evaluation Grid (Annex-2). Therefore, the team consider that the first part of indicator 3-3 has been attained.

An additional indicator has been included within this indicator. As was stated in *Indicator 3-1*, the workshops held by Japanese experts were open to non CFDL staff and faculties, and it is possible that some professors and lecturers may apply the knowledge and techniques learnt in the workshops to course design and

development. However, this indicator should be further verified within the end-line survey.

<Output4> Operational policy and services of the Japan-Pacific ICT Centre are established.

'Indicator 4-2. More than 4 regional ICT events are held to showcase the ICT Centre' and 'Indicator 4-4. All office spaces for regional ICT organizations are occupied' had been accomplished. However, 'Indicator 4-3. All incubation spaces are occupied and all the tenants are satisfied with the services and assistance from the ICT Centre' has progressed slow and 'Indicator 4-1. The fact that the ICT Centre business plan is developed and approved' had to be restarted again since the Director of the ICT Centre had newly recruited.

A new ICT Centre business plan has not been finalized and approved, however, most activities under this output have commenced, and the Team considers that Output 4 will be attained.

Indicator 4-1. The fact that the ICT Centre business plan is developed and approved

The team considered that this indicator had been accomplished prior to the Mid-Term Review. However, it was thought necessary to alter ICT Centre business plan, since the Director of ICT Centre had newly recruited this year. It will be necessary to finalise a business plan urgently with university wide input.

Indicator 4-2. More than 4 regional ICT events are held to showcase the ICT Centre

Five regional or international ICT events have been held at the ICT Centre, such as, 'South Pacific Information & Communications Technology Exposition (SPICTEX2011) (July 2011)', 'Pacific Network Operators Group (PacNOG) 9 Educational Workshop and Training (June 2011)', 'Internet Governance Forum (IGF) (July 2011)', 'Japan Aerospace Exploration Agency (JAXA) – JICA/JOCV – USP In-Flight Education Event, Live Q&A Session with Astronaut in International Space Station (ISS) for Suva Sangam College and USP Students (Oct. 2011)', and 'International Conference on ICTs and Oceanian Culture (Feb. 2012)'.

This indicator has been accomplished.



Indicator 4-3. All incubation spaces are occupied and all the tenants are satisfied with the services and assistance from the ICT Centre

Progress of activities related to this indicator are seen as slow.

There are three incubation spaces, but no spaces have not been taken yet; however, the USP is finalising a tenancy agreement, and a process of tenant selection is currently on-going. The review and selection process have just been completed. The incubation spaces are expected to be occupied soon. However, the Project might have insufficient duration to assure the quality of services and assistance provided by the ICT Centre for new tenants.

It will be desirable to examine the satisfactory level of the tenant at the end-line survey before the completion of the Project. The Team assumes that this indicator will only be partially accomplished before the completion of the Project.

Indicator 4-4. All office spaces for regional ICT organizations are occupied

There are four regional ICT-related organization offices in the ICT Centre, and all are now occupied; by PITA, PIRRC, ITU and PacCERT. Even before moving into their office space PITA had already held several training courses at the ICT Centre. PacCERT is a newly established organisation supported by the Project with JPCERT/CC, and the latest regional ICT organisations attached to the ICT Centre.

One effect of having achieved beyond this indicator is that all four regional organisations have started to assist each other through sharing knowledge and expertise.

This indicator has been accomplished.

Indicator 4-5. PacCERT is established at the ICT Centre and equipped to fill the basic requirement to provide services to the region

A seminar and panel discussion regarding Cyber Security was held at the ICT EXPO (SPICTEX2011) on the 20th July 2011, and JICA experts from JPCERT/CC has been actively supporting the establishment of PacCERT. IT security has started to be recognised as an important issue in the Pacific region. Although permanent full time staff recruitment had been delayed for almost two years, both JICA Experts from JPCERT/CC and the staff of PacCERT are confident that the time lost could be caught up. An office has been set up, and the Manager and the technical staff will undertake an intensive training course in Japan, in September 2012, to cover basic requirements, such as, incident handling and malware analysis.

This indicator seems possible to accomplish before completion of the Project.



4-1-3 Achievement of the project purpose

<Project Purpose>

1. **Attractive CS/IS programmes are delivered across the region**
2. **USP's capacity to deliver ICT Services is enhanced.**

Although there are several indicators that have to await quantitative results from the end-line survey, the Team considers that the Project Purpose will most likely be achieved before completion of the Project, because;

1. Two new bachelor degree programs, 'Software Engineering' and 'Net-Centric Computing', have been offered from July 2011. There are 12 BNC and 12 BSE students having started from the 2nd semester of 2011, and 38 BNC and 44 BSE students from the 1st semester of 2012, it is also expected that numbers of students will further increase once USP can advertise accreditation to the ACS, and;
2. USPNet has been upgraded and the capacity to deliver ICT Services has been enhanced.

Indicator 1. The fact that the BNC/BSE bachelor programmes are provisionally accredited by an international accreditation body

Both BNC and BSE are provisionally accredited to the ACS (Australian Computer Society). As the ACS is a signatory to the Seoul Accord, the accreditation is recognised amongst eight countries (including the United Kingdom, United States, Canada, Australia, Hong Kong, South Korea, Taiwan, and Japan). This indicator has been accomplished.

Indicator 2. More than 80% of students are satisfied with courses of the BNC/BSE bachelor programmes

Students are generally satisfied with the new courses, however, this information was acquired from a course review of year 2011 and through informal discussions with students over the weekends. Once laboratories for Software Engineering and Net-centric Computing are established, it is expected that there will be a further boost in students' satisfaction. Since these programmes started to be offered only from the second semester of year 2011, it will subsequently be necessary to obtain an additional course review for the year 2012 and up-dated information.

Indicator 3. More than 70% of students in both main and regional campuses are satisfied with ICT delivery of learning and teaching services

All students interviewed in USP Vava'u Learning Centre and Ha'apai Learning



Centre in Toga, expressed their deep gratitude, how fast their USPNet connection was and how much positive difference the installation of Ku-Band created, and all the courses delivered online and blended courses.

However, it will be necessary to undertake an end-line survey to assess the satisfaction levels of students, from both main and regional campuses with ICT delivery of learning and teaching services.

Indicator 4. More than 70% of stakeholders and users are satisfied with the facilities and the services provided by the ICT Centre

Stakeholders' perception and expectations for the ICT Centre are high. There have been many positive comments made, regarding the ICT Centre and JICA's assistance, from users of the ICT Centre.

As the major user of the ICT Centre, the Dean of FSTE has expressed her satisfaction, although there is an issue of space since many actors have started to become involved. FSTE has re-visited the settings of the ICT Centre and now a research and learning space has been created. The examination body for the accreditation, visited the USP on 3-5, June 2012, confirmed that the facilities provided by the ICT Centre met the requirement for the new bachelor's programmes.

There are no statistics available to assess the satisfaction level of stakeholders and users of the ICT Centre, however, all the stakeholders and users interviewed, such as FSTE, PITA and PacCERT, verbally expressed their satisfaction with the ICT Centre.

4-1-4 Prospect to achieve the overall goal

<Overall Goal>

USP contributes to the ICT human resources development in the South Pacific region through its improved ICT environment

It remains too early to assess if the Project can achieve the Overall Goal, which is supposed to be assessed three to five years after project completion. However, there has been close adherence with the Project Purpose, and the Team considers that there is considerable potential for achieving the Overall Goal within this post-completion time frame, should the Project Purpose be fully achieved within the remaining project duration.

Indicator 1. More than 70% of interviewed employers (private sector and government) are satisfied with the quality of the USP graduates and acknowledges the improvement of the skill level

Indicator 2. More than 80% of interviewed graduates completed the BNC/BNE bachelor degree programmes are satisfied with the courses provided

Indicator 3. The fact that the BNC/BSE bachelor programmes are internationally accredited

The BNC/BSE bachelor programmes will not be formally accredited by ACS until one year after the first student has graduated as is the process. Therefore, it will not be possible to achieve this indicator before 2017.

Indicator 4. Total enrolment in CS/IS programmes increases compared to 2010

Some faculty staff expressed a view that it might be appropriate to limit enrolment, in new courses only, (BNC/BSE) from 2011.

Indicator 5. Student/Computer Ratio

The Team considered that this indicator would not result directly from achieving project purposes. However, the USP side considers that it is an important KPI for USP and the Project implementation has an impact on this indicator.

Indicator 6. Number of students at regional campuses increases compared to 2010

It is too early to assess the achievement of this indicator; however, the number of students at the Tonga campus has been increasing since 2010, and this upwards trend seems set to continue.

Indicator 7. Students Satisfactory Rate on delivery of learning and teaching services in both main and regional campuses reaches the same or exceeds the rate measured in end-line survey (2012)

4-2 The Project implementation process

4-2-1 Activities

Although there was delay in delivery of some project components, the Team confirmed that the Project had conducted most of the activities in accordance with the PDM and the PO. Details of activities are shown in the Plan of Operation (Annex-3).

4-2-2 Methods of technical transfer

The Project has provided a package of comprehensive technical coverage. There have been combined activities with regard to technology transfers, such as, JICA

trainings in Japan, seminars and workshops by long-term and short-term experts. No problems were found with the methods used for technology transfers, and all activities relating to the transfers were highly regarded by all C/Ps concerned. Satisfaction levels seemed very high regarding assistance received from short-term experts. Some senior members of ITS mentioned that, during the 1st half of the Project, different experts handled the NOC and ITIL components, but, in the 2nd half of the Project, an individual expert has been assisting both NOC and ITIL. Since NOC's function is to gather information and alerts from the network system, activities are simplified when ITS staff use the ITIL frame work to identify and solve problems using the information gathered by NOC. There was also reference to challenges caused by the lack of skilled human resources and expertise to carry out all requirements for successful implementation of the Project, particularly with the new course delivery.

4-2-3 Project management aspect

The Team considered that there were no major problems with the project management.

The Project created an activity, entitled 'project meeting', at an early stage of the Project, where all project managers and leaders were to meet every two months to discuss progress and to identify any problems. This continued until the first JCC meeting was held on the 23rd of October 2010.

Developing from the 'project meeting', which covered a broad area and involves at least one academic unit and two support sections, the Japanese experts started to hold, or join with, regular and ad-hoc meetings for each individual component, such as USPNet-Task Force Meeting, ITIL Working Group Meeting, SCIMS Board Meeting, m-learning Meeting, CFDL ad-hoc meeting for Pedagogy, Emergency Response Team meeting, and 2012 International Conference Steering Committee Meeting.

It was generally agreed that the Japanese project experts and C/Ps have worked very closely together and that they have often operated as intermediaries between academic units and support sections. It was observed that the new Director of the ICT Centre has not been fully involved with other USP counterparts and the Project team yet, but it is expected for his contribution in the future.

4-2-4 Project recognition

All the C/P organizations and target groups, including students, had high recognition with regard to the Project. The officer of Computer Education for the Ministry of Education in Fiji was highly aware of the Project, in particular, for the



USPNet components, since Adi Maopa Secondary School, in Vanua Balavu Island, has benefitted from Ku-Band installation. Four regional ICT related organisations, namely, ITU, PIRRC, PITA and PacCERT, have filled the fourth floor of ICT Centre, and partner organisations interviewed have increased their recognition of the Project. SPC has begun to have more collaboration with the Project via holding a board member position for PacCERT, as Cyber Security is one of the priority areas of SPC.

4-2-5 Promoting factors influencing the effectiveness of the Project

At the ICT Ministerial Meeting, held in Tonga on 16-17th of June 2010, there was an endorsement that the ICT Centre should accommodate PacCERT, PIRRC, PITA and ITU, and that the USP and SPC would take the initiative for ICT Development across the Pacific Region. This indicated that USP had started to be recognised as a major provider of ICT Development for the region, and furthermore, boosted commitment levels within USP for ICT Development. This endorsement has now been implemented with the ICT Centre accommodating PacCERT, PIRRC, PITA and ITU. This would signify that the policy of the ICT Ministerial Meeting and the commitment of USP have had a very strong and positive effect on the effectiveness of the Project.

4-2-6 Prohibiting factors influencing the effectiveness of the Project

It had been assumed that the absence of an ICT Centre Director, affected the progress of the Project, in particular, *"Output 4. Operational policy and services of the Japan-Pacific ICT centre are established"*. However, to ensure that this output with dealt with some of the C/Ps, led by the Project Supervisor, committed their time and resources. A new Director of the ICT Centre was formally assigned on the 23rd January 2012, and, currently, the Director is assigned to be in charge of creating a business plan, business incubation and the collaboration of the regional organisations.

Full operation of PacCERT was delayed by almost two years with skeleton staff and attention taken on by ITS, against its original plan, nonetheless, it is now progressing well under the supervision of ITS Director with the support from the Project (JPCERT/CC) and the newly established board. A five year plan has been created and, hopefully, this will see PacCERT becoming financially independent after three years. USP, in its position as board chairman, committed to providing the office space and staff salaries for three years. However, it has not always been easy to obtain support from other 1 board members, even concerning small administrative matters.

As has been recognised in “Important Assumptions”, there have been two or three resignations of senior professors and/or lecturers at SCIMS during the last term. Since the USP has begun to offer the new BNC/BSE courses, this has inevitably led to increased work-loads for other professors and lecturers. The new BNC/BSE courses are provisionally accredited by ACS and, this will entail a review of teaching staff and the quality of education provided. Therefore, losing several senior professors and/or lecturers could become a significant issue as a prohibiting factor.

4-3 Five evaluation criteria

The evaluation was conducted based on the Five Evaluation Criteria (Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact, and Sustainability). The detailed results of the evaluation are presented in Evaluation Grid (Annex-2) and summarized below.

4-3-1 Relevance

The Project is highly relevant for the following reasons:

(1) Consistency with Pacific regional policy

The Project is consistent with the Pacific Regional Digital Strategy under the Pacific Plan.

The Pacific Regional Digital Strategy is an initiative under the Pacific Plan to promote economic growth, sustainable development, good governance and security in Forum Countries. The Strategy establishes the priorities; improving access to communications technology; reducing costs; establishing higher bandwidth to the global ICT ‘backbone’; removing inappropriate regulatory environments in order to foster higher levels of investment, and; strengthening ICT skills.

(2) Consistency with the strategic plan for USP

The Project is consistent with the following strategic plans.

The USP is run by a University Council, which consists of the Ministers for Education from member countries together with representatives from PIF and SPC. In the Final Report, ‘A Regional University of Excellence: Weaving Past and Present for the Future, A Vision to the Year 2020’, which was endorsed by the University Council, components with regard to ICT development and ICT education were included.

In the USP Strategic Plan 2010-12, it was stated that, “By 2010, the University will have a new Information and Communications Technology (ICT) Centre, the largest in the Pacific Islands that will enable it to make a massive and sustainable contribution to the information technology needs of its member countries”,

furthermore, several strategies with regard to ICT were also included within the Strategic Plan.

USP is currently developing a Draft Strategic Plan for 2013-2018 (as yet unpublished). The Deputy Vice Chancellor of USP informed the Team that ICT development remained at the core of their strategy, and that therefore the relevance of the Project would be strengthen rather than reduced.

(3) Consistency with Japan's aid policy

Leaders from Japan and the Pacific Islands Forum (PIF) countries met together for the Fifth Pacific Islands Leaders Meeting (PALM) in May 2009. In the resulting, Action Plan of the Leader's Declaration, five measures were proposed by the Government of Japan, which included, 'Economic Growth', 'Sustainable Development', 'Good Governance', 'Security', and 'People to People Exchange ("Kizuna-Plan")'. Under the 'Sustainable Development' measure, 'Capacity building of teachers and support for the creation of educational opportunities in isolated islands and rural areas' and 'Support for human resource development for realization of sustainable development' were recognised areas of cooperation under the Education Sector. In May 2012, the Sixth PALM was held, and "Sustainable Development and Human Security", which includes the importance of promoting sustainable development and human security by delivering social services including health and education with a view to achieving the Millennium Development Goals, was still one of the priorities of Japan's assistance towards pacific nations.

The rolling plan of Japan's ODA for Fiji was revised in April 2012, and there are now two priority areas such as "Environment/Climate Change" and "Overcoming Vulnerability". Under "Overcoming Vulnerability", there is a development issue called "Strengthening Distance Learning in the Pacific Region". It includes the 'Remote Islands Area Education Support Program', and this program supports USP with improving facilities and equipment for distance learning and computer based education, and extends capacity building to support the utilization of the ICT Centre at USP through the technical cooperation project.

4-3-2 Effectiveness

Most of the Outputs will be attained and steady progress has been made. Although there are a few components that might only be partially achievable, some components have exceeded expectations, and the Team considers that, overall, effectiveness is relatively high.



(1) Achievement level of the Project Purpose

As was described in the *Achievement of the project purpose (4-1-3)*, the Team considers that the Project Purpose will most likely be achieved before completion of the Project, although there are several indicators that have to await quantitative results from the end-line survey.

Most Outputs have been attained. Regarding indicators, Indicator 1 has been accomplished and findings from the questionnaire and interviews, show that the students and faculty staff of the BNC/BSE courses and remote campuses, and stakeholders of the ICT Centres, seemed generally satisfied (indicator 2, 3 and 4).

(2) Contribution of Outputs for achieving Project Purpose

There are four Outputs designed to achieve the Project Purpose. Outputs 1, 2 and 3 relate to *Project Purpose 1: 'Attractive CS/IS programmes are delivered across the region'*, and Outputs 2, 3 and 4 relate to the *Project Purpose 2: 'USP's capacity to deliver ICT services is enhanced'*.

(3) Factors promoting or prohibiting the progress of the Project

Several factors could have affected progress of the Project and these are described in *Promoting Factors influencing the effectiveness of the Project (4-2-5)*, and *Prohibiting Factors influencing the effectiveness of the Project (4-2-6)*.

(4) Fulfilment of Important Assumptions at the level of outputs

Many Important Assumptions at the level of outputs have been fulfilled; however, an Important Assumption, "*The counterpart personnel in ITS, CFDL, SCIMS and ICT centre continuously work at USP*", has not been entirely fulfilled due to the recent resignation of several C/Ps from SCIMS and ITS. It is hoped that this will not inhibit achievement of the Project Purpose.

4-3-3 Efficiency

The efficiency of this Project was assessed as adequate because of the following reasons:

(1) Level of achievement of Outputs

Most outputs, except confirming ICT Centre business plan, have been produced adequately, as described in *Output (4-1-2)* and in the Evaluation Grid (Annex-2).

(2) Quality, quantity and timing of Inputs to achieve Outputs

As described in *Input (4-1-1)* and *The Project implementation process (4-2)*, most



inputs were appropriate in quantity and quality, and performed appropriately to ensure that activities were conducted as planned. Acting Director of CFDL stated the Project even exceeded the expectation of Output 3, and expressed her utmost gratitude. There was some delay in the appointment of the Chief Advisor of the Project and for the procurement process of some equipment; however, the Project seems to have recovered from these delays. A new Director of the ICT Centre has been assigned and in post for the last eight months, and is now in charge of the incubation and networking with the regional organisation.

(3) Fulfilment of Important Assumptions at the level of activities

Most Important Assumptions at the level of activities have been fulfilled; however, one Important Assumption, *“The stakeholders in the top management, ITS, CFDL, SCIMS and ICT Centre are actively involved in the Project”*, has not been totally fulfilled, possibly because the ICT Director was only assigned eight months ago and has not yet become fully involved in the Project.

4-3-4 Impacts

It appears too early to reasonably assess a probability for achieving the overall goal.; However, to date, no negative impacts have been observed, with the positive impacts of the Project being as follows:

(1) E-learning installation for Adi Maopa Secondary School

The USP will be assisting with the distance education and e-learning installation, if needs arises for remote schools in Fiji. USPNet Ku-band equipment was installed to Adi Maopa Secondary School on the 6th of February 2012. It is expected that the impact of the Project will exceed beyond the USP, as the C/Ps pass on knowledge that they have gained from the Project.

(2) Positive impact to general public, beyond the target group of the Project

In Tonga, Ku-band equipment was installed at Ha'apai High School, as the USP Ha'apai Learning Centre is located within the high school compound. Because of its unique setting, the USPNet at the Ha'apai Learning Centre is not only providing a service for USP students, but also for members of the general public such as teachers, school students and government officers.

The Project has started contributing towards ICT human resource development beyond just USP staff and students. This has been undertaken through providing events and seminars held at the ICT Centre for; FNU staff, ICT industry workers, government officers, staff of regional institutions, as well as school teachers and

students.

(3) Increased numbers of students in Tonga Campus (Tongatapu and Va'vau)

There has been a remarkable increase in enrolment numbers at the Vava'u Learning Centre, compared with the previous year (approx, 20% increase). In particular, the number of on-line course students has increased to around 20, compared to 5 for the equivalent period in the previous year; this includes returning students from the USP Tonga Campus. The Vava'u Learning Centre coordinator believes that this is because students can now take the same lectures as those from Laucala Campus in Fiji, or any of the other campuses, as well as accessing educational resources via the faster USPNet connection.

4-3-5 Sustainability

Sustainability of this Project is reasonably high due to the reasons described below;

(1) Institutional aspects

Regarding political and institutional aspects of sustainability, the USP is a capable and committed counterpart organisation to work alongside. The Digital Strategy of the Pacific Plan and the USP's Vision to the Year 2020 will be long-term and consistent commitments towards ICT Development and education.

(2) Financial aspects

USP has committed their own budget towards covering recurrent costs. This includes; Satellite fee (C-Band and Ku-Band), electricity for ICT Centre, and activities in relation to the Project, such as costs with regard to international accreditation and m-learning components, and staff salaries for the ICT Centre director and PacCERT. Most interviewees were confident in their ability to continue all activities after completion of the Project.

(3) Technical aspects

Since the capacity of counterparts has been greatly enhanced, most C/Ps now feel confident to continue their activities. However, due to the resignation of several key C/Ps, and the late start of some activities, the technical aspect of sustainability is relatively weak in some activities.



5. Conclusions and Recommendations

5-1 Conclusions

After careful examination of the Project Performance, the Project Implementation Process and the results of five evaluation criteria, the Team concluded that the Project would achieve the project purposes before completion of the Project. Therefore, it is appropriate that the Project terminates as planned in the R/D.

5-2 Recommendations

The Team recommends the following matters to be addressed. Activities described in “5-2-1 *Activities for remaining period of the Project*” are to ensure successful completion of the Project, and recommendations described in “5-2-2 *Recommendation after the completion of the Project*” are to ensure the sustainability of the Project effect.

5-2-1 Activities for remaining period of the Project

(1) Confirming ICT Centre Business Plan (Recommendation to Project Team)

Although most activities regarding ICT Centre components under “*Output 4. Operational policy and services of the Japan-Pacific ICT centre are established*” has been proceeding without an ICT Centre business plan, it is important to complete a business plan to confirm a forward direction for the ICT Centre. The Team recommends developing a consensus, between all concerned parties, through intensive dialogues based on mutual understanding and trust and led by the Project Supervisor.

Some development partners expressed their interest in using video conferencing and other facilities of ICT Centre. Since the Centre guidelines have been created, it is expected to boost the use of the facilities to create a sustainable revenue stream for the Centre.

(2) Completing the installation of Ku-Band in the remaining sites (Recommendation to Project Team)

All C/Ps interviewed were confident that “*Indicator 2-2. The fact that Ku-Band are established in the hub (USP main campus) and 9 remote USP learning centres*” will be achieved before completion of the Project. The Team witnessed the significant impact that the Ku-Band satellites have had at remote campuses and learning centres and considers that establishing Ku-Band satellites at the remaining three sites (one in Vanuatu, one in Solomon Islands, and one in Samoa) within the remaining Project period is essential.



(3) Implementation of the end-line survey (Recommendation to JICA)

A larger scale survey will be required to ensure that all indicators are accomplished, as some indicators will need more detailed examination, and course evaluation by student for 1st and 2nd semester 2012 will not be available until the end of the academic year. Undertaking an end-line survey would also be beneficial as there remain activities to be confirmed as having been completed. Details are shown in the List of data/information to obtain at the end-line survey (Annex-8).

5-2-2 Recommendation after the completion of the Project

(1) Continuous monitoring of the incubation spaces to support the tenants (Recommendation to USP)

The activities regarding the incubation spaces have been somewhat slow, but it has now finally reached the stage where that the incubation spaces are about to be occupied. To ensure that the spaces remain effective and attractive, it is essential that the USP will monitor how tenants are doing and continues to support activities of the incubation space tenants.

(2) Formalisation of friendships and collaborations beyond the initial Project (Recommendation to USP, Kumamoto University, the Board of PacCERT and JPCERT/CC)

In this project, friendships and collaborations are growing beyond the initial Project, such as between Kumamoto University and CFDL, and JPCERT/CC and PacCERT. These ties between institutions will further enhance Project sustainability, and it is recommended that, wherever possible, these partnerships be formalised to further confirm and strengthen the relationships.

(3) Continuous investments in ICT facilities to improve services for students (Recommendation to USP)

A remarkable improvement of education and service delivery was observed in Tonga due to the introduction of Ku-Band. On the hand, some staff and students of the campuses connectable via C-Band, expressed their wish to receive better quality of ICT services. The numbers of students studying at remote campuses is growing, and continuous investment towards ICT facilities and services are vital to improve service delivery for students.

(4) Continuous commitments to expand the effects achieved by the Project across the region (Recommendation to USP and JICA)

The Project has contributed greatly to the delivery of new CS/IS Programmes and



towards the enhancement of ICT Service at USP. Nonetheless, these achievements remain only the initial green shoots of the potential positive impacts. To expand these effects across the region, it is desirable that USP and JICA continue to take leading roles in this sector within the region.

5-3 Lessons learnt

5-3-1 Emphasis on remote areas

It is a notable impact to have improved communications across remote areas of Pacific island nations and to have widened opportunities for improvement in education, health, economic activities, etc. However, there remain acknowledged and urgent needs to further improve rural and/or remote areas learnt from this Project. To achieve this it will be essential to listen foremost to the vulnerable and disadvantaged people from those remote areas.

5-3-2 Importance of building mutual understanding and trust

Building mutual understanding and trust, at the early stage of a project, is vital because it helps detect problems and discover solutions among partners. In this project, the Japanese project experts have tried their best to carry on face-to-face communication with their counterparts wherever possible, and to maintain a responsive and humble attitude. While this may appear to be no more than ordinary good practice; it must be emphasised how important these attributes are and how easily they can be forgotten.

END//

PROJECT DESIGN MATRIX (PDM) Version 2.0

(02 December, 2011)

Project Title: ICT for Human Development and Human Security Project**Period :** 01 February 2010 – 31 January 2013 (3 years)**Implementation Organizations:** The University of the South Pacific**Target Sites:** Main and Regional Campuses of USP**Target Groups:** Students and Staff of School of Computing, Information and Mathematical Sciences (SCIMS), Staff of Information Technology Service (ITS), Staff of Centre for Flexible and Distance Learning (CFDL), Staff of Japan-Pacific ICT Centre (incl. PacCERT)

Project Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
Overall Goal USP contributes to the ICT human resources development in the South Pacific region through its improved ICT environment	<ol style="list-style-type: none"> More than 70% of interviewed employers (private sector and government) are satisfied with the quality of the USP graduates and acknowledges the improvement of the skill level More than 80% of interviewed graduates completed the BNC/BNE¹ bachelor degree programmes are satisfied with the courses provided The fact that the BNC/BSE bachelor programmes are internationally accredited Total enrolment in CS/IS programmes increases compared to 2010 Student/Computer Ratio Number of students at regional campuses increases compared to 2010 Students Satisfactory Rate on delivery of learning and teaching services in both main and regional campuses reaches the same or exceeds the rate measured in endline survey (2012) 	<ol style="list-style-type: none"> Interviews to employers; Questionnaire to employers Interviews and questionnaires to graduates completed the BNC/BSE bachelor programmes SCIMS Report USP/SCIMS Statistics USP Statistics USP Statistics Interviews to students in main and regional campuses; Questionnaires to students in main and regional campuses via Moodle 	

¹ BNC: Bachelor of Net-Centric Computing BSE: Bachelor of Software Engineering

Annex-1

Project Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
Project Purpose 1. Attractive CS/IS programmes are delivered across the region 2. USP's capacity to deliver ICT Services is enhanced	1. The fact that the BNC/BSE bachelor programmes are provisionally accredited by an international accreditation body ² 2. More than 80% of students are satisfied with courses of the BNC/BSE bachelor programmes 3. More than 70% of students in both main and regional campuses are satisfied with ICT delivery of learning and teaching services 4. More than 70% of stakeholders and users are satisfied with the facilities and the services provided by the ICT Centre	1. Provisional Accreditation Document; New Bachelor programmes Project Document 2. SCIMS Student Course Evaluation Survey Report 3. Interviews to students in main and regional campuses; Questionnaires to students in main and regional campuses via Moodle 4. Interviews and questionnaires to stakeholders and users of ICT Centre	USP is continuously committed to serving the Pacific region as "A Regional University of Excellence" with maximum uses of ICT Demand of the ICT human resources does not decrease radically
Outputs 1. New internationally-accreditable BNC/BSE bachelor programmes are offered	1-1. The fact that the BNC/BSE bachelor programmes are developed complying with the international standard curricula guidelines ³ ; The fact that the BNC/BSE bachelor programmes are developed complying with the requirements of an international accreditation body 1-2. More than 70% of lecturers and staff participated to the global trend seminars are satisfied with the contents and the level of the seminars	1-1. USP Calendar; New Bachelor Programmes Project Report; Interviews with SCIMS staff and FSTE management staff 1-2. Questionnaires to seminar participants; Expert's Report	USP's policy which places importance on the utilization of USPNet, promotion of DFL and ICT education is unchanged The counterpart personnel in ITS, CFDL, SCIMS and ICT centre continuously work at USP USP inputs necessary resources for Ku-band system deployment and remote sites are ready to be deployed

² The project assumes ACS (Australian Computer Society) as the targeted international accreditation body (<http://www.acs.org.au/>).

³ The curricula are complied with the Guidelines for Undergraduate Degree Programs by IEEE/CS and ACM (<http://www.acm.org/education/curricula-recommendations>).

Annex-1

Project Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
2. USPNet is efficiently used and ITS's service delivery is enhanced	<p>2-1. USPNet bandwidth utilization efficiency is optimized compared to 2009; File download speed from Moodle at regional campus improves a least 100% compared to before USPNet upgrade⁴</p> <p>2-2. The fact that Ku-Band are established in the hub (USP main campus) and 9 remote USP learning centres</p> <p>2-3. More than 70% of seminar participants (USP IT related staff) acknowledge the concept of ITIL and its importance</p> <p>2-4. More than 70% of users recognize improvement of ITS services delivery compared to before the project and are satisfied with ITS services delivery</p> <p>2-5. The fact that proactive response system and incident management database system are utilized to enhance customer-centred IT services delivery</p>	<p>2-1. USPNet Survey Report in 2009 (by JICA Preliminary Survey Team); USPNet network monitoring report; USP Strategic Plan 2010-2012 KPI; USPNet Upgrade Project Document; Analysis of the result of actual measurement with Wireshark Packet Capture</p> <p>2-2. USPNet Upgrade Project Document; Remote Campus Survey Reports; Ku-band Deployment Plan; Expert's Report</p> <p>2-3. Interviews and questionnaires to seminar participants</p> <p>2-4. ITS User Services Survey Statistics Interviews and questionnaires to users</p> <p>2-5. Reports from NOC system; Reports from Service Desk System; ITIL Project Document; NOC Project Document; Expert's Report; Interviews to ITS Staff</p>	The Communication Satellite Intelsat 18 is launched as planned and the service is available

⁴ The data measured at Emalus Campus (Vanuatu) before iDirect installation is set as benchmark.

Annex-1

Project Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
3. New ICT technologies are utilized and promoted in delivery of distance learning	<p>3-1. Percentage of Moodle-assisted courses increases to 90%; The fact that reliability, availability and performance of Moodle system are considerably enhanced</p> <p>3-2. At least 1 interactive m-learning pilot project is conducted successfully</p> <p>3-3. More than 70% of CFDL and concerned faculties staff are satisfied with the workshops on distance learning pedagogy; The fact that the outcomes of workshops were implemented into course design and development</p>	<p>3-1. CFDL Moodle Statistics; USP Strategic Plan 2010-2012 KPI; Report of Moodle System Operation; Interviews to CFDL staff and Moodle Administrators</p> <p>3-2. m-Learning Project Document; Project Report; Expert's Report</p> <p>3-3. Questionnaires to workshop participants; Interviews to CFDL staff participated into workshops</p>	
4. Operational policy and services of the Japan-Pacific ICT centre are established	<p>4-1. The fact that the ICT Centre business plan is developed and approved</p> <p>4-2. More than 4 regional ICT events are held to showcase the ICT Centre</p> <p>4-3. All incubation spaces are occupied and all the tenants are satisfied with the services and assistance from the ICT Centre</p> <p>4-4. All office spaces for regional ICT organizations are occupied</p> <p>4-5. PacCERT is established at the ICT Centre and equipped to fill the basic requirement to provide services to the region</p>	<p>4-1. ICT Centre Business Plan</p> <p>4-2. Expert's Report; Interviews to USP event organizers</p> <p>4-3. Expert's Report; ICT Centre Business Plan KPI; Interviews and questionnaires to incubation tenants</p> <p>4-4. Interviews and questionnaires to organizations based in the ICT Centre</p> <p>4-5. Expert's Report; Interviews and questionnaires to PacCERT constituents and PacCERT staff; PacCERT statistics and activity report</p>	

Annex-1

Project Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>Activities</p> <p>1-1. To conduct a baseline survey on CS/IS involving all the stakeholders</p> <p>1-2. To hold global trend seminars on topics related to the courses of the BNC/BSE bachelor programmes</p> <p>1-3. To provide mentoring and comprehensive advice on curriculum design of the BNC/BSE bachelor degree programmes</p> <p>1-4. To implement the BNC/BSE bachelor programmes and review the course curricula</p> <p>1-5. To conduct an end-line survey on CS/IS involving all the stakeholders</p> <p>2-1. To conduct a baseline survey on USPNet delivery involving all the stakeholders (especially students at regional campuses)</p> <p>2-2. To conduct survey on USPNet. Based on the survey results, implement required solutions. To procure and implement necessary equipment based on the survey</p> <p>2-3. To provide expertise and comprehensive advice on the establishment of the USP NOC (Network Operation Centre)</p> <p>2-4. To optimize the bandwidth utilization efficiency by leveraging provided equipment and transfer technical/operational know-hows</p> <p>2-5. Provide expertise, mentoring and comprehensive advice on the development of mid-and-long term strategy for leveraging USPNet</p> <p>2-6. To provide technical guidance and expertise to implement ITIL concepts for enhancing IT support/service delivery in USP.</p> <p>2-7. To conduct necessary in-house trainings which lead up to ITIL professional certification for the IT related staff in USP.</p>	<p>Inputs</p> <p><u>USP side</u></p> <ol style="list-style-type: none"> Administrative Structure of the Project Project Supervisor: Deputy Vice-Chancellor (Administration & Regional Campuses) Project Director: (Director of Japan-Pacific ICT Centre) Project Leaders: Head of SCIMS, Directors of ITS, CFDL Counterpart: Core staff of ITS, CFDL, SCIMS(FSTE) and ICT Centre Office spaces for the Japanese expert team Incl. utilities such as USP-LAN/Internet connectivity, Electricity, Water etc. Establishment of a ICT Centre Working Group Representatives of all the stakeholders as member Expenses necessary for the project implementation <p><u>Japanese side</u></p> <ol style="list-style-type: none"> Experts <Long-term experts> - Chief advisor - Project Coordinator/Network <Short-term experts> - Evaluation Consultant (Baseline Survey) - Distance Learning/e-Learning pedagogical technique (Instructional Design etc.) - Curriculum Advisors - Software Engineering (Quality Assurance/Performance Testing etc.) - Network Engineering (Cloud Computing, Information Security etc.) - Satellite Network Systems - Network Monitoring - Mobile Technology - IT Service Support/Delivery Management (ITIL) - IT entrepreneur/Incubation Programs - Information Security (CERT) - Other necessary fields Counterpart trainings in Japan <Long-term training> - 2 ICT related Candidates to Master Programme and PhD programme (through MEXT scholarship) <Short-term training> 		<p>Fiji and other countries do not fall into any conflict or turmoil due to social, economic, political reasons and natural disasters</p> <p>USP's financial foundation is solid and stable</p> <p>The stakeholders in the top management, ITS, CFDL, SCIMS and ICT Centre are actively involved in the Project activities</p> <p>The problem of VAT exemption does not happen</p> <p>The delivery and shipment of the equipment do not delay</p> <p>Necessary resources from USP are provided for m-Learning Projects</p> <p>The condition and tenant agreement is drawn and approved by USP before the end of year 2011</p> <p>The operational funds for PacCERT are provided and managers and staff are recruited</p>

Annex-1

Project Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>2-8. To conduct an end-line survey on USPNet delivery involving all the stakeholders (especially students at regional campuses)</p> <p>3-1. To provide necessary advice for improving reliability and performance of Moodle delivery systems</p> <p>3-2. To participate in the working group of mobile technology learning system and provide necessary technical advice on interactive m-learning projects.</p> <p>3-3. To hold seminars and workshops on distance learning pedagogy</p> <p>4-1. To participate in the ICT Centre working group and provide necessary advice on operation and proposals to leverage the ICT Centre</p> <p>4-2. To hold special seminars on how ICT can be leveraged to support solving issues in the Pacific region</p> <p>4-3. To provide business/research incubation functions in the ICT Centre</p> <p>4-4. To collaborate with ICT related organizations and contribute to increase regional roles of ICT Centre</p> <p>4-5. To provide necessary technical and operational advice on the establishment of PacCERT</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Software Engineering/Network Engineering (ICT Trainer's Training) - Network Monitoring (Network Operation Centre) - Satellite Communication Systems (Ku-Band) - Mobile Learning - CERT Operations - Other necessary fields <p>3. Equipment</p> <ul style="list-style-type: none"> - Necessary equipment for USPNet upgrade - Other necessary equipment <p>4. Expenses necessary for the project implementation</p>		<p><u>Preconditions</u></p> <p>The top management of USP is committed to exercising strong leadership in implementing the Project</p>

AST

SP
Evaluation Grid with findings

1/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings															
	Overall Theme	Sub Theme																	
Examination of the project performance	Is the input implemented as planned?	Dispatch of experts (J)	Timing of the dispatch, numbers, and skills.	<ul style="list-style-type: none">- JICA has dispatched 2 Long-term and 20 short-term experts since the Project started (see Annex-6).- Timing: The Chief Advisor for the Project had not been dispatched until the end of September 2010. Other experts were dispatched more or less on schedule (see Annex-6).- Most counterparts considered the numbers and the level of skills were appropriate.- Long-term experts are highly appreciated with their skills and responsiveness.- Most short-term experts dispatched via PADECO Co. Ltd. are highly appreciated with their work, and seminars and workshops held by experts were very popular, though there is mixed opinion regarding the experts worked for evaluation analysis. Slightly miss matched the experts' expertise for the baseline survey.- All short-term experts from Kumamoto University and JPCERT/CC are very popular and highly regarded by their counterparts.- Five professors from three university was sent to make seminars/workshop in for International Conference on Information and Communications Technologies and Oceanian Culture.					E2										
		Actual funding tranche and timing of the input (J)	Reports and opinions from concerned parties	<ul style="list-style-type: none">- Total local expenditures including operation cost, travelling cost, provision of equipment to date was 949,610.15FJD as of end of July 2012. <table><tr><td>FY2009</td><td>FY2010</td><td>FY2011</td><td>FY2012</td><td>Total</td></tr><tr><td>743.65</td><td>642,129.33</td><td>5,419.30</td><td>20,348.67</td><td>949,610.15</td></tr></table> <ul style="list-style-type: none">- All stakeholders agreed the timing of funding was appropriate.					FY2009	FY2010	FY2011	FY2012	Total	743.65	642,129.33	5,419.30	20,348.67	949,610.15	2
		FY2009	FY2010	FY2011	FY2012	Total													
		743.65	642,129.33	5,419.30	20,348.67	949,610.15													
Track record on providing	Checking the list of provided equipment	<ul style="list-style-type: none">- JICA has provided mainly satellite related equipment including					S2												

Evaluation Grid with findings

2/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
		materials and equipment (J)	against some of actual equipment and operation.	<p>Ku-band (see Annex-6). Not all the equipment has been set up yet.</p> <p>There had been a problem regarding VAT exemption between the USP and the Government of Fiji, however, the matter was resolved, and all equipment have already been on site.</p>	
		Trainings performance for C/P (J)	Numbers of trainees and the level	<p>One C/P from CFDL took a long-term training in Japan.</p> <p>7 C/Ps participated in short-term training courses in Japan and the participants interviewed expressed the level and the duration of the training were appropriate and it helped their work directly.</p> <p>2 PacCERT staff will be trained in Japan in September 2012.</p> <p>18 seminars/courses were held by short-term experts in-country. Over 800 participants attended the seminars/courses and they were very popular (average satisfaction rates are over 81.5 % of all the courses). 7 more seminars/workshops will be held before completion of the project.</p> <p>9 sessions/seminars were held on the two events, SPICTEX and International Conference on "ICT and Oceanian Culture" by short-term experts funded by JICA. Over 280 participants attended the session/seminars.</p>	E3
		Establishment of JCC (U)	Level of committee activity.	<p>JCC holds meeting every six month, and the first meeting was held on October 2010 after the Chief Advisor was dispatched.</p> <p>Prior to the Establishment of JCC, a project meeting was held every two month, however, it was ended after the first JCC was launched in October 2010.</p> <p>Second JCC was held during the Mid-Term Review, and the PDM was revised on the third JCC held in December 2011.</p> <p>There are several smaller regular and ad-hoc meetings that link to the Project. This seems more appropriate, since everyone can discuss the practical matters in depth in smaller meetings.</p>	S

4m
Evaluation Grid with findings

3/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings											
	Overall Theme	Sub Theme													
				The Project Team attends most of the smaller meetings on their respective fields, including: USP Net-Task Force, ITIL Working Group Meeting, SCIMS Board Meeting, m-learning, CFDL ad-hoc meeting for Pedegogy, Emergency Response Team meeting, and 2012 International Conference Steering Committee											
		Allocation of C/P (U)	Numbers and details.	<ul style="list-style-type: none">- USP side allocated 6 C/Ps for project management, but Professor of CS/IS and Director of the ICT Centre resigned in early 2010, and the most of the time Project Direct has been vacant.- New Director for ICT Centre was recruited in Jan. 2012 and he is in charge of business incubation and collaboration with regional organisations.- Moreover, over 20 C/Ps are directly engaging the Project (see Anex-5 (2)).- All C/Ps are part-time as it planned. Most C/Ps are very busy already, but very enthusiastic and committed to the Project.	S										
		Other local costs (U).	Cost examination, opinions from concerned parties	<ul style="list-style-type: none">- Total estimated amount including operation cost, travelling cost, provision of equipment to date was 654,810.00FJD as of end of July 2012. It includes office spaces for Japanese experts, utility bills, Internet charges (Ku-band satellite transponder, etc.), etc., but excludes the salary for C/Ps. <table><tr><td>FY2009</td><td>FY2010</td><td>FY2011</td><td>FY2012Q1</td><td>Total</td></tr><tr><td>480.00</td><td>33,480.00</td><td>448,680.00</td><td>172,170.00</td><td>654,810</td></tr></table> <ul style="list-style-type: none">- ICT Centre's Non-Staff Operation Costs for year 2010 (actual) was 700,000 FJD- All stakeholders agreed the timing of funding was appropriate.	FY2009	FY2010	FY2011	FY2012Q1	Total	480.00	33,480.00	448,680.00	172,170.00	654,810	2
		FY2009	FY2010	FY2011	FY2012Q1	Total									
	480.00	33,480.00	448,680.00	172,170.00	654,810										
Is the output produced as planned?	Are new internationally-accreditible BNC/BSE bachelor programmes offered?	Progress of the activities (the baseline survey result and quality, seminar implementation, mentoring and comprehensive advise on curriculum	<ul style="list-style-type: none">- Baseline survey: Conducted as it was planned, however, it seems that the expert had appropriate knowledge for education but not the expertise in evaluation.- All 6 SCIMS-JICA Joint ICT Global Trend Seminars for	E3											

Evaluation Grid with findings

4/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
			design of the BNC/BSE degrees, the implementation of BNC/BSE programme and review the course curricula, and to conduct end-line survey), comparison to the target	<p>"Software Quality Assurance", "Network Engineering", "Software Human Interface & User Centred Design", "Cloud Computing & Security", "Software Testing Tools", and "Android Programming and ITIL", have been held as they were planned, and they are very popular and the satisfactory of the participants was high.</p> <ul style="list-style-type: none"> - Mentoring and advice on curriculum design: completed. - To implement new bachelor programs and review the course curricula: BNC and BSE courses are established and provisionally accredited by ACS. - End-line survey: It was somehow not planned within the project activities, but recommended to carry out just before the completion of the project. 	
		Has USPNet started to be used efficiently and ITS's service delivery is enhanced? .	Progress of the activities (the baseline survey result and quality, procurement, advise for NOC, optimize the bandwidth utilization efficiency, advise for mid- and long-term strategy for USP Net, technical guidance for ITIL concepts, conducting in-house trainings for ITIL. and end-line survey), comparison to the target	<ul style="list-style-type: none"> - Baseline survey: Conducted as it was planned, however, it seems that the expert had appropriate knowledge for ICT but not the expertise in evaluation. - To conduct survey to USP-Net. Based on the result, implement required solutions including procurement and implementation of equipment: The survey was done, and it had been completed. - To provide expertise and advise on NOC establishment: Two staff were sent for JICA training in Japan and respective short-term consultants are providing advise on NOC. The progress had been slow until end of 2011, however, now it is progressing well, First phase NOC system was completed, and the second phase NOC system is about to be in place (Aug. 2012). - To improve bandwidth utilization efficiency by provided equipment and operation know-how: The timing of the procurement delayed due to the irregular type of the procurements however, construction of a hub-site is on-going 	E2

Evaluation Grid with findings

5/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
				<ul style="list-style-type: none"> and progressing smoothly. Laucala Campus Ku-Band Hub and test dish were installed, and, in regards to installation of remote sites, six out of nine construction in remote centre has been completed and three will be completed by the end of 2012. - To provide expertise and advice on mid term strategy for USP-Net: On-going activities. Progressing well. - Training on ITIL and secure professional certification by ITS staff. To provide technical guidance to establish IT support system for regional campuses: ITIL is a new concept, but seems to be accepted as it was something that they need to tackle with. Now it has been combined with NOC and ITIL has started to be utilised as a framework to solve the collected information by NOC. - End-line survey: It was somehow not planned within the project activities, but recommended to carry out just before the completion of the project. 	
		Have New ICT technologies been utilized and promoted in delivery of distance learning?	Progress of the activities (providing necessary advice for Moodle delivery systems, to participate in the working group of m learning system, and holding seminars and workshops on distance learning pedagogy), comparison to the target	<ul style="list-style-type: none"> - Advice for improving reliability and performance of Moodle System: Almost completed. This is an upgraded activities that changed during the 1st JCC, and some indicators have been added in the 2nd revise of PDM. JICA has provided load balancers set for Moodle servers for redundancy. According to CFDL technical staff, this equipment has greatly contributed towards balancing out the server, leading to the Moodle system being stabilised and increasing its reliability, availability and performance. It progressed well. - To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice: m-learning is the one area that both FSTE and CFDL think it has a great potential. FSTE has already made trials for unidirectional SMS services, and interactive pilot will start in Samoa in August 2012. 	E2

Evaluation Grid with findings

6/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
				<p>Seminar: Pedagogical techniques on distance learning: A seminar was held in March and November 2011. Many people were attended the seminar and the satisfactory rate was high. Prof. Suzuki introduced an international academy for CFDL to encourage the USP to conduct more research.</p>	
		Have operational policy and services of the Japan-Pacific ICT centre been established?	<p>Progress of the activities (advising for operation and proposals to leverage the ICT centre, holding seminars, providing business/research incubation functions in the ICT Centre, to collaborate with ICT related organizations and contribute to increase regional roles of ICT Centre, and providing technical and operational advise on the establishment of PacCERT), comparison to the target</p>	<p>Advising for operation and proposals to leverage the ICT Centre: There was an approved business plan at Mid-term review, and the Project was active to involve in WG. It was thought necessary to alter ICT Centre business plan, since the Director of ICT Centre had newly recruited this year. There is no WG, but not much progress was seen to create another business plan.</p> <p>Holding special seminars for regional development: Five regional or international ICT events have been held at the ICT Centre, such as, 'South Pacific Information & Communications Technology Exposition (July 2011)', 'Pacific Network Operators Group (PacNOG) 9 Educational Workshop and Training (June 2011)', 'Internet Governance Forum (IGF) (July 2011)', 'Japan Aerospace Exploration Agency (JAXA) – JICA/JOCV – USP In-Flight Education Event, Live Q&A Session with Astronaut in International Space Station (ISS) for Suva Sangam College and USP Students (Oct. 2011)', and 'International Conference on Information and Communications Technologies and Oceanian Culture (Feb. 2012)'.</p> <p>Support incubation function for ICT: The progress of the activities is seen as slow. An incubation awareness seminar is going to be held at the ICT EXPO in July 2011. Director for ICT Centre is in-charge on this component. There was remarkable progress since a short-term expert started to be involved actively from February 2012. In August 2012, the process to select the incubation tenants is on-going, and the</p>	A2

W Evaluation Grid with findings

7/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
				<p>incubation space shall be occupied soon .</p> <ul style="list-style-type: none"> - To collaborate with other donors and to increase regional roles of ICT Centre: These activities have not been started yet. - To collaborate with ICT related organizations and contribute to increase regional roles of ICT Centre: ITU, PITA, PIRRC, and PacCERT are based in the Office at ICT Centre. One effect of having achieved beyond this indicator is that all four regional organisations have started to assist each other through sharing knowledge and expertise. - Assisting to establish PacCERT: A seminar and panel discussion regarding Cyber Security was held at the ICT EXPO on the 20th July 2011, and JPCERT/CC has been actively supporting the establishment of PacCERT. Although staff recruitment had been delayed for almost two years, the time lost seems to be caught up. An office has been set up, and the Manager and the technical staff will undertake an intensive training course in Japan, in September 2012, to cover basic requirements, such as, incident handling and mal-ware analysis. 	
		Was technology transferred to the C/P?	The level of trainings held, existence and quality of the manuals, and opinions from concerned parties.	- All C/Ps satisfied the level of trainings and consultancy.	E
		Was appropriate technical guidance provided during the activities?		- According to C/Ps, OJT, seminars and workshops were all effective and highly appreciated.	E
		Has the capacity of the C/P improved?		- All C/Ps expressed the appreciation that they are receiving technical assistance to improve their capacity.	E

Evaluation Grid with findings

8/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
	Was the project purpose achieved? - Attractive CS/IS and/or other ICT related courses are delivered across the region. - USP's capacity to deliver ICT Services is enhanced.	Assessment of prospective to achieve project purposes. The level of fulfilment of the indicators (BNC/BSE bachelors programmes are accredited by an international accreditation body, more than 80% of students satisfied with courses, 70% or students are satisfied with ICT delivery, and more than 70% of stakeholders and users are satisfied with the facilities and the services provided by the ICT Centre)	Opinion from CS/IS and other campuses' students, opinion from ICT Centres staffs, level of usage of the ICT centre, the use of the equipment	- Two new bachelor degree programs, 'Software Engineering' and 'Net Centric Computing', have been offered from July 2011. There are 12 BNC and 12 BSE students having started from the 2nd semester of 2011, and 38 BNC and 44 BSE students from the 1st semester of 2012, it is also expected that numbers of students will further increase once USP can advertise accreditation to the ACS. - There are four Outputs designed to achieve the Project Purpose. Outputs 1, 2 and 3 relate to Project Purpose 1: 'Attractive CS/IS programmes are delivered across the region', and Outputs 2, 3 and 4 relate to the Project Purpose 2: 'USP's capacity to deliver ICT services is enhanced'.	S2
Examination of the project implementation process	Are activities implemented as planned?		Checks on the plan of operation, and interviews with concerned parties	- The Team confirmed that the Project has conducted most of the activities in accordance with the PDM and the PO to date. Details for activities are shown in Plan of Operation (Annex-3).	S2
	Are there any problems in the method for technology transfer?		Opinions from concerned parties	- The Project has provided a package of comprehensive technical coverage. There have been combined activities with regard to technology transfers, such as, JICA trainings in Japan, OJT, seminars and workshops by long-term and short-term experts. No problems were found with the methods used for technology transfers, and all activities relating to the transfers were highly regarded by all C/Ps concerned.	E
	Are there any problems in the project management	Were the monitoring system and decision-making process clear and managed	Opinion of concerned parties, and checks on the management system.	- The Team confirmed that there were no major problems with the project management. - The Project created an activity, entitled 'project meeting', at an	S

AST

Evaluation Grid with findings

9/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
	system?	properly?		<p>early stage of the Project, where all project managers and leaders were to meet every two months to discuss progress and to identify any problems. This continued until the first JCC meeting was held on the 23rd of October 2010.</p> <ul style="list-style-type: none"> - Developing from the 'project meeting', which covered a broad area and involves at least one academic unit and two support sections, the Japanese experts started to hold, or join with, regular and ad-hoc meetings for each individual component, such as USP Net-Task Force, ITIL Working Group Meeting, SCIMS Board Meeting, m-learning, CFDL ad-hoc meeting for Pedagogy, Emergency Response Team meeting, and 2012 International Conference Steering Committee. - It was generally agreed that the Japanese project experts and C/Ps have worked very closely together and that they have often operated as intermediaries between academic units and support sections. It was observed that the new Director of the ICT Centre has not been fully involved with other USP counterparts and the Project team yet, but it is expected for his contribution in the future. 	
		Was the project assisted properly by JICA head quarters and field office?		<ul style="list-style-type: none"> - Both JICA Fiji Office and the Japanese experts shared the view that some of the provision of equipment did not go smoothly. It might be due to the complicated and irregular arrangement, and/or the change of the specs. - Other than that incident, the Japanese experts confirmed that they are receiving the full support from JICA Fiji Office and the Head Quarters, and JICA Fiji Office seems happy with the performance of the Japanese experts. 	S
		Did the project enjoy good communication within the		<ul style="list-style-type: none"> - Japanese experts and USP C/Ps worked very closely. - It was generally agreed that the Japanese project experts and 	S

14
Evaluation Grid with findings

10/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
		project team?		C/Ps have worked very closely together and that they have often operated as intermediaries between academic units and support sections. It was observed that the new Director of the ICT Centre has not been fully involved with other USP counterparts and the Project team yet, but it is expected for his contribution in the future.	
	Does the project have a high recognition within USP?	Was there sufficient involvement of counterpart organisation and target groups to the project?	Opinions from concerned parties	- C/Ps have demonstrated positive action to implement the Project. - All C/Ps expressed their appreciation to learn new technology and/or improving what they've already known.	S
		Were counterparts active in the project?		- Most C/Ps worked very closely with Japanese experts, and have been very active in the Project.	S
		Were implementing organisations interested in the progress of the project?		- Most C/Ps interviewed expressed their great interest in knowing the progress of the Project.	S
	Were appropriate counterparts allocated?			- There are five main counterparts are assigned to take project management positions including Project Supervisor and four project leaders for each component. - Professor of CS/IS and Director of the ICT Centre resigned in early 2010, and the most of the time Project Direct has been vacant. Director for ICT Centre has been assigned since January 2012 and in charge of incubation and collaboration of International organisations. - Other than the Project Director, many counterparts have been working actively from the beginning of the Project.	A
	Does the project have a high recognition amongst the targeted groups			- All the C/P organizations and target groups, including students, had high recognition with regard to the Project. - The officer of Computer Education for the Ministry of Education in Fiji was highly aware of the Project, in particular, for the	E

10/24
ASR

SPN Evaluation Grid with findings

11/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
	and concerned organisations?			<p>USPNet components, since Adi Maopa Secondary School, in Vanua Balavu Island, has benefitted from Ku-Band installation.</p> <ul style="list-style-type: none"> - Four regional ICT related organisations, namely, ITU, PIRRC, PITA and PacCERT, have filled the fourth floor of ICT Centre, and partner organisations interviewed have started to have increased recognition of the Project. - SPC has begun to have more collaboration with the Project via holding a board member position for PacCERT, as Cyber Security is one of the priority areas of SPC.. 	
	What obstacles were exposed and what factors positively influenced the project's implementation process?			<ul style="list-style-type: none"> - At the ICT Ministerial Meeting, held in Tonga in June 2010, there was an endorsement that the ICT Centre should accommodate PacCERT, PIRRC, PITA and ITU, and that the USP and SPC would take the initiative for ICT Development across the Pacific Region. This indicates that the USP has started to be recognised as a major provider of ICT Development for the region, and furthermore, could boost commitment levels within USP for ICT Development. It had very strong and positive effect on the effectiveness of the Project. - The delay of over seven months, in dispatching a JICA Chief Advisor, may have adversely influenced the effectiveness of the Project. However, the Project Coordinator/Network Expert and the Chief Advisor (dispatched seven months after project commencement) have worked very hard to minimize any negative impacts on the effectiveness of the project. - In Mid-Term Review, it was thought the absence of an ICT Centre Director, has affected the progress of the Project, in particular, Output 4. A new Director of the ICT Centre was formally assigned on the 23rd January 2012, and, currently, the Director is assigned to be in charge of creating a business plan, business incubation and the collaboration of the regional 	-

Evaluation Grid with findings

12/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
				<p>organisations.</p> <ul style="list-style-type: none"> - A problem regarding VAT exemptions also delayed the supply of some equipment, which was successfully resolved through the implementation of a temporary arrangement. - An impediment at PacCERT was financing, including that of staff salaries. USP has secured the staff salary for three years, and PacCERT will be necessary to be financially independent within three years. 	
Relevance	Was the project purpose in accordance to the needs of the target areas and society?	The position of tertiary education in the society.	The position of tertiary education within the Pacific regional strategy and Education/ICT Development Plan	<ul style="list-style-type: none"> - The demand is growing for human resources in Information and Communication Technology (ICT) in the Pacific region, and tertiary education organisations, including in Fiji, Australia and New Zealand, started to compete offering ICT related courses. - It is urgent for the USP to offer more professional ICT bachelor courses to respond the demand from the private sectors and to survive as the one of the best universities in the region. 	S
		The overall situation of tertiary education and ICT Sector.	Tertiary education and ICT statistics	<ul style="list-style-type: none"> - How the education services are delivered to remote area was one of the major challenges for the Pacific Islands nations. In the PALM 5, 'Sustainable Development', 'Capacity building of teachers and support for the creation of educational opportunities in isolated islands and rural areas' and 'Support human resource development for realization of sustainable development' were recognised cooperation under the Education Sector. - In the last ICT Ministerial meeting held in Noumea in 2011, the USP is officially recognised to be a centre of ICT development in the region, and it is now expected to offer ICT related courses to communities in the region, to support incubation, and to provide additional services regarding ICT. 	E
	Was the project purpose in	Counterparts' recognition of the project.	Opinions from concerned parties	<ul style="list-style-type: none"> - Through the interview survey with C/Ps, it was confirmed that All the C/Ps had high recognition in regards to the Project, in 	E3

Evaluation Grid with findings

13/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
	accordance to the needs of the target group?			particular for the component(s) they are working.	
		The position of the project within the counterpart organisations.		<ul style="list-style-type: none"> - It has become their own project and the ownership of the Project is high. - All C/Ps interviewed expressed their appreciation for the Project. 	S
	Was the project consistent with the regional and USP's plan and policies	Was it consistent with Regional development policy?	The position within the regional development policy.	<ul style="list-style-type: none"> - The Project is consistent with the Pacific Regional Digital Strategy under the Pacific Plan. - The Pacific Regional Digital Strategy is an initiative under the Pacific Plan to promote economic growth, sustainable development, good governance and security in Forum Countries. The Strategy establishes the priorities; improving access to communications technology; reducing costs; establishing higher bandwidth to the global ICT 'backbone'; removing inappropriate regulatory environments in order to foster higher levels of investment, and; strengthening ICT skills. 	E
		Was it consistent with USP strategic plan?	The position of ICT education within the strategic plan of USP.	<ul style="list-style-type: none"> - The USP is run by the University Council, which consist with Ministers for Education from member countries and representatives from PIF and SPC. In the Final Report, A Regional University of Excellence: Weaving Past and Present for the Future, A Vision to the Year 2020, which was endorsed by the University Council, there are four recommendations that directly related to the Project; The University should respond more fully to needs relating to ICT, given the high degree of relevance of this technology to the needs of the University and its member countries; Within Member Countries it is necessary to improve access to the facilities of the Centres and Campuses for those living outside the main centres; All University courses should be designed for flexible delivery by 2010 with measurable 	E

Evaluation Grid with findings

14/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
				<p>improvements to be targeted each year from 2005, and; Effective use of ICT is essential to attract new students from within and beyond the Pacific Region.</p> <ul style="list-style-type: none"> - In the USP Strategic Plan 2010 - 12, it was stated that, "By 2010, the University will have a new Information and Communications Technology (ICT) Centre, the largest in the Pacific Islands that will enable it to make a massive and sustainable contribution to the information technology needs of its member countries", furthermore, several strategies with regard to ICT were included within the Strategic Plan. - USP is currently developing a Draft Strategic Plan for 2013-2018 (as yet unpublished). The Deputy Vice Chancellor of USP informed the Team that ICT development remained at the core of their strategy, and that therefore the relevance of the Project would be strengthen rather than reduced. 	
	Was the project consistent with the Japanese ODA policy.	Was it consistent with the PALM commitment?	Priorities and action agenda of PALM.	<ul style="list-style-type: none"> - Leaders from Japan and the Pacific Islands Forum (PIF) countries met together for the Fifth Pacific Islands Leaders Meeting in May 2009. In the resulting, Action Plan of the Leader's Declaration, five measures were proposed by the Government of Japan, which included, 'Economic Growth', 'Sustainable Development', 'Good Governance', 'Security', and 'People to People Exchange ("Kizuna-Plan")'. Under the 'Sustainable Development' measure, 'Capacity building of teachers and support for the creation of educational opportunities in isolated islands and rural areas' and 'Support for human resource development for realization of sustainable development' were recognised areas of cooperation under the Education Sector. - In May 2012, the Sixth PALM was held, and "Sustainable Development and Human Security", which includes the 	E

Evaluation Grid with findings

15/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
				importance of promoting sustainable development and human security by delivering social services including health and education with a view to achieving the Millennium Development Goals, was still one of the priorities of Japan's assistance towards pacific nations.	
		Was it consistent with Japan's ODA rolling-plan for Fiji (South Pacific Region)?	Existence of tertiary education through ICT in the Japan's ODA rolling plan for Fiji (South Pacific Region)?	- The rolling plan of Japan's ODA for Fiji was revised in April 2012, and there are now two priority areas such as "Environment/Climate Change" and "Overcoming Vulnerability". Under "Overcoming Vulnerability", there is a development issue called "Strengthening Distance Learning in the Pacific Region". It includes the 'Remote Islands Area Education Support Program', and this program supports USP with improving facilities and equipment for distance learning and computer based education, and extends capacity building to support the utilization of the ICT Centre at USP through the technical cooperation project.	E
	How appropriate was the project for responding to the Educational development challenges of the regions?	Were the approaches of the project appropriate?	Situation of other projects programmes in tertiary education through ICT, support from other donors, schools, opinions from concerned parties	- The Project has provided a package of comprehensive technical coverage. There have been combined activities with regard to technology transfers, such as, JICA trainings in Japan, OJT, seminars and workshops by long-term and short-term experts. No problems were found with the methods used for technology transfers, and all activities relating to the transfers were highly regarded by all C/Ps concerned.	E
		Were the target groups and areas appropriate?		- Target groups and areas were selected by the combining effort among USP management and JICA. C/Ps regarded the target groups appropriate. - Competitors such as FNU will benefit through the ICT Centre functions under USP. Although they also wished to be target group, they are too immature to be qualified to take major role in	S

Evaluation Grid with findings

16/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
				ICT development in the region as a whole.	
		Were the scale and men/women ratio appropriate?		- Among 21 direct C/Ps for the Project, there are 6 C/Ps are women, however 3 of them are senior C/Ps and, considering the man/women ratio within the faculty, it does not call inappropriate.	A
		Was the project in the complementary relationship with activities/projects of other stakeholders?		- The USP considers Japan as the major contributor in ICT development. - Currently, the USP receives assistance from and/or are collaborating in ICT related activities with ADB (grant from India), Australian Government, New Zealand, WB and ITU. - It has been slow to formalise collaboration between the USP and SPC, however, on the 20 th of October 2011, USP and SPC signed MOU for increased collaboration.	S
	Will the Project likely to create a positive impact beyond the target groups?		Opinions from concerned parties	- The USP will be assisting with the e-learning installation for remote schools in Fiji. This indicates that the impact of the Project will have exceeded beyond the USP, as the C/Ps pass on knowledge that they have gained from the Project.	E
	Was there the comparative superiority of Japanese technology in this project?	Was it the field that Japan had accumulated know-how?	Relevant materials and opinions from concerned parties	- There was the comparative superiority of Japanese technology in the Project, since Japan has accumulated know-how in ICT and the Japan's experience has been useful in this Project.	S
		Was the Japan's experience useful in this project?			
		Has the application of other alternative technologies been examined?			

Evaluation Grid with findings

17/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
	Have there been any changes of the environment after the commencement of the Project?		Opinions from concerned parties	- There is no impact and/or changes of the environment after the commencement of the Project	-
Effectiveness	How much was the project purpose achieved? Will it be achievable upon the completion of the project?	How much were outputs produced?	(See 'verification of performance')		-
		Are there any outside factors to contribute to achieve the project purpose?			
		Are there any outside factors to prohibit achieving the project purpose?			
	Were there any changes in the important assumptions at the level of outputs to achieve the project purpose?	Are the important assumptions (output level) in the latest PDM still valid?	PDM and opinions from concerned parties	- There were some additional important assumptions at the level of outputs. All important assumption are still valid.	-
		Did the important assumptions influence the outputs?		- Many Important Assumptions at the level of outputs have been fulfilled; however, an Important Assumption, "The counterpart personnel in ITS, CFDL, SCIMS and ICT centre continuously work at USP", has not been entirely fulfilled due to the recent resignation of several C/Ps from SCIMS and ITS. It is hoped that this will not inhibit achievement of the Project Purpose.	-
	Were the outputs sufficient to fulfil the project purpose?	Did the outputs contribute towards fulfilling the project purpose?	PDM and opinions from concerned parties	- There are four Outputs designed to achieve the Project Purpose. Outputs 1, 2 and 3 relate to Project Purpose 1: 'Attractive CS/IS programmes are delivered across the region', and Outputs 2, 3	A

Evaluation Grid with findings

18/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
				and 4 relate to the Project Purpose 2: 'USP's capacity to deliver ICT services is enhanced'.	
	Were the indicators and the targets appropriate?			- It was found at the time of the Mid-Term Review that many indicators were not appropriate to assess the achievement level of outputs, and also not clearly stated nor verifiable. Based on the recommendation of Mid-Term Review, the Project Team revised PDM ver.1.0 to PDM ver 2.0, and most of the indicators are now verifiable. The Target Groups also clearly stated in the latest version (ver2.0).	A
Efficiency	Has the output been produced appropriately?		(See 'verification of performance')		-
	Are there any outside factors to prohibit achieving the outputs?		PDM and opinions from concerned parties	The activities contributed towards producing the output, and all interviewees were happy regarding to the activities.	S
	Were the project activities sufficient to produce outputs?	Did the activities contribute towards producing the outputs?		- Overall, most activities are related to produce the outputs.	S
	Were there any changes in the important assumptions at the level of activities to produce the outputs?	Are the important assumptions in the latest PDM still valid?		- They are still valid, however, in regards to VAT exemptions, it was added to the latest version of the PDM (ver 2.0) .	-
		Did the important assumptions influence the outputs?		- Most Important Assumptions at the level of activities have been fulfilled; however, one Important Assumption, "The stakeholders in the top management, ITS, CFDL, SCIMS and ICT Centre are actively involved in the Project", has not been totally fulfilled, possibly because the ICT Director was only assigned eight months ago and has not yet become fully involved in the Project.	-

Handwritten: *ms*

Evaluation Grid with findings

19/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
	Was input (amount and quality) appropriate? Was it executed timely?		(See 'verification of performance')		S
	Were the activities implemented timely?		PO and opinions from concerned parties	<ul style="list-style-type: none"> - The Team confirmed that the Project conducted most inputs were appropriate in quantity and quality, and performed appropriately to ensure that activities were conducted as planned. - There was some delay in the appointment of the Chief Advisor of the Project and for the procurement process of some equipment. Director for ICT Centre was appointed in January 2012. 	S
	Were outputs produced appropriate in comparison with similar projects?	Were there alternative methods with lower cost?	Report from similar projects, and opinions from concerned parties	<ul style="list-style-type: none"> - There is no similar project. - It is difficult to be more cost efficient, because of the remoteness and other factors in common in the Pacific Islands countries. - Contributing towards 12 countries within one institution is efficient. - Many equipment provided were not only improving system but also contributing to saving operation cost. 	-
		Were there alternative methods to achieve more with the same cost?			
	Was the level of project purpose achieved appropriate in comparison with similar projects?	Were there alternative methods with lower cost?		Same as above	-
		Were there alternative methods to achieve more with the same cost?			

Handwritten: *yes*

Evaluation Grid with findings

20/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
Impacts	Will the overall goal be achieved as the effect of the project with considering the performance of input, outputs, and activities?	Is there good chance to achieve the overall goal after 3-5 years of the completion of the project? Are indicators appropriate?	PDM, opinions from concerned parties	<p>It is too early to assess the projection to achieve overall goals. However, there are some findings and remarks as follows:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Indicator 3. The fact that the BNC/BSE bachelor programmes are internationally accredited: The BNC/BSE bachelor programmes will not be formally accredited by ACS until one year after the first student has graduated. Therefore, it will not be possible to achieve this indicator before 2017. - Indicator 4. Total enrolment in CS/IS programmes increases compared to 2010: Some faculties expressed a view that it might be appropriate to limit enrolment, in new courses only, (BNC/BSE) from 2011. - Indicator 5. Student/Computer Ratio: The Team considered that this indicator would not result directly from of achieving project purposes. However, the USP side considers that it is an important KPI for USP and the Project implementation has an impact on this indicator. - Indicator 6. Number of students at regional campuses increases compared to 2010: It is too early to assess the achievement of this indicator; however, the number of students at the Tonga campus has been increasing since 2010, and this upwards trend seems set to continue. 	-
	Are there obstacles identified to achieve the Overall Goal?		Opinions from concerned parties	- Not yet identified.	-
	Does the Overall Goal have close link with the project purpose?		PDM and opinions from concerned parties	- There has been close adherence with the Project Purposes	S
	Were there any	Are the important		- Still valid.	-

Handwritten: *AST*

Evaluation Grid with findings

21/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
	changes in the important assumptions at the level of project purpose to achieve the Overall Goal?	assumptions in the latest PDM still valid?		<ul style="list-style-type: none"> - Yes. - Regarding the political and institutional aspects of the sustainability, the USP is a capable and committed counterpart organisation to work alongside. - USP has vision to 2020, and there is fair possibility to expand their member countries from 12 to 15. - All member countries does not change their commitment. 	3
	Other than the Overall Goals, what other positive and negative impacts have occurred?	Has there been any effect on improvements to private sector ICT standard or policy of tertiary education?	Change in economic and social statistic data, and opinions from media, civil society, and concerned parties	<p>(1) E-learning installation for Adi Maopa Secondary School</p> <ul style="list-style-type: none"> - The USP will be assisting with the distance education and e-learning installation, if needs arises for remote schools in Fiji. USPNet Ku-band equipment was installed to Adi Maopa Secondary School on the 6th of February 2012. <p>(2) Positive impact to general public, beyond the target group of the Project</p> <ul style="list-style-type: none"> - In Tonga, Ku-band equipment was installed at Ha'apai High School, as the USP Ha'apai Learning Centre is located within the high school compound. Because of its unique setting, the USPNet at the Ha'apai Leaning Centre is not only providing a service for USP students, but also for members of the general public such as teachers, school students and government officers - The Project has started contributing towards ICT human resource development beyond just USP staff and students. This has been undertaken through providing events and seminars held at the ICT Centre for; FNU staff, ICT industry workers, government officers, staff of regional institutions, as well as school teachers and students. <p>(3) Increased numbers of students in Tonga Campus (Tongatapu and</p>	E

Evaluation Grid with findings

22/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
				Va'vau) - There has been a remarkable increase in enrolment numbers at the Vava'u Learning Centre, compared with the previous year (approx, 20% increase). In particular, numbers of on-line course students has increased to around 20, compared to 5 for the equivalent period in the previous year; this includes returning students from the USP Tonga Campus.	
		Has the project influenced to the social and cultural aspects such as gender, human rights, and poverty?		- ICT will contribute many aspects of the lives, however, it is too early to assess this question.	-
		Has there been any effect on technological innovation?		- Too early to assess.	-
		Were there any economic effect to the society, project staff, and beneficiaries?		- Many students hope to get better wages and jobs with the ICT related degrees. It will have economic effect to the society and target groups, but it is too early to assess.	-
		Any other effects?		- Too early to assess.	-
	Were there any different impacts depending on the gender, tribes or social hierarchy?			- It seems more Indo-Fijian engineers than others in the staff. However, USP consists of 12 member countries, and is an organisation with openness with the people from many different races, cultures and backgrounds.	-
Sustainability	Will the influence to the USP's policy and/or plan through ICT continue, after completion of the Project?		Opinions from concerned parties	- It is most likely the commitment of USP towards ICT Development in the region remains high.	2

ASJ

Evaluation Grid with findings

23/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
	How likely will the implementing organisations be able to maintain the effect of the Project after the completion of the Project.	Do the counterpart organisations have ownership and capacity to continue the project activities?	Opinions from concerned parties	<ul style="list-style-type: none"> - All C/Ps were highly aware and expressed their appreciation towards the Project. - Regarding the institutional aspects of the sustainability, the USP is a capable and committed counterpart organisation to work alongside. 	E
		Will the staff allocated be secured for the activities?	Budget to cover the activities and maintenance cost, and opinions from concerned parties.	<ul style="list-style-type: none"> - USP has allocated staff for activities, however, due to the resignation of several key C/Ps, and the late start of some activities, the technical aspect of sustainability is relatively weak in some activities.. 	S
		Will the budget including recurrent cost be secured?		<ul style="list-style-type: none"> - It is too early to say but USP commits to secure recurrent cost for activities. 	-
		Has maintenance and management of materials and equipment been carried out appropriately?	Existence and the use of a maintenance book, and opinions from concerned parties.	<ul style="list-style-type: none"> - The provision of equipment has almost completed. ITS maintain the equipment, and considering that they are still using Japanese grant funded C-band satellite in 2000 in use, many equipment will most likely be utilised and maintained under USP's good hands. 	-
	Was the technology transfer method of the project appropriate?	Was the technology transfer method accepted?	Opinions from concerned parties	<ul style="list-style-type: none"> - There were combined activities with regard to technology transfers such as, trainings in Japan, OJT, seminars and workshops by long-term and short-term experts. - No problems were found in the methods used for technology transfers, and all activities in relation to technical transfers were highly regarded by all concerned C/Ps. 	E
		Was it a technology to be able to use in the other areas?		<ul style="list-style-type: none"> - The USP will be assisting with the e-learning installation for remote schools in Fiji. This indicates that the C/Ps will be able to use the technology they gained in the other areas. 	S

Evaluation Grid with findings

24/24 Annex-2

	Evaluation Questions		Necessary Information / Data	Findings	
	Overall Theme	Sub Theme			
	Won't be any possibilities to fail the sustainability due to the lack of consideration of gender, poor, and socially disadvantaged group?			ICT is male dominant world, however, there are female senior officers within the USP, and it was very encouraging. The Team did not recognize the possibilities to fail the sustainability due to the lack of consideration of gender, poor, and socially disadvantaged groups. .	3

* The rating represents;
 Achievement level: "3" for achieved or completed, "2" for partially achieved or on-going, "1" for not achieved or before the commencement
 Quality of the work: "E" for Excellent, "S" for Satisfactory, "A" for Acceptable, "N" for Not acceptable, "-" for Not applicable

103

AS

Activity	2	3	4	5	6	7	8	9
1. Baseline Survey 2. Seminar: Software Quality Assurance, Software Performance Testing and Networking 3. Mentoring and advice on curriculum design 4. To implement new bachelor programs and review the course curricula. 5. End-line Survey		An expert conducted Baseline Survey					Curriculum Approval Processes in school (Board of School Meeting and PAC Meeting)	SCIMS-JICA Joint ICT Global Trend Seminar Joint ICT Global Vol.1 Software Trend Seminar Quality/Testing Vol.2 Network Engineering
1. Baseline Survey 2. To conduct survey on USPNet. Based on the result, implement required solutions including procurement and implementation of equipment 3. To provide expertise and advice on NOC establishment. 4. To improve bandwidth utilization efficiency by provided equipment and operation know-how. 5. To provide expertise and advice on mid term strategy for USPNet. 6. Training on ITIL and secure professional certification by ITS staff. To provide technical guidance to 7. End-line Survey	USPNet Task Force	An expert conducted Baseline Survey An expert provided advice. Initial Survey on Network Monitoring System. Discussed on necessary equipment for NOC Initial Survey on IT support and services delivery		Equipment Procurement	X MOU among USP-ADB-JICA An expert conducted survey and discussion on NOC	Equipment Procurement		
1. To provide expertise and advice on Moodle System Enhancement 2. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice. 3. To provide expertise and advice on Moodle System Enhancement		Discussion on Moodle System Enhancement					Equipment Procurement	
1. To participate in ICT Center working group and provide necessary advice. 2. To support providing ICT courses for communities of member countries. 3. Lectures: How ICT leveraged to support solving regional issues. 4. Incubation function such as holding IT entrepreneur / Social entrepreneur 5-1. To collaborate with other donors and to increase regional roles of ICT Center.	CFDL m-Learning working group					An expert provided advice.	X An CFDL Staff dispatched to long-term training in Japan	
1. To participate in ICT Center working group and provide necessary advice. 2. To support providing ICT courses for communities of member countries. 3. Lectures: How ICT leveraged to support solving regional issues. 4. Incubation function such as holding IT entrepreneur / Social entrepreneur 5-1. To collaborate with other donors and to increase regional roles of ICT Center.	ICT Centre Working Group						An expert conducted survey on business incubation	An expert provided advice on ICT Centre business plan Discussion on Incubation with Dept. of Communication, Fiji 3rd PacCERT
1. To provide expertise and advice on Moodle System Enhancement 2. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice. 3. To provide expertise and advice on Moodle System Enhancement	2nd PacCERT Working Group (2/11-2/12) 1st PacCERT Interim Board Meeting (2/19)		2nd PacCERT Interim Board Meeting		Pacific Regional ICT Ministry Meeting in Tonga (8/16-18)			

Activities	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
1. Baseline Survey											
2. Seminar: Software Quality Assurance, Software Performance Testing and Networking	N/A	N/A	N/A					2 Seminars			
3. Mentoring and advice on curriculum design	*2 Experts supported on curricula design.	*Approved by ASUC in FSTE *Marketing promotion				USP Approval x	Sanate Approval x	Support on curricula design x Council Approval		2 experts Support on curricula design	x 8/23 Mile Stone TV M Dr. Prof. Watanabe & Dr. Premanik
4. To implement new bachelor programs and review the course curricula.	N/A	N/A	N/A							2 New programs start	2 New programs start
5. End-line Survey	N/A	N/A	N/A								
1. Baseline Survey					Site Survey to VNUH (Feb 28 - Mar 6)						
2. To conduct survey on USPNet. Based on the result, implement required solutions including procurement and implementation of equipment.	*Expert made necessary advice on procurement of Ku-band E/Q.	N/A	N/A	2nd 1st E/Q	Ku-Training in Japan			Optimizer Installation(6)			
3. To provide expertise and advice on NOC establishment.	N/A	N/A	N/A								x 8/28 Mile Stone TV M w/ Mr. Kurachi
4. To improve bandwidth utilization efficiency by provided equipment and operation know-how.	*Expert made necessary advice on procurement of optimizer E/Q.										
5. To provide expertise and advice on mid term strategy for USPNet.	*Expert made preliminary discussion.	N/A	N/A								
6. Training on ITIL and secure professional certification by ITS staff. To provide technical guidance to establish IT support system for regional campuses.	N/A	*Expert made presentation on IT services at ITS Retreat and ITIL on ITS meeting.	ITIL Working Group	ITIL Working Group				ITIL Training	ITIL Training	E/Q procurement process	ITIL Training
7. End-line Survey	N/A	N/A	N/A					Advice on mid-term strategy of USPNet			
1. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A					Load Balancer Installation			
2. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	*Expert made necessary tech. advice on m-learning project.	*Discussion to unify two mobile projects is in process.			Unified mobile project starts activities.			Unified mobile project starts activities.			
3. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A		1st Unified mtg on Feb 10 2nd Unified mtg on Mar 24			Expert gives advice.	Expert gives advice.		
4. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A		Needs assessment by TV Mtg	2 Experts held workshops.			2 Experts held workshops.		
1. To participate in ICT Center working group and provide necessary advice.	N/A	*ICT Center committee is newly re-formed.	N/A					New Director to be appointed			
2. To support providing ICT courses for communities of member countries.	N/A	*To exchange views on EXPO with SCIMS.	*1st meeting on EXPO with FSTE.					To participate in Committee mtg and give necessary advice.	GISCO Academy	GISCO Academy International Conference X	
3. Lectures: How ICT leveraged to support solving regional issues.	N/A	N/A	m					Seminar: ICT case studies		ICT case studies	
4. Incubation function such as holding IT entrepreneur / Social entrepreneur seminars.	N/A	*Hearing to a candidate company is made and terms & conditions are under consideration.	*Hearing to EoI for fishery market needs.					1st Candidate will start activities FSTE EXPO 2011 X		Incubation seminar ICT EXPO 7/20-23	
5-1. To collaborate with other donors and to increase regional roles of ICT Center.	N/A	N/A	N/A						PITA		
6. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
7. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
8. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
9. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
10. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
11. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
12. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
13. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
14. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
15. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
16. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
17. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
18. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
19. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
20. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
21. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
22. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
23. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
24. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
25. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
26. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
27. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
28. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
29. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
30. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
31. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
32. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
33. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
34. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
35. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
36. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
37. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
38. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
39. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
40. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
41. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
42. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
43. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
44. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
45. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
46. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
47. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
48. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
49. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
50. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
51. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
52. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
53. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
54. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
55. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
56. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
57. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
58. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
59. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
60. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
61. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
62. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
63. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
64. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
65. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
66. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
67. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
68. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
69. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
70. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
71. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
72. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
73. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
74. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
75. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
76. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
77. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
78. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
79. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
80. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
81. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
82. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
83. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
84. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
85. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
86. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
87. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
88. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
89. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
90. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
91. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
92. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
93. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
94. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
95. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
96. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
97. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
98. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
99. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
100. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
101. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
102. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
103. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
104. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
105. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
106. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
107. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
108. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
109. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
110. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
111. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
112. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
113. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
114. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
115. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
116. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
117. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
118. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
119. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
120. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
121. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
122. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
123. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
124. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
125. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
126. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
127. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
128. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
129. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
130. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
131. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
132. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
133. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
134. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
135. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
136. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
137. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
138. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
139. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
140. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
141. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
142. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
143. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
144. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								
145. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	N/A	N/A	N/A								

Activities	9	10	11	12	1	2	3	4
1. Baseline Survey 2. Seminar: Software Quality Assurance, Software Performance Testing and Networking 3. Mentoring and advice on curriculum design 4. To implement new bachelor programs and review the course curricula. 5. End-line Survey			2 experts Support on curricula design	2 Experts gave advice		2 Experts gave advice	2 New programs continue	
1. Baseline Survey 2. To conduct survey on USPNNet. Based on the result, implement required solutions including procurement and implementation of equipment. 3. To provide expertise and advice on NOC establishment. 4. To improve bandwidth utilization efficiency by provided equipment and operation know-how. 5. To provide expertise and advice on mid term strategy for USPNNet. 6. Training on ITIL and secure professional certification by ITS staff. To provide technical guidance to establish IT support system for regional campuses. 7. End-line Survey		Ku-band installed at USP Giso and Honiara USP Halapai and Vavau in Tonga	Expert made survey at USP Melampa in Vanuatu	Ku-band Installed at USP Melampa in Vanuatu		NOG Support	x Mar 19 Received measuring equipment from Japan	
1. Advice on line advice (Reliability and Performance of Mobile System)			Advice on NOC	Advice on USPNNet		Advice on USPNNet		
2. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.	Unified mobile project starts activities		Expert gave advice	2 Expert held seminar		Expert made necessary advice		
1. To participate in ICT Center working group and provide necessary advice. 2. To support providing ICT courses for communities of member countries. 3. Lectures: How ICT leveraged to support solving regional issues. 4. Incubation function such as holding IT entrepreneur / Social entrepreneur seminars. 5-1. To collaborate with other donors and to increase regional roles of ICT Center.	x 9/27-29 IGF Kenya Webcast	x 10/14 JAXA Event				5 experts participated in ICT/Culture Conf. 2/22-24	Incubation support	
5-2. To collaborate with other donors and to increase regional roles of ICT Center	One engineer assigned and started		2 Experts hold Tech. Training	Expert holds Tech. Training	Kistone participated in APT in Tokyo.		2 Experts hold Tech. Training 3/5-7.	

Activities	5	6	7	8	9	10	11	12	1
1. Baseline Survey									
2. Seminar: Software Quality Assurance, Software Performance Testing and Networking	2 Trend Seminars					PacCERT Staff to Japan			
3. Mentoring and advice on curriculum design		2 Experts give advice(1). x 6/4-5 ACS visit		2 Experts give advice(2).					
4. To implement new bachelor programs and review the course curricula.	2 New programs continue			2 New programs continue.					
5. End-line Survey									
1. Baseline Survey									
2. To conduct survey on USPNet. Based on the result, implement required solutions including procurement and implementation of equipment.									
3. To provide expertise and advice on NOC establishment.	Advice on NOC(1)								
4. To optimize bandwidth utilization efficiency by provided equipment and operation know-how.									
5. To provide expertise and advice on mid term strategy for USPNet.	Ku-band installation in Labasa in Fiji and Lata in Solomon	Advice on USPNet(1) Ku-band Survey in Samoa		Installation of PCMA Ku-band survey in Tonga by evaluation team			Advice on USPNet(3)		
6. Training on ITIL and secure professional certification by ITS staff. To provide technical guidance to establish IT support system for various services	ITIL Support(1)		ITIL Support(2)				ITIL Support(3)		
7. End-line Survey									
1. Advice to improve reliability and performance of Mobile System									
2. To participate in working group of mobile learning and provide necessary advice.		Expert gives advice(1)			Expert gives advice(2) in Samoa Expert conducts seminar(1)		Expert conducts seminar(2)		
3. Seminar/Workshop on distance learning						OER Expert conducts seminar Expert conducts seminar(2)			
1. To participate in ICT Center working group and provide necessary advice.			x 6/15 To participate in Committee mtg and give necessary advice.						
3. To hold special seminars on how ICT can be leveraged to support solving issues in the Pacific region	2 Trend Seminars								
4. To provide business/research incubation functions in the ICT Centre		Incubation support(2)			Incubation support(3)		Incubation support(4)		
5. To collaborate with ICT related organizations and contribute to increase regional roles of the ICT Centre	PIRRC PITA ITU								
6. To provide necessary technical and operational advice on the ICT Centre	x May 21 PacCERT engineer started working	First Meeting 6/18-22	PacNOG Training 7/2-6 Equipment Installation	x 7/24 Board Meeting APT Meeting 7/23-25	Japan Training		Board Meeting		

List of Interviewees

Name	Title/Designation	Organisation	Date of Interview
Mr. Koichiro Komiyama	Manager, Global Coordination Division	JPCERT/CC	19 July 2012
Ms. Kaori Umemura	Liaison Officer, Global Coordination Division	JPCERT/CC	19 July 2012
Mr. Koki Sato	Analysis Center	JPCERT/CC	19 July 2012
Mr. Patrick Queet	Manager	PacCERT	2 Aug. 2012
Mr. Kazuyuki Tsuzuki	Director, Japan-Pacific ICT Centre	USP	2 Aug. 2012
Dr. Anjeela Jokhan	Dean	FSTE, USP	2 Aug. 2012
Dr. Theresa Koroivulaono	Acting Director	CFDL, USP	2 Aug. 2012
Mr. Semi Tukana	Founder & Chairman	Software Factory	2 Aug. 2012
Mr. Yoshinori Kurachi	President & CEO	Asnew Systems Inc.	2 Aug. 2012
Mr. Ivan Fong	Acting CEO	TFL	3 Aug. 2012
Mr. Joshua Loco	Computer Education	Ministry of Education	3 Aug. 2012
Mr. Fereti Atalifo	Manager, Project & Regional Development	ITS, USP	3 Aug. 2012
Dr. Sunil Lai	Senior Lecturer	SCIMS, FSTE, USP	3 Aug. 2012
Mr. Shinya Murakami	Project Coordinator	USP/JICA	3 Aug. 2012
Dr. Anna Hau'alofa'ia Koloto	Director, Tonga Campus	USP Tonga Campus	7 Aug. 2012
Dr. Mataso Paunga	Fellow for Planning Policy and Financing Education	USP Tonga Campus	7 Aug. 2012
5 staff for USP Tonga Campus	-	USP Tonga Campus	7 Aug. 2012
USP Students (6)	-	USP Tonga Campus	7 Aug. 2012

SP

Name	Title/Designation	Organisation	Date of Interview
Mr. Kisione W. Finau	Director, ITS	USP	8 Aug. 2012
Mrs. Tupou Nonu	Coordinator	Vava'u Learning Centre	8 Aug. 2012
USP Students (5)	-	Vava'u Learning Centre	8 Aug. 2012
Mr. Kazuyoshi Fukushima	Chief Advisor	USP/JICA	8 Aug. 2012
Mrs. Talei Ulufonua	Coordinator	Ha'apai Learning Centre	9 Aug. 2012
USP Students (4)	-	Ha'apai Learning Centre	9 Aug. 2012
Mr. Yoshimitsu Kamata	Councillor	Embassy of Japan in Tonga	10 Aug. 2012
Ms. Hanako Masuhara	Researcher/Advisor	Embassy of Japan in Tonga	10 Aug. 2012
Mr. Makoto Tsujimoto	Resident Representative	JICA Tonga Office	10 Aug. 2012
Mr. Shigeki Ishigaki	Project Formulation Advisor	JICA Tonga Office	10 Aug. 2012
Dr. Ester Batiri Williams	Deputy Vice-Chancellor / Project Supervisor	USP	13 Aug. 2012
Mr. Sioasi Sovaleni	Manager, Pacific ICT Outreach Programme, Economic Development Division	SPC	13 Aug. 2012
Mr. Takeshi Tanabe	Councillor	Embassy of Japan in Fiji	13 Aug. 2012
Mr. Hideaki Kuroki	Second Secretary	Embassy of Japan in Fiji	13 Aug. 2012
Mr. Kenichiro Yoshida	Assistant Resident Representative	JICA Fiji Office	13 Aug. 2012
Dr. Isao Takatori	CEO	Xn&Co., Ltd	14 Aug. 2012
Dr. Kader Hiroshi Pramanik	Special Advisor to the President	JTEC	14 Aug. 2012
Mr. Shumon Yoshiara	Resident Representative	JICA Fiji Office	15 Aug. 2012
Mr. Yutaka Fukase	Deputy Resident Representative	JICA Fiji Office	15 Aug. 2012

Input of USP side

Annex-5 (1)

(1) Summary of USP's Input

(FJD)

Items	FY2009	FY2010	FY2011	FY2012 Q1
General Operation Cost	140.00	4,440.00	5,440.00	1,360.00
Travel Cost	0.00	25,000.00	120,400.00	10,600.00
Meeting Cost	200.00	3,200.00	2,000.00	0.00
Others (Telecommunication)	140.00	840.00	320,840.00	160,210.00
Annual Total	480.00	33,480.00	448,680.00	172,170.00
Total Expenses as of June 30, 2012	654,810.00			
Equivalent in JPY (1FJD=JPY44.87)	¥29,381,325			

* ICT Centre's Staff Costs per year is approximately 493,000 FJD

** ICT Centre's Non-Staff Operation Costs per year is approximately 604,100 FJD

(2) List of Counterparts (C/Ps) - As of August, 2012

1. Project management

Designation	Name	Position within the USP	Period	Remarks
Project Supervisor	Dr. Esther Williams	Deputy Vice-Chancellor	Feb. 2010 - Current	
Project Director	Prof. Eduard Babulak	ICT Centre Director & Head of SCIMS	Feb. - May. 2010	Resigned, Currently vacant
Project Leader for CS/IS component	Dr. MGM Khan	Acting Head of SCIMS	Feb. 2010 - Feb. 2012	
Project Leader for CS/IS component	Dr. Allok Mishra	Head of SCIMS	Feb. 2012 - Jul. 2012	
Project Leader for CS/IS component	Dr. Anjeela Jokhan	Dean, FSTE	Jul. 2012 - Current	
Project Leader for USP Net component / PacCERT	Mr. Kisione Finau	Director, ITS	Feb. 2010 - Current	
Project Leader for Distance Education Component	Prof. Santosh Panda	Director, CFDL	Feb. - Aug. 2010	Resigned
Project Leader for Distance Education Component	Mr. Valentine Hazelman	Senior Instructional Designer, CFDL	Feb. 2010 - Jan. 2011	Senior Instructional Designer for CFDL, currently PhD Study overseas
Project Leader for Distance Education Component	Dr. Theresa Koroivulaono	Ag. Director, CFDL	Jan. 2011 - Current	
Project Leader for Incubation	Mr. Kazuyuki Tsuzuki	Director, Japan-Pacific ICT Centre	Jan. 2012 - Current	

2. Other Direct Counterparts

Designation	Name	Position within the USP	Period	Remarks
Project Members from FSTE*	Dr. Anjeela Jokhan	Dean, FSTE	Feb. 2010 - July 2012	Assigned as the Leader for CS/IS Component from July 2012
	Dr. Jito Vanualailai	Associate Professor, SCIMS and Associate Dean (Research & Graduate Affairs)	Feb. 2010 - Current	
	Dr. Bibhya Sharma	Senior Lecturer, SCIMS & Associate Dean (Learning & Teaching)	Feb. 2010 - Current	
	Dr. Sunil Lal	Senior Lecturer, SCIMS, FSTE	Feb. 2010 - Current	
	Dr. Sharline Dai	Senior Lecturer, SCIMS, FSTE	Feb. 2010 - Dec. 2010	Resigned
	Dr. Khalil Shihab	Associate Professor, SCIMS, FSTE	Apr. 2011 - Jul. 2012	Resigned
Project Members from ITS	Mr. Josese Rayuvu	Deputy Director, ITS	Feb. 2010 - Current	
	Mr. Peni Sigabalavu	Manager, User Services, ITS	Feb. 2010 - Current	
	Mr. Fereti Atalifo	Manager, Projects & Regional Development, ITS	Feb. 2010 - Current	
	Mr. Marika Qalomai	USPNet Assistant Engineer, ITS	Feb. 2010 - Current	
	Mr. Ajit Sharma	Manager, Infrastructure, ITS	Feb. 2010 - May. 2011	Resigned due to PhD Study overseas
	Mr. Sanjeet Sharma	Analyst Programmer, ITS	Feb. 2010 - May 2012	Resigned
	Mr. Edwin Prasad	Systems Engineer, ITS	Feb. 2010 - Current	
Project Members from CFDL	Mr. Javed Yusuf	Educational Technologist, CFDL	Feb. 2011 - Current	

CV

	Ms. Alanieta Lesuma-Fatiaki	Instructional Designer, CFDL	Feb. 2011 - Current	
	Ms. Rokosiga Morrison	Instructional Designer, CFDL	Feb. 2010 - Current	
	Mr. Evan Naquiolevu	Educational Technologist, CFDL	Feb. 2011 - Current	Currently in Long-term Training in Japan
	Mr. Dhiraj Bhartu	Learning System Manager, CFDL	Feb. 2010 - Current	
	Mr. Varunesh Rao	Learning Systems Administrator, CFDL	Feb. 2010 - Current	
Project Members from ICT Centre	Ms. S. Joan Yee	University Librarian	Feb. 2010 - Current	
	Ms. Sateshni Sharma	Tutor, SCIMS, FSTE	May. 2011- Mar. 2012	Resigned
Project Members from ICT Centre	Mr. Patrick Queet	Manager, PacCERT	Jun. 2012 - Current	
	Mr. Thomas Murgan	Technical Staff, PacCERT	Jun. 2012 - Current	

* CS Lecturers are involved in the curricula development activities for new bachelor programmes.

* Stakeholders from other faculties, sections are also involved in the m-Learning activities.

102

Input of JICA's side

Annex-6 (1)

(1) Summary of JICA's input

(FJD)

Items	FY2009	FY2010	FY2011	FY2012 Q1
General Operation Cost	343.65	11,752.58	6,598.20	7,060.47
Travel Cost	0.00	8,220.75	14,725.80	13,288.20
Meeting Cost	400.00	200.00	397.50	0.00
Equipment Provision	0.00	621,956.00	264,667.00	0.00
Annual Total	743.65	642,129.33	286,388.50	20,348.67
Total Expenses as of June 30, 2012	949,610.15			
Equivalent in JPY (1FJD=JPY44.87)	¥42,609,007			

Input of JICA's side

Annex-6 (2)

(2) List of Experts

Position	Name	Organization		2010												2011								M/M						
				2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	Total at USP							
Chief Advisor	Mr. Kazuyoshi Fukushima	Excel International Co., Ltd.											27			12		23			22		22				20	9.07		
Project Coordinator/Network	Mr. Shinya Murekami	-		1		14										12	314	21			90						91	17.90		
ITIL/Software Engineering (Seminar)	Mr. Go Ota	Padeco Co.,Ltd.	Padeco Team Leader ITIL Software Engineering		13	28				19	8		28	13		5	2					8	22		4	18			3.63	
Evaluation (Education)	Ms. Junko Toyoshima	Padeco Co.,Ltd.	Evaluation (Education)		27	21				20			17			28						15				15			0.77	
Curriculum Advisor (Software Engineering)/Mobile Technology	Prof. Shigeoyoshi Watanabe	Padeco Co.,Ltd.	Curriculum Advisor Mobile Technology						19	18			11												25	18			3.97	
Satellite Network / Curriculum Advisor (Net-Centreic Computing)	Dr. Pramod Kader Hiroshi	Padeco Co.,Ltd.	Satellite Network Curriculum Advisor		20					20					65			11			31		29	16		24		26	7.43	
Network Engineering (Seminar)	Mr. Ryoza Hiratsuka	Padeco Co.,Ltd.	Network Engineering										18	51	3						18						33		0.53	
Evaluation (ICT) / Network Monitoring System/Network Engineering (Seminar)	Mr. Yoshinori Kurachi	Padeco Co.,Ltd.	Evaluation (ICT) Network Monitoring Network Engineering		27	21			19	18												17	1		18	1			2.77	
Incubation 1	Prof. Fujinobu Takahashi	Padeco Co.,Ltd.	Incubation 1		23				30			7	15									15					16	24	9	0.60
Incubation 2	Mr. Yoshio Chikamatsu	Padeco Co.,Ltd.	Incubation 2									11	25	3												16	31	16	1.30	
Distance Learning Pedagogy 1	Prof. Katsuki Suzuki	Kumamoto University	Distance Learning Pedagogy 1																		11	28							0.57	
Distance Learning Pedagogy 2	Prof. Junko Nemoto	Kumamoto University	Distance Learning Pedagogy 2																		11	28							0.57	
Information Security (CERT) 1	Mr. Koichi-ro Komiyama	JPCERT/CC	Information Security (CERT) 1																							16	31	16	0.53	
Information Security (CERT) 2	Ms. Kaori Umemura	JPCERT/CC	Information Security (CERT) 2																							16	31	16	0.53	
				Total M/M																				50.17						

(2) List of Experts

Position	Name	Organization	2011				2012							M/M Total at USP
			9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	
Chief Advisor	Mr. Kazuyoshi Fukushima	Excel International Co., Ltd.	9	22	1	19	14			27	13			8.90
Project Coordinator/Network	Mr. Shinya Murakami	-		44		49	6	10		1	12			9.60
Curriculum Advisor (Software Engineering)/Mobile Technology	Prof. Shigeyoshi Watanabe	Padeco Co.,Ltd.			28	28		17	19			25	26	3.20
Satellite Network / Curriculum Advisor (Net-Centreic Computing)	Dr. Pramanik Kader Hiroshi	Padeco Co.,Ltd.			28	3		10		8				4.33
ITIL / Network Monitoring System / Network Engineering (Seminar)	Mr. Yoshinori Kurachi	Padeco Co.,Ltd.			4	12		3	5		4	4	24	4.70
Software Engineering (Seminar)	Mr. Ryo Saito	Padeco Co.,Ltd.				39			32		23	10		0.60
Incubation 1 / Leader (Padeco)	Mr. Yoshio Chikamatsu	Padeco Co.,Ltd.									18			0.00
Incubation 2	Mr. Isao Takatori	Padeco Co.,Ltd.						17	19			27	15	1.73
Distance Learning Pedagogy 1	Prof. Katsuaki Suzuki	Kumamoto University			12	24						20		0.43
Distance Learning Pedagogy 2	Prof. Junko Nemoto	Kumamoto University			14	24								0.37
Information Security (CERT) 1	Mr. Koichiro Komiyama	JPCERT/CC							1	9			9	0.47
Information Security (CERT) 2	Ms. Nobuyo Hiratsuka	JPCERT/CC		22	13				9				9	1.17
Information Security (CERT) 3	Mr. Hiroki Sato	JPCERT/CC		22	13								13	0.73
Information Security (CERT) 4	Mr. Takuho Mitsunaga	JPCERT/CC			13	2			1	9				0.93
ICT and Culture 1	Prof. Toshio Kosuge	Digital Hollywood University				19		20	27					0.27
ICT and Culture 2	Prof. Kenji Saga	-						20	27					0.27
ICT and Culture 3	Prof. Masahiko Inami	Keio University						20	27					0.27
ICT and Culture 4	Prof. Naoko Tosa	Kyoto University						20	27					0.27
ICT and Culture 5	Prof. Minoru Sugaya	Keio University						20	27					0.27
														38.51

Input of JICA's side

Annex-6 (3)

(3)-1: List of Training and Seminars (Japan)

As of 31 July 2012

Category	Course Name	Place	Duration, Times	Contents	Target group	No. of Participants
Training in Japan	Educational Technology-Based Instructional Systems	JICA Okinawa Centre (Kumamoto Uni.)	1.5 years, Once	To make an effective e-learning program (distance learning by the internet)	CFDL	1
	Network Monitoring	Asnew Co., Ltd., Nomura Research Institute, Fujitsu SSL, etc.	12 days, Once	To obtain practical knowledge and techniques for NOC functions and operations as well as the integrated network monitoring system.	Technical staff of NOC/ITS	2
	Ku-band Satellite Communication	JTEC, BHN Association, KDDI, NICT, JAXA, ARIB, NTT Docomo, etc.	19 days, Once	To obtain practical knowledge and operational techniques for effective building, operation and further extension of USP Ku-band satellite	Technical staff of USPNet/ITS	2
	Mobile Learning	NTT Data, Softbank, Cybirds, The Open University of Japan, Aoyama Gakuin University, Mie University, and Kyoto University	12 days, Once	To understand outline of m-learning projects in Japanese tertiary education, to recognise technological and pedagogical elements for effective m-learning implementation, to evaluate good practice to apply USP m-learning	Professor of FSTE / Staff of CFDL	2
	IT Engineering Trainer in Public Institution	JICA Sapporo Centre	75 days, Once	To share the latest IT technologies to students and engineers, and to increase the number of experts and engineers having available IT technologies to apply to industrial development and better standards of life in participants' respective countries.	SCIMS	1
	IT Security (planned)	JPCERT/CC	14 days, Once	To obtain basic skills for IT securities such as incident handling and malware analysis.	PacCERT	2
	Subtotal		6 courses	Subtotal		10 participants

6/21

#57

Input of JICA's side

Annex-6 (3)

(3)-2: List of Training and Seminars (Fiji)

As of 31 July 2012

Category	Course Name	Duration, Times	Target group	No. of Participants
Local Seminar & Workshops	SCIMS-JICA Joint ICT Global Trend Seminar Series Vol.1 "Software Quality Assurance"	2 hours sessions x 6 days	SCIMS, ITS, CFDL, Students and Local IT Industry	49
	SCIMS-JICA Joint ICT Global Trend Seminar Series Vol.2 "Network Engineering"	2 hours sessions x 5 days	SCIMS, ITS, CFDL, Students and Local IT Industry	60
	SCIMS-JICA Joint ICT Global Trend Seminar Series Vol.3 "Software Human Interface & User Centred Design"	2 hours sessions x 5 days	SCIMS, ITS, CFDL, Students and Local IT Industry	65
	SCIMS-JICA Joint ICT Global Trend Seminar Series Vol.4 "Cloud Computing & Security"	2 hours sessions x 5 days	SCIMS, ITS, CFDL, Students and Local IT Industry	61
	SCIMS-JICA Joint ICT Global Trend Seminar Series Vol.5 "Software Testing Tools"	2 hours sessions x 5 days	SCIMS, ITS, CFDL, Students and Local IT Industry	56
	SCIMS-JICA Joint ICT Global Trend Seminar Series Vol.6 "Android Programming and ITIL"	2 hours sessions x 4 days	SCIMS, ITS, CFDL, Students and Local IT Industry	63
	ITIL Seminar for ITS Managers and Senior Engineers	1 session x 2 hours, 1 day	ITS	13
	ITILv3 Foundation Certification Seminar	4 x 2 hours sessions, 2 days	ITS, SCIMS and CFDL	44
	ITS-JICA Joint ITIL Seminar	1 hour sessions, 2 days	ITS Staff	44
	Cisco-JICA Collaboration Distance Seminar Vol.1 "A Latest Data Center Solution Case with Cloud Technology - Borderless Networks by Cisco"	2.5 hours, 1 day	USP Staff, USP Students, FNU Staff and Fiji ICT Industries	21
	Cisco-JICA Collaboration Distance Seminar Vol.2 "Latest Cases of IPv6"	2.2 hours, 1 day	USP Staff, USP Students, FNU Staff and Fiji ICT Industries	22
	CFDL-JICA Distance Learning Capacity Building Workshop Vol.1	8 x 3 hours sessions, 3 days	CFDL and Faculties	44
	CFDL-JICA Distance Learning Capacity Building Workshop Vol.2	3 hours session, 1 day	CFDL and Faculties	26
	USP-JICA Public Seminar Vol.1 "How Do We Forecast Social Phenomena Applying Constructive Computational model?"	1 hour session, 1 days	USP Staff, Students, and General Public	40+
	USP-JICA Public Seminar Vol.2 "Online Course Methodologies and International	1 hour session, 1 days	USP Staff, Students, and General Public	40+
	USP-JICA Public Seminar Vol.3 "Example Open Courses of Graduate School of Instructional System at Kumamoto University"	0.75 hour session, 1 days	USP Staff, Students, and General Public	60+
	USP-JICA Public Seminar Vol.4 "m-learning: Linking Classroom Education to Home Study with Mobile Phone and TV Broadcasting"	0.75 hour session, 1 days	USP Staff, Students, and General Public	60+
	PacCERT CSIRT Boot Camp Training "Network Forensics and Web Application Security"	6.5 hours sessions, 3 days	PacCERT Stakeholders, Government, ISPs, Financial Institutions,	30
	Subtotal	18 courses	Subtotal: 800+ participants	

Input of JICA's side

Annex-6 (3)

(3)-3: Symposium and Seminars for SPICTEX and International Conference at Japan-Pacific ICT Centre

As of 31 July 2012

Category	Course Name	Duration, Times	Target group	No. of Participants
SPICTEX and International Conference	SPICTEX2011 JICA Public Symposium No.1 "CSIRT for Making a safe, Clean and Reliable Cyber Space"	2 hours session	USP Staff, Students, ICT Industries, and General Public	80+
	SPICTEX2011 JICA Public Symposium No.2 "ICT Business Incubation"	2 hours session	USP Staff, Students, ICT Industries, and General Public	60+
	SPICTEX2011 JICA Public Seminar No.1 "Ku- Band Satellite Communication Initiative at USP for the South Pacific"	1 hour session	USP Staff, Students, ICT Industries, and General Public	20+
	SPICTEX2011 JICA Public Seminar No. 2 "Importance of Open Source Technologies and eHealth Applications for ICT incubations"	1 hour session	USP Staff, Students, ICT Industries, and General Public	20+
	USP-JICA International Conference "ICT and Oceanian Culture": "The History of the Japan- Pacific ICT Centre and Regional Objectives and Aims - ICT and Cultural Policies"	30-45 min. per session	USP Staff, Students, Regional Agencies and General Public	100+
	USP-JICA International Conference "ICT and Oceanian Culture": "Roles of the Japan-Pacific ICT Centre: Preserving Cultural Heritage in the Pacific and Creating New Cultures using ICT"			
	USP-JICA International Conference "ICT and Oceanian Culture": "Beyond Visual Experience"			
	USP-JICA International Conference "ICT and Oceanian Culture": "Art, Culture and			
	USP-JICA International Conference "ICT and Oceanian Culture": "How Economic and Cultural Values in Small Markets can be Sustainable Beyond the Age of Media			
	2 events	Subtotal: 280+ participants		

Provision of Equipment - Part 1

Annex - 6(4)

Name of Contract	Counter Party	Contractual Coverage		Target Price	Contracted Price	Contract Method	Contract Date	Delivered Date	Specification	Serial Number	Delivered to	Installed In	Date Started to Use	Use Frequency	Product Lifetime
Supply of the Equipment for the ICT for Human Development and Human Security Project at the University of the South Pacific	Datec Fiji Limited	IBM System x3250 M3 Server	1	F\$54,000	F\$52,325	Negotiation with Estimates	2010.05.26	2010.7.8	1U Rackmount Intel Xeon 4C X3460, 8GB RAM, 300GB SAS HDD x4 (RAIDS + Spare)	99A7027	ICT Center Server Room	ICT Centre Server Room Server Rack	2010.07.12	24 Hours/7 Days	5 years
		IBM System x3650 M2 Server	1						2U Rackmount Intel Xeon 4C E5520, 8GB RAM, 500GB SATA HDD x 6 (RAIDS + Spare), Redundant Power Supply	99V0167		ICT Centre Server Room Server Rack		24 Hours/7 Days	5 years
		Desktop Computer HP 6000 PRO MT	2						Intel Core 2 Quad Q9400 2.66GHz, 4GB RAM, 320GB HDD, Win7 Pro, Asus 23" Full HD Wide LCD Monitor	AUD019039W(PC) A2LMTF077522(LCD) AUD0190382(PC) A2LMTF077562(LCD)		ICT Centre USPNet Control Room (NOC)		24 Hours/7 Days	5 years
		NEC 46" Commercial LCD Panel	2						NEC LCD4615, 46" Full HD LCD Commercial Monitor, Wall mount Kit	08NAIGAN-04000513NA 08NAIGAN-04000515NA		ICT Centre USPNet Control Room (NOC)		24 Hours/7 Days	5 years
		UPS 1500VA (APC)	2						APC SUA1500RM12U-3XW-3 YEAR XW BUNDLE	AS1005140762 AS1005140706		ICT Centre USPNet Control Room (NOC) ICT Centre Server Room Network Rack		24 Hours/7 Days	5 years
		UPS 750VA (APC)	2						APC SUA750I-3XW-3 YEAR XW BUNDLE	AS1007221164 AS1007221150		ICT Centre USPNet Control Room (NOC)		24 Hours/7 Days	5 years
(Abbreviated)	VT Solution	IBM System x3550 M2 Server	1	F\$26,000	F\$10,488	Negotiation with Estimates		2010.9.22	Intel Xeon 4C 2.26GHz, 8GB RAM, 4GB RAM, 300GB SAS HDD x4 (RAIDS + Spare), Redundant Power Supply	99H3716	ICT Center Server Room	ICT Centre Server Room Server Rack	2011.02.21	24 Hours/7 Days	5 years
	UPS 750VA (APC)	1			APC SmartUPS 750VA	AS1022142836			CFDL e-Lab	CFDL e-Lab	24 Hours/7 Days	5 years			
(Abbreviated)	Datec Fiji Limited	Barracuda Load Balancer 340	1	F\$15,418		Negotiation with Estimates		2010.10.25	Barracuda Load Balancer model 340	BAR-BF-213263	ICT Center Server Room	ICT Centre Server Room Server Rack		24 Hours/7 Days	5 years
	Desktop Computer HP elite 8100 CMT	1	Intel Core i5-670, 4GB RAM, 160GB HDD, Win7 Pro, Asus 24" Wide LCD						AUD032044WV(PC) A4LMQSO4619(LCD)	CFDL e-Lab	CFDL e-Lab	24 Hours/7 Days		5 years	
Supply of the Equipment for the ICT for Human Development and Human Security Project at the University of the South Pacific	IDirect Asia Pte Ltd.	Web Accelerator Optimizer for Hub (single)	1	#####	(Original Contract) US\$311,103.25 (After Contract Modification) US\$303,453.00	Single Tendering Contract	(Original Contract) 2010.11.26 (Contract Modification) 2010.12.31	2010.12.22	Stampede FX2000	FX2000-A001-00514	USP Satellite Earth Station, Laucala Campus, Fiji	USP Satellite Earth Station, Laucala Campus, Fiji	Q2, 2012	Installation Work In Progress	5 years
		Web Accelerator Optimizer for Hub (redundant)	1						Stampede FX2000	FX2000-A001-00522		USP Satellite Earth Station, Laucala Campus, Fiji		Installation Work In Progress	5 years
		Web Accelerator Optimizer for Remote	5						Stampede FX1000	FX1000-A001-00519, FX1000-A001-00522, FX1000-A001-00523, FX1000-A001-00520, FX1000-A001-00521		Currently in USP Satellite Earth Station and will be installed in 5 Remote Campus (Tonga, Samoa, Solomon Islands, Vanuatu, Kiribati)		Installation Work In Progress	5 years
		Hub Cancellor	1						ViaSat VPCMA-70 PCMA Cancellor	042809310172, 042809490313		USP Satellite Earth Station, Laucala Campus, Fiji		Installation Work In Progress	5 years
		L-Band Synthesized UP & Down Converter	3						Agilis AUC-284 L-BAND Converter, IDirect Redundancy	9200037356, 194774,194773 CC3041-00-0200		USP Satellite Earth Station, Laucala Campus, Fiji		24 Hours/7 Days	5 years
		Spectrum Analyser	1						Extech (Contract Modification) IDirect SkyMonitor Model 1880	0053		USP Satellite Earth Station, Laucala Campus, Fiji		24 Hours/7 Days	5 years
		Ku-Band Line Card	1						IDirect Model XLC-11	024612		USP Satellite Earth Station, Laucala Campus, Fiji		24 Hours/7 Days	5 years
		Ku-Band Hub Antenna	1						CODAN 40W RBUC	A940289A0003 A940289A0004		TV Studio, Communication Building, USP Laucala Campus, Fiji		24 Hours/7 Days	5 years
		Remote Sites Ku-Band Satellite Units	10						IDirect Model X3	042557, 052497, 051819, 041606, 041691, 041208, 052439, 051971, 052291, 052448		USP Satellite Earth Station, Laucala Campus, Fiji		24 Hours/7 Days	5 years
		Web Accelerator Optimizer for Remote	1						Stampede FX1000	FX1000-A001-00507	ICT Center Server Room	Currently in USP Satellite Earth Station will be installed in Marshall Islands Campus		Installation Work In Progress	5 years

Provision of Equipment - Part 2

Annex - 6(4)

Name of Contract	Counter Party	Contractual Coverage	Target Price	Contracted Price	Contract Method	Contract Date	Delivered Date	Specification	Serial Number	Delivered to	Installed In	Date Started to	Use Frequency	Product Life/Time
PacCERT and ITIL Equipment for the ICT for Human Development and Human Security Project at the University of the South Pacific	Graphic Equipment Limited	DELL PowerEdge R410 Rack Mount Server	3	F\$93,730.00	Negotiation with Estimates	2011.08.05	2011.08.31	1U Rackmount Intel Quad Core E5506 Xeon CPU 2.13GHz, 8GB Memory, 4x300GB 15kRPM SAS 3.5", SATA 8xDVD+-RW Drive	JWWS92S 1XWS92S HWW592S	Project Office, ICT Centre	ICT Centre Server Room Server Rack	2011.10.27	24 Hours/7 Days	5 years
		APC Smart UPS 1500VA	3				2011.10.17	APC SmartUPS 1500VA USB & Serial 230V	AS1134241251 AS1134241254 AS1134241261	Project Office, ICT Centre	USP Lata Learning Centre (Solomon Islands) Project Office Project Office	Q2, 2012	24 Hours/7 Days	5 years
		APC Smart UPS 750VA	5				2011.09.23	APC SmartUPS 750VA USB & Serial 230V	AS1121222943 AS1121222926 AS1121222930 AS1121222938 AS1121222935	Project Office, ICT Centre	PacCERT Office, ICT Centre	2011.10.27	24 Hours/7 Days	5 years
		USP Portable Hard Drive	4				2011.08.31	Transcend 250GB External Store Jet 2.5" D2	395643-0220 395643-0219 400712-0098 400712-0096	Project Office, ICT Centre	PacCERT Office, ICT Centre		When Necessary	3 years
		Manage Engine Desktop Central 7.0	1				2011.08.30	Distributed Edition, Annual Subscription fee for 2500 computers and single user	n/a	Project Office, ICT Centre	User Services, ITS, ICT Centre	2011.09.01	Daily	1 year (Annual Licence Product; The licences will be renewed by USP for the subsequent years)
		Manage Engine Support Central Plus 7.7	1					Professional Edition, Annual Subscription fee for 100 support representatives with 3 business units	n/a					
		Annual Subscription fee for Additional 7 Business Unit	1					Annual subscription fee for additional 7 business units	n/a					
		Annual Subscription fee for 10 concurrent sessions for remote desktop	1					Annual subscription fee for 10 concurrent sessions for remote desktop (Zoho meeting)	n/a					
(Abbreviated)	Graphic Equipment Limited	OELL 1410X Projector	1	F\$1,200.00	Negotiation with Estimates		2011.10.06	XGA, 2700 ANSI Lumens, 1:2000, One Year Warranty	HC804P1	Project Office, ICT Centre	PacCERT Office, ICT Centre		When Necessary	3 years
(Abbreviated)	Graphic Equipment Limited	Planet 16ports Gigabit Ethernet Switch	2	F\$650.00	Negotiation with Estimates		2011.10.21	16 Ports Gigabit Ethernet Switch (GSW-1601)	AS00140C00005 AS00140C00003	Project Office, ICT Centre	PacCERT Office, ICT Centre ICT Centre Server Room Server Rack	2011.10.27	24 Hours/7 Days	5 years
(Abbreviated)	Techmart	Laptop PC	4	F\$9,936.00	Negotiation with Estimates		2011.09.23	ASUS X52JT-B1 Core I7-740QM Quad-Core 1.73GHz 15.6" LCD	ACN08C0044KJ527 ACN08C0044NL527 ACN08C0044HU527 ACN08C0044XM527	Project Office, ICT Centre	PacCERT Office, ICT Centre		Daily	5 years
(Abbreviated)	Dalec	Ethernet Security Router	2	F\$9,057.00	Negotiation with Estimates		2011.11.07	Cisco 851-K9-V02	FGL153420YF FGL153420Y6	Project Office, ICT Centre	ICT Centre Server Room Server Rack PacCERT Office, ICT Centre	2011.11.07	24 Hours/7 Days	5 years
		Annual SMARTNet Subscription	6				2011.11.09	SMARTNet 8x5xNBD	91961148	Project Office, ICT Centre	PacCERT Office, ICT Centre	2011.11.09	When Necessary	1 year (Annual Support Package; The support will be renewed by PacCERT for the subsequent years)
		Multifunction Color Laser Printer	1				2011.12.05	Lexmark x544DN	94F6C5G 2204494	PacCERT Office, ICT Centre	PacCERT Office, ICT Centre		Daily	5 years
(Abbreviated)	VT Solutions	Large LCD Monitors	2	F\$7,482.77	Negotiation with Estimates		2011.09.28	SONY 46" EX500 BRAVIA		Project Office, ICT Centre	PacCERT Office, ICT Centre	2012.06.11	Daily	5 years
		LCD Wall Mount Bracket	2				2011.12.20	Brateck PLB12 Wall Mount Bracket Supports	n/a	PacCERT Office, ICT Centre	PacCERT Office, ICT Centre		Daily	5 years
		USB2.0 Flash Memory	4				2011.09.28	Xington 4GB DT153 White Grav USB Flash Drive	n/a	Project Office, ICT Centre	PacCERT Office, ICT Centre		When Necessary	3 years
		Wireless Laser Pointer	1				2011.09.28	Logitech R400 Wireless Presenter	n/a	Project Office, ICT Centre	PacCERT Office, ICT Centre	10/27/2011	When Necessary	3 years
		USB to Serial Adaptor	2				2011.09.28	HP Belkin USB to Serial Adaptor	n/a	Project Office, ICT Centre	PacCERT Office, ICT Centre		When Necessary	3 years

Provision of Equipment - Part 3

Annex - 6(4)

Name of Contract	Counter Party	Contractual Coverage	Target Price	Contracted Price	Contract Method	Contract Date	Delivered Date	Specification	Serial Number	Delivered to	Installed In	Date Started to Use	Use Frequency	Product Lifetime
(Abbreviated)	VT Solutions	Firewall	2	F\$5,187.00	Negotiation with Estimates		2011.11.08	Fortinet Fortigate FG-80C	FGT80C3911601726	Project Office, ICT Centre	ICT Centre Server Room Server Rack	2011.11.08	24 Hours/7 Days	5 years
		Wireless Access Point	1				2011.12.02	Clisco WAP4410N-AU Clisco Wireless-N Access Point with PoE	SER153202DA	Project Office, ICT Centre	PacCERT Office, ICT Centre	2012.06.11	24 Hours/7 Days	5 years
(Abbreviated)	Narhari Electrical Company Ltd	Camera System	2	F\$51,502.00	Negotiation with Estimates		2012.02.14	AW-HE870E	L1TAA0017	Project Office, ICT Centre	ICT Centre Multi-Purpose Theatre	2012.02.22	When Necessary	5 years
		Pan Tilt Head	2					AW-PH360L	JOA00205	Project Office, ICT Centre	ICT Centre Multi-Purpose Theatre			5 years
		Lens	4					AW-4217MD9A	n/a	Project Office, ICT Centre	ICT Centre Multi-Purpose Theatre			5 years
(Abbreviated)	Ku Satellites	AC Adaptor	1					AW-PS550E	n/a	Project Office, ICT Centre	ICT Centre Multi-Purpose Theatre			5 years
(Abbreviated) Procured by Padeco Co Ltd	(Canada)	Digital & Analogue Satellite Analyser	1	USD 1,795.00			2012.02.20	UNAOHM Prosat 22A	120389	Project Office, ICT Centre	USP Laucala Satellite Earth Station, ICT Centre	2012.03.06	when necessary	5 years
(Abbreviated) Procured by Padeco Co Ltd	Sangikyo Cooperation (Japan)	Power Meter Set including Measuring Accessories	1	JPY 1,354,100			2012.03.19	Anritsu Power Meter ML2437A	1207001	Project Office, ICT Centre	USP Laucala Satellite Earth Station, ICT Centre	2012.03.19	when necessary	5 years
		Signal Level Meter Set	1					Anritsu Power Sensor MA2472D	1131179					
								Anritsu Thermal Sensor MA24002A	1131164					
(N/A) Procured in Japan by JICS	Anritsu (Japan)	Spectrum Analyser Set	1	JPY 2,478,556	Bid Tender	n/a	2012.03.19	Loader LF52	4697882	Project Office, ICT Centre	USP Laucala Satellite Earth Station, ICT Centre	2012.03.19	when necessary	5 years
								Anritsu Spectrum Analyser MS2719B (9KHz - 20GHz)						
								Anritsu High Power Attenuator (30db/DC-18GHz/50W)						
								Anritsu High Power Attenuator (40db/DC-18GHz/100W)						
(Abbreviated) Procured by Padeco Co Ltd	Berg (Japan)	Portable GPS Device	1	JPY 59,800			2011.06.03	Garmin Oregon 550	1MW056648	Project Office, ICT Centre	USP Office of Manager, Regional Development, ITS	2011.07.05	when necessary	5 years
(Abbreviated) Procured by Padeco Co Ltd	BicCamera (Japan)	Android Tablet Device	1	JPY 39,800			2012.03.24	SONY Tablet S	275501690025478	Project Office, ICT Centre	Project Office, ICT Centre	2012.05.14	when necessary	5 years

JCC Participants' List

Annex-7

Project Supervisor	Dr. Esther Williams
Project Director	(Vacant)
Project Leader (CS/IS)	Dr. Bibhya Sharma (on behalf of Dr. Anjeela Jokhan)
Project Member (CS/IS)	Dr. Sunil Lal
Project Leader (ITS)	Mr. Kisione Finau
Project Member (ITS)	Mr. Fereti Atalifo, Mr. Peni Sigavalavu, Mr. Edwin Prasad
Project Leader (CFDL)	Dr. Theresa Koroivulaono (apologies)
Project Member (CFDL)	Mr. Dhiraj Bhartu, Mr. Varunesh Rao
Project Member (Library)	Ms. Ela Qica (on behalf of Ms. S. Joan YEE)
Project Member (Incubation)	Mr. Kazuyuki Tsuzuki
Project Member (PacCERT)	Mr. Patrick Queet
DMC Office	Mr. Jandra Karan, Mr. Mohammed Mozeem
Chief Advisor	Mr. Kazuyoshi Fukushima
JICA Expert	Dr. Pramanik Kader Hiroshi
JICA Expert	Mr. Isao Takatori
Project Coordinator	Mr. Shinya Murakami

[Terminal Evaluation Team]

Leader	Mr. Yoshio Niizeki
Planning/Management	Mr. Kentaro Yoshida
Evaluation Analysis	Ms. Atsuko Orimoto
Ministry of Education Rep	Mr. Josua Loco
USP Rep	Ms. Sera Kogure Vada

[Ministry of Education]

Director CAS/TVET	Ms. Alumeci Tuisawau
-------------------	----------------------

[The Embassy of Japan]

Second Secretary	Mr. Hideaki Kuroki
------------------	--------------------

[JICA Fiji Office]

Resident Representative	Mr. Shumon Yoshiara
Program Officer	Ms. Frances Tavaiaqia



List of data/information to be obtained at end-line survey

The target group for end-line survey should be determined reasonably.

- Confirmation of the Project Performance
- Project Purposes: Indicator 2: More than 80% of students are satisfied with courses of the BNC/BSE bachelor programmes
- Project Purposes: Indicator 3: More than 70% of students in both main and regional campuses are satisfied with ICT delivery of learning and teaching services
- Project Purposes: Indicator 4: More than 70% of stakeholders and users are satisfied with the facilities and the services provided by the ICT Centre
- Output 1: Indicator 1-2: More than 70% of lecturers and staff participated to the global trend seminars are satisfied with the contents and the level of the seminars
- Output 2: Indicator 2-3: More than 70% of seminar participants (USP IT related staff) acknowledge the concept of ITIL and its importance
- Output 2: Indicator 2-4: More than 70% of users recognize improvement of ITS services delivery compared to before the project and are satisfied with ITS services delivery
- Output 3: Indicator 3-1: Percentage of Moodle-assisted courses increases to 90%; The fact that reliability, availability and performance of Moodle system are considerably enhanced
- Output 3: More than 70% of CFDL and concerned faculties staff are satisfied with the workshops on distance learning pedagogy; The fact that the outcomes of workshops were implemented into course design and development
- Output 4: Indicator 4-1: The fact that the ICT Centre business plan is developed and approved
- Output 4: Indicator 4-3: All incubation spaces are occupied and all the tenants are satisfied with the services and assistance from the ICT Centre
- Output 4: Indicator 4-5: PacCERT is established at the ICT Centre and equipped to fill the basic requirement to provide services to the region




評価グリッド（和文）

	評価設問		必要なデータ・情報	結 果											
	大項目	小項目													
実績の検証	投入は計画どおり実施されているか	専門家の派遣(J)	派遣時期、人数、担当分野	<ul style="list-style-type: none">- プロジェクト開始以降、2名の長期専門家、約20名の短期専門家が派遣されている（M/M Annex-6）。- タイミング：チーフアドバイザーは2010年9月まで派遣されなかった。それ以外の専門家はおおむね計画どおりに派遣されている（M/M Annex-6）。- カウンターパート（C/P）は、専門家の人数や担当分野の技術は適切であると評価している。- 長期専門家は、そのスキルと対応の迅速さが高く評価されていた。- パデコより派遣された短期専門家の業績は感謝されており、専門家によって開催されたセミナーやワークショップも人気が高かった。プロジェクトスコープ内の評価分析に関しては、評価が分かれた。ベースライン調査専門家の専門がプロジェクトの求めるものと合致していなかった。- 熊本大学と JPCERT/CC（Japan Computer Emergency Response Team/Coordination Center）から派遣されたすべての短期専門家は担当 C/P より高く評価されていた。- 国際会議「ICT（情報通信技術）とオセアニア文化」のセミナーやワークショップに対応するため、5大学より大学教授がプロジェクトの一環として派遣された。	E2										
		資金投入の実績(J)	報告書、関係者の意見	<ul style="list-style-type: none">- 2012年7月末時点での運営費、旅費、機材供与等、在外強化費による支出は、94万9,610.15フィジードル（FJD）となっている。<table border="1"><thead><tr><th>FY2009</th><th>FY2010</th><th>FY2011</th><th>FY2012</th><th>Total</th></tr></thead><tbody><tr><td>743.65</td><td>642,129.33</td><td>286,388.50</td><td>20,348.67</td><td>949,610.15</td></tr></tbody></table>- 関係者は資金投入のタイミングは適切であったとしている。	FY2009	FY2010	FY2011	FY2012	Total	743.65	642,129.33	286,388.50	20,348.67	949,610.15	2
		FY2009	FY2010	FY2011	FY2012	Total									
743.65	642,129.33	286,388.50	20,348.67	949,610.15											
資機材投入の実績(J)	提供機材リスト、現状機材と提供リストとの整合性	<ul style="list-style-type: none">- 機材供与に関しては、JICAはKu-bandを含む衛星関連機材を提供している（M/M Annex-6）。機材は一部まだ設置されていないものもある。- 南太平洋大学（USP）とフィジー政府間の VAT（付加価値税）未還付問題により、一部機材調達のタイミングに遅れが生じたが、同問題は解決し、すべての供与機材は USP に納入済みとなっている。	S2												

				る。	
		C/P の研修派遣実績(J)	派遣の実績、人数、担当分野、派遣者のレベル	<ul style="list-style-type: none"> - 1 名の C/P（遠隔教育センター：CFDL）は、本邦研修にて長期研修を受講した。 - 7 名の C/P は、短期本邦研修に参加し、インタビューや質問票の回答によると、研修期間や内容は適切であり、自分たちの仕事に直接役立っていると評価していた。太平洋地域コンピューター緊急対応センター（PacCERT）のスタッフ 2 名は 2012 年 9 月から IT セキュリティに関する本邦研修に参加する予定。 - 短期専門家により 18 セミナー・ワークショップが国内で開催されている。今までに延べ 800 名以上が参加しており、大変評判が良い（平均満足度は 81.5%）。プロジェクトが終了するまでに 7 回のセミナー・ワークショップが開催される予定となっている。 - 南太平洋 ICT 万博（SPICTEX）及び「ICT とオセアニア文化」国際会議においては、9 セッション・セミナーが開催され、280 名以上が参加した。 	E3
		合同調整委員会（JCC）の設置(L/J)	委員会の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> - JCC は 6 カ月ごとに開催されており、1 回目は、チーフアドバイザーが着任した 2010 年 10 月に開催された。 - JCC の設立前に、2 カ月ごとに開催するプロジェクト会合が開催されていたが、第 1 回 JCC ののち、継続しないことが決まった。 - 2 回目の JCC は中間レビュー調査時に開催され、プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）は、2011 年 12 月に開催された JCC で改訂された。 - プロジェクトに関係する定期的もしくは一時的な会合や委員会が開かれている。実践に必要な事項が詳しく協議されるため、小さな会合の方が適切であるという結論に達し、日本側長期専門家及び短期専門家ができるだけ USP 内会議に参加するようにしている。（例：USP Net-Task Force, ITIL Working Group Meeting, SCIMS Board Meeting, m-learning, CFDL ad-hoc meeting for Pedagogy, Emergency Response Team meeting, and 2012 International Conference Steering Committee） 	S
		C/P の配置(F)	人数、延べ人数、内訳	<ul style="list-style-type: none"> - USP 側は、プロジェクトマネジメントとして 6 名のカウンターパートの手当てを計画していたが、そのうち、プロジェクトディレクターについては 2010 年前半より欠員となっている。 	2

				<ul style="list-style-type: none">- 新しいICT センター長が 2012 年 1 月に赴任し、ビジネスインキュベーション及び地域機関連携を担当している。- 20 名以上の C/P がプロジェクトに直接かかわっている(M/M Annex-5 (2))。- C/P 全員は、予定どおりすべてパートタイムの C/P となっている。C/P は皆忙しいが、プロジェクトに熱意をもち、責任感をもって参加している。										
	その他のローカルコスト(F)	コスト、関係者の意見	<ul style="list-style-type: none">- プロジェクトに直接かかる運営資金、旅費、機材は、2012 年 7 月末の時点で、約 65 万 4,810FJD となっている。これには、日本人専門家のオフィススペースや光熱費、Ku-band 衛星に係る通信費等が含まれているが、C/P の人件費については含まれていない。 <table border="1"><tr><td>FY2009</td><td>FY2010</td><td>FY2011</td><td>FY2012</td><td>Total</td></tr><tr><td>480</td><td>33,480</td><td>448,680</td><td>172,170</td><td>654,810</td></tr></table> <ul style="list-style-type: none">- 参考までに、ICT センターのスタッフ給与以外の運営費用（2010 年度実績）は、70 万 FJD となっている。- 関係者は資金投入のタイミングは適切であったとしている。	FY2009	FY2010	FY2011	FY2012	Total	480	33,480	448,680	172,170	654,810	2
FY2009	FY2010	FY2011	FY2012	Total										
480	33,480	448,680	172,170	654,810										
アウトプットは計画どおり産出されているか	新しい国際認定レベルのBNC/BSE 学士号プログラムが提供されているか	活動の進捗状況(ベースライン調査の実施の有無、最新動向セミナー実施状況、新学士号コースカリキュラム設計状況、BNC/BSE プログラムの実施及びコースレビュー状況、エンドライン調査)、目標値との比較	<ul style="list-style-type: none">- ベースライン調査は計画どおりに実施された。しかしながら、実施した専門家は、教育の専門家で、評価の専門家ではなかった。- グローバルトレンドセミナー（“Software Quality Assurance”, “Network Engineering”, “Software Human Interface & User Centred Design”, “Cloud Computing & Security”, “Software Testing Tools”, and “Android Programming and ITIL”）は計画どおり実施され、参加者の満足度は高かった。- カリキュラムデザインに関する支援：完了- 新学士号プログラムの実施及びコースカリキュラムのレビュー：BNC 及び BSE 学士号コースは 2011 年 7 月から提供されており、オーストラリアコンピューター学会（ACS）によって暫定的に国際単位認定が認められた。- エンドライン調査：プロジェクトの活動中に計画されていなかったため、プロジェクト完了前に実施する必要がある。	E3										
	USP-Net（遠隔教育システム）が効率的に利用さ	活動の進捗状況〔ベースライン調査の実施の有無、	<ul style="list-style-type: none">- ベースライン調査は計画どおりに実施された。しかしながら、実施した専門家は、ICT 専門家で、評価の専門家ではなかった。	E2										

		れ、IT サービス部 (ITS) のサービス提供が向上したか	<p>USP-Net サービス提供品質研究調査・ソリューションの実施及び機材調達、ネットワークオペレーションセンター (NOC) に対するアドバイス、USP-Net サービス中長期戦略に対する支援、ITIL (Information Technology Infrastructure Library) コンセプトに対する技術指導、ITIL のためのトレーニング、エンドライン調査]、目標値との比較</p>	<ul style="list-style-type: none"> - USP-Net に関する調査の実施結果を基に、機材の調達、設置を計画、実施している。調査は終了し、機材調達は完了している。 - NOC 設立の支援: 2 名が本邦研修を受講し、担当短期専門家が NOC に関するアドバイスを提供している。2011 年末まで遅れている感があったが、2012 年 8 月現在の進捗状況は順調。第 1 フェーズ NOC システムは完了し、2012 年 8 月中に第 2 フェーズ NOC システムが導入される予定となっている。 - 機材及び運営ノウハウを提供することで帯域利用効率を改善: 通常の調達プロセスと異なり、機材調達が遅れたが、現在はハブサイトの建設が問題なく進んでいる。9 カ所のうち、6 カ所の建設が完了し、2012 年末には、9 カ所すべての Ku-band 設置が完了する予定。 - USP-Net の中期戦略に関する指導が現在進行中。進捗状況は順調。 - ITIL トレーニングを実施し、ITS スタッフによる専門認定証を確立する。技術指導を通じた、リージョナルキャンパスのための IT サポートシステムの確立: ITIL は新しい概念であるが、今後取り組んでいかなければならない重要なものとして受容されている。NOC システムと組み合わされることにより、NOC で集められた情報や出された警報を ITIL のフレームワークを利用して問題解決することに使われている。 - エンドライン調査: プロジェクトの活動中に計画されていなかったため、プロジェクト完了前に実施する必要がある。 	
		遠隔教育において新 ICT 技術が活用され、推進されたか	<p>活動の進捗状況 (Moodle 提供へのアドバイス、モバイル技術利用ワーキンググループへの参加、遠隔教育教授法セミナー・トレーニングの開催)、目標値との比較</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Moodle システムのパフォーマンスや安定向上に関する指導: ほぼ完了している。本活動は、第 1 回 JCC に更新され、PDM の 2 回目の改訂においては新たな指標が追加されている。JICA は Moodle サーバーの負荷を平衡させるバランサーを提供し、CFDL 技術スタッフによると、本機材によってサーバーの負荷平衡が可能になり、Moodle システムの安定化やパフォーマンスの向上に役立った。進捗状況は良好である。 - m-learning のワーキンググループに参加し、必要なアドバイスを行っている: m-learning は科学技術環境学部 (FSTE) 及び CFDL の期待が高い分野となっている。FSTE は既に片方向 SMS (Short 	E2

				<p>Message Service) サービスのトライアルを行っているが、それ以外の双方向モバイルサービスについては、2012 年 8 月にサモアで開始される。</p> <ul style="list-style-type: none">- セミナー：遠隔教育技術：2011 年 3 月及び 10 月にセミナーが開催され、多数の参加者を得た。参加者の満足度は高かった。鈴木教授は USP が遠隔教育に対する研究を進めることを提言し、CFDL を国際学会に紹介している。	
	Japan-Pacific ICT センターの運営方針及びサービス体制が確立されたか	ICT センター運営と活用指導、セミナーの開催、企業・研究インキュベーション機能の提供、ICT に関する他関係機関との連携、ICT センターの域内の役割強化	<ul style="list-style-type: none">- ICT センターのワーキンググループへの参加及び必要なアドバイスの提供：中間レビュー時点では、プロジェクトはワーキンググループに積極的に関与し、ビジネスプランが策定・承認されていたが、ICT センター長が新しく着任したため、ICT センタービジネスプランを変更する必要性が生じているが、現時点では改訂版ビジネスプランはまだ策定されていない。- 大洋州地域内の発展のためのセミナーを開催する：2011 年 7 月に開催された ICT EXPO や 2012 年 2 月の「ICT とオセアニア文化」の国際会議においてセミナー開催を行ったほか、ICT センターにおいては、広域のイベントが開催されている（Pacific Network Operators Group (PacNOG) 9 ‘Educational Workshop and Training (June 2011)’, ‘Internet Governance Forum (IGF) (July 2011)’, ‘Japan Aerospace Exploration Agency (JAXA) – JICA/JOCV – USP In-Flight Education Event, Live Q&A Session with Astronaut in International Space Station (ISS) for Suva Sangam College and USP Students (Oct. 2011)’）。- ICT インキュベーション機能支援：2011 年 7 月の ICT EXPO において、インキュベーション・アウェアネス・セミナーが開催されたが、ICT センター長の不在もあったため、この指標に係る活動の進捗は遅れていた。ただし、2012 年 2 月以降、短期専門家の活躍により進捗状況が改善し、2012 年 8 月には、インキュベーションテナントの選考が行われており、終了時評価の期間中にインキュベーションスペースを占有するテナントが決定した。- 他のドナーとの連携及び ICT センターの地域における役割の拡大：国際通信連合（ITU）、太平洋諸国電気通信協会（PITA）、太平	A2	

				<p>洋島嶼国 ICT 規制リソースセンター (PIRRC) 及び PacCERT が ICT センターに集結し、ICT に関する 4 つの地域機関の情報共有やサポートが始まっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> - PacCERT 設立支援：サイバーセキュリティに関するセミナーやパネルディスカッションが 2011 年 7 月の ICT EXPO で開催された。スタッフの給与の工面にてこずり、プロジェクト開始後 2 年以上経過して、ようやくマネジャーと技術スタッフが採用され、スタッフ採用が急速に進んでいる。2 名のスタッフは 2012 年 9 月にはインシデント・ハンドリング及びマルウェア分析に関する本邦研修を受けることになっており、事務所のセットアップ、PacCERT に必要な最小限の技術についてはカバーできる見通しとなっている。 	
		C/P に技術移転がなされたか	<p>研修内訳、C/P の作成したコース等の有無と質、関係者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 研修や技術サポートのレベルに C/P 全員が満足していると回答した。 	E
		活動にあたって、適正な指導がなされたか		<ul style="list-style-type: none"> - C/P によれば、OJT (On the Job Training)、セミナーやワークショップはすべて効果的であり、感謝されていた。 	E
		C/P の能力は向上しているか		<ul style="list-style-type: none"> - すべての C/P は、キャパシティを向上させるための技術支援に対して感謝の念を表明していた。 	E
	プロジェクト目標「魅力的な CS/IS (コンピュータ科学/情報システム) コースが大洋州地域に提供される」「USP の ICT サービス提供能力が強化される」の達成の見込みはあるか	<p>目標指標達成状況</p> <p>〔BNC/BSE 学士号コースが(暫定的に)国際的に accredited される、80%以上の学生が新しい学士号コースに満足している、70%以上の学生が ICT 提供に満足している、70%以上の関係者や利用者が ICT センターの施設や提供しているサービスに満足している〕</p>	<p>CS/IS 学部生の意見、他キャンパス学部生の意見、ICT センター関係者・利用者の認識度、ICT 施設への資機材供与・利用度</p>	<ul style="list-style-type: none"> - ソフトウェア・エンジニアリング (BSE) 及びネットセントリックコンピューティング(BNC)という 2 つの新学士プログラムが USP 評議会で公認され、2011 年 7 月から提供されている。2011 年第 2 学期からはそれぞれ 12 名ずつ、2012 年第 1 学期からは、BSE44 名、BNC38 名が在籍しており、ACS からの単位認定が行われている旨を宣伝することができるようになると人数がさらに増加することが見込まれている。 - アウトプット 1、2 及び 3 はプロジェクト目標 1 達成に貢献しており、アウトプット 2、3 及び 4 はプロジェクト目標 2 達成に貢献している。 - 4 つの指標のうち、指標 1 については、既に達成している。 	S2
実施プロセ	活動は計画どお		活動計画の確認、関係者の意	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトは、おおむね PDM 及び活動計画 (PO) どおりに、活 	S2

スの検証	りに実施されているか		見	動を実施している。詳細は M/M Annex-3 を参照。	
	技術移転の方法に問題はないか		関係者の意見	- 本プロジェクトにおいては、技術移転を包括的にサポートしている。本邦研修、OJT、長期・短期専門家によるセミナーやワークショップを組み合わせる効果的な技術移転が実施された。技術移転の手法に問題はみられず、C/P をはじめとする関係者からの評価は高かった。	E
	プロジェクトのマネジメント体制に問題はないか	モニタリングの仕組みや意思決定過程が明確であり、実際に運用されているか	関係者の意見、マネジメント体制の確認	- プロジェクトのマネジメントに特に問題はみられなかった。 - プロジェクトは、2 カ月に 1 度プロジェクト関係者が集まる「プロジェクト・ミーティング」を発足させた。しかしながら、プロジェクトのマネジャーやリーダーの時間調整が難しかったこと、プロジェクトが広範囲にわたったためにプロジェクト実施に必要な詳細について話し合う機会となり得なかったため、開催意義が失われたとして、2010 年 10 月の第 1 回 JCC にて継続しないことが決まった。 - 代替として、プロジェクトは、プロジェクト内での情報共有・交換の場をもつため、定期的もしくは一時的なミーティングに長期専門家もしくは短期専門家が積極的に参加している〔USP Net-Task Force 月例会合、ITIL ワーキンググループ月例会合、コンピューター科学・情報システム・数理学科（SCIMS）理事四半期会合、m-learning 月例会合、CFDL 教育法に関する臨時会合、Emergency Response Team meeting、2012 国際会議運営委員会月例会合等〕。 - 日本人長期専門家と C/P の関係は緊密で、大学学部や支援部との間の媒体としても機能している。日本人専門家の貢献は高く評価されていた。ただし、ICT センター長は、USP C/P やプロジェクトチームとの協働には至っておらず、将来的にセンター長の貢献が期待される。	S
		JICA 本部・在外事務所の支援体制は整っているか		- JICA フィジー事務所及び日本人専門家は、機材調達で困難があったことを認めている。これは、一般的ではなく複雑な調達形式であったこと及び仕様の変更等があったことに起因すると考えられる。 - それ以外については、日本人専門家は JICA フィジー事務所や本部	S

		プロジェクト内のコミュニケーションの仕組みはどのようになっているか		<p>より十分な支援を受けていると考えており、JICA フィジー事務所も日本人専門家の業務遂行能力を高く評価している。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 日本人専門家と大部分の USP の C/P は密接に連携している。 - 日本人長期専門家と C/P の関係は緊密で、大学学部や支援部との間の媒体としても機能している。日本人専門家の貢献は高く評価されていた。ただし、ICT センター長は、USP C/P やプロジェクトチームと協働しているとはいいい難く、将来的なセンター長の貢献が期待される。 	S
	実施機関や C/P のプロジェクトに対する認識は高いか	ターゲットグループや関係組織のプロジェクトにかかわる時間は十分であるか	関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> - C/P は、プロジェクト実施に対して、熱意や積極性を示していた。 - C/P 全員が新しい技術の習得もしくは既存能力の向上に感謝していた。 	S
		C/P に積極性がみられるか		<ul style="list-style-type: none"> - 日本人専門家と大部分の USP 側の C/P の関係は緊密であり、C/P のプロジェクトに対するオーナーシップは強い。 	S
		実施機関がプロジェクトの進捗に興味をもっているか		<ul style="list-style-type: none"> - インタビューした C/P のほぼ全員が、プロジェクトの進捗に大きな興味をもっていた。 	S
	適切な C/P が配置されたか			<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトマネジメントには 5 名の C/P が配置されることになっているが、プロジェクトディレクター（SCIMS 学部長/ICT センター長）は 2010 年前半に退職してから 1 年以上不在となっていた。2012 年 1 月から ICT センター長が指名され、インキュベーションと地域機関の連携を主に担当している。 - プロジェクトディレクター以外の C/P は活発にプロジェクトの初期からプロジェクトにかかわっている。 	A
	ターゲットグループや関係組織のプロジェクトへの参加度やプロジェクトに対する認識は高いか			<ul style="list-style-type: none"> - インタビューした数名の学生を含む C/P やターゲットグループにおいて、プロジェクトに対する認識度は高かった。 - フィジー教育省では、アディ・マオパ中高等学校に Ku-band が設置されたこともあり、USP-Net コンポーネントと新学士号に関するコンポーネントに関してよく理解していた。 - ICT に関する地域機関である ITU、PIRRC、PITA 及び PacCERT は ICT センターの 4 階を占有し、プロジェクトに対する認識度も高まっていた。 	E

				<ul style="list-style-type: none"> - 開発パートナー機関である太平洋共同体（SPC）は、サイバーセキュリティが SPC の優先分野の 1 つであることもあり、PacCERT の理事を務めるなど、以前よりもプロジェクトとの連携関係が深まった。 	
	プロジェクトの実施過程で生じている問題や、効果発現に影響を与えた要因は何か			<ul style="list-style-type: none"> - 2010 年 6 月、トンガで開催された ICT 大臣会合において、ICT センターは、域内機関である PacCERT、PIRRC、PITA、ITU の拠点とすること、USP と SPC は大洋州地域全体の ICT 開発のイニシアティブをとることが承認された。これにより、USP は、地域内の ICT 開発の主要な提供者として認識され、USP 内における ICT 開発に対するさらなるコミットメントを引き出すなど、プロジェクト効果に対し、強くポジティブな影響を及ぼしたと考えられる。 - プロジェクトのチーフアドバイザーがプロジェクト開始後 7 カ月遅れて投入されたことは、プロジェクトに対して、負の影響を及ぼす可能性があったが、業務調整専門家及びチーフアドバイザーの尽力により、プロジェクトの有効性に負の影響は特にみられなかった。 - 中間レビューにおいては、ICT センター長の不在は、特に成果 4 に負の影響を与えていると考えられていた。ICT センター長は 2012 年 1 月 23 日に着任し、ビジネスプランの策定、ビジネスインキュベーション及び地域機関の連携を担当している。 - VAT 免税に関する問題により、一部機材の供給が遅延したが、現在は USP が立て替えすることに合意し、今回の機材供給問題については、（一時的ではあるものの）解決している。 - PacCERT については、中間レビュー時点においては、スタッフの給与を含む運営資金のめどがたっていなかったが、USP が 3 年間のスタッフ給与をコミットすることが決定し、3 年間で独立採算できるようにする必要がある。 	-
妥当性	対象地域・社会のニーズに合致していたか	社会のなかにおける義務教育後教育の位置づけ	大洋州域内戦略中の義務教育後教育及び教育・ICT 開発計画における位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> - 大洋州地域における ICT における人的資源への需要は増加しており、フィジーのほかオーストラリア、ニュージーランド等の義務教育後教育機関は ICT 関連コースをこぞって提供している。 - USP が民間セクターの需要に応え、地域の最高峰学府として生き残るためには、さらに専門的な ICT 学士号を提供する必要がある。 	S

	義務教育後教育及び ICT セクターの全般状況	地域に関する情報や戦略ペーパー、高等教育・ICTに関する統計	<ul style="list-style-type: none"> - 大洋州島嶼国においては、どのように教育サービスを僻地に提供するか大きな課題となっている。島サミットの北海道アイランダー宣言のなかでは、「持続可能な開発」下に、「教員のキャパシティビルディングや、離島や地方部における教育機会の拡大のための支援」と「持続可能な社会の構築に向けて活躍する人材の育成」が教育セクターの支援課題として認識されている。 - 2011 年にヌメアで開催された ICT 大臣会合においては、USP が域内の ICT 開発の中心となり、ICT 関連コースの提供、ICT のインキュベーションやさまざまなサービスの提供を担うことが承認されている。 	E
ターゲットグループのニーズに合致していたか	C/P は本プロジェクトをどのようにとらえているか	関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> - C/P に対するインタビュー調査を通して、すべての C/P が、それぞれのコンポーネントを通じて本プロジェクトの必要性を強く認識していることが認められた。 	E3
	C/P 機関における本プロジェクトの位置づけはどうか		<ul style="list-style-type: none"> - 本プロジェクトは C/P の間でも自分たちのプロジェクトであるというオーナーシップは高かった。 - すべての C/P は、プロジェクトに対する感謝の念を示していた。 	S
地域及び USP の戦略計画との整合性はあるか	地域開発政策と合致しているか	地域開発政策中の高等教育・ICT の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトは、大洋州地域政策である「パシフィック・プラン」中の「大洋州地域デジタル戦略」と整合性がある。 - 「大洋州地域デジタル戦略」は、パシフィック・プラン中、大洋州フォーラム国の経済成長、持続的開発、グッドガバナンス及びセキュリティを促進するためのイニシアティブの 1 つである。同戦略には、通信技術アクセスの向上、コスト削減、地球規模 ICT 基幹回線との高い帯域の確立、投資拡大のため不適切な規制を解除すること、ICT スキル強化が優先課題となっている。 	E
	USP 3 カ年計画と合致しているか	高等教育 (ICT) の USP 3 カ年計画における位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> - USP は、メンバー国の教育大臣及び太平洋諸島フォーラム (PIF)、SPC からの代表で構成される大学評議会によって運営されている。USP「2020 年までの展望を示した最終報告書 (The Final Report, A Regional University of Excellence: Weaving Past and Present for the Future, A Vision to the Year 2020)」には、ICT 開発及び ICT 教育が含まれている。USP は、大学とメンバー国の ICT ニーズに応える必要がある。センターやキャンパスから遠い遠隔地からのアクセスを改善する必要がある。2005 年からターゲットを定め、2010 年 	E

				<p>までにすべての大学のコースを遠隔教育で提供できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 大洋州地域中、また地域を越えて新しい学生を得るには、ICT の効果的利用は必要不可欠となっている。 - USP 戦略計画 2010-2012 のなかで、「2010 年までに大洋州島嶼国のなかで新しい ICT センターが建設され、それにより、域内メンバー国の情報技術のニーズに重大で持続可能な貢献をしていくことが可能となる」としており、戦略計画のなかには、ICT に関連する項目が含まれている。 - USP は現在戦略計画 2013-2018 を策定中であるが、副学長補によると、ICT 開発は戦略の中心に据えられており、プロジェクトの妥当性は強くなっても弱くなることはない。 	
	日本の援助政策との整合性はあるか	島サミットのコミットメントと整合性があるか	島サミットの優先及び行動課題	<ul style="list-style-type: none"> - 2009 年 5 月に北海道で開催された太平洋・島サミット (PALM) において「北海道アイランダーズ宣言」が採択された。 - その行動計画のなかで、「経済成長」「持続可能な開発」「良い統治」「安全確保」及び「人と人の交流～キズナ・プラン～」が支援策の柱とされている。「持続可能な開発」の教育分野のなかで、「教員のキャパシティビルディングや、離島や地方部における教育機会の拡大のための支援」と「持続可能な社会の構築に向けて活躍する人材の育成」が挙げられており、特に前者の「教員のキャパシティビルディングや、離島や地方部における教育機会の拡大のための支援」については、貢献対象として、USP が挙げられている。 - 2012 年 5 月には PALM6 が開催され、ミレニアム開発目標 (MDG) を達成するためにも保健や教育を含めた社会サービス提供により持続的開発と人間の安全保障を推進することの重要性を含めた「持続的開発と人間の安全保障」が大洋州諸国に対する支援の優先課題の一つであることが確認された。 	E
		国別事業展開計画と合致しているか	国別事業展開計画の高等教育のプログラムの有無	<ul style="list-style-type: none"> - フィジー及び大洋州域内に対する国別援助方針は策定されていないため、対フィジー事業展開計画が対フィジー及び大洋州域内協力に関する JICA の支援の方向性を示している。現行の事業展開計画 (2012 年 4 月版) には、優先課題としては、「環境/気候変動」 	E

				及び「脆弱性の克服」とされており、「脆弱性の克服」のなかには、開発課題として、「大洋州地域の遠隔教育の強化」が挙げられており、本プロジェクトは、同開発課題中の「島嶼・遠隔地教育支援プログラム」下に位置づけられている。協力プログラムとしては、「無償資金協力により南太平洋大学の遠隔教育及びコンピューター教育の機材・施設を整備するとともに、ICT センターの活用を支援するため、技術協力プロジェクトにより、当該分野におけるキャパシティビルディングを実施する」と整理されており、日本側の援助方針と合致している。	
地域の教育開発課題について本プロジェクトのあり方は適切か	プロジェクトのアプローチは適切か	教育分野の他プロジェクトの状況、他ドナー教育・ICT 開発支援の状況、関係者の意見	-	本プロジェクトにおいては、技術移転を包括的にサポートしている。本邦研修、OJT、長期・短期専門家によるセミナーやワークショップを組み合わせることで効果的な技術移転が実施された。技術移転の手法に問題はみられず、C/P をはじめとする関係者からの評価は高かった。	E
	対象、地域は適切か		-	ターゲットグループと分野については、USP マネジメントと JICA の協働作業によって選択された。C/P は、ターゲットグループは適切だと考えている。	S
	男性と女性の比率は適切か		-	競合関係にあるフィジー国立大学（FNU）に対しても、USP の ICT センターを通して、キャパシティの向上に貢献が可能となっている。現状では、FNU もターゲットグループとして含まれることを期待しているが、地域の ICT 開発の中心的な役割を果たす機関になるのは難しい状況にある。	A
	他機関、関係者の活動やプロジェクトと補完関係にあるか		-	21 名の直接の C/P のなかで、女性は 6 名となっているが、そのうちの 3 名はシニアマネジメントクラスにあり、学部や支援セクションの男女比を勘案しても、不適切であるとはいえない。	S
			-	USP は、ICT 開発において、日本を主要な支援者と認識している。	
			-	現在、USP は、ICT 関連の活動として、ADB（アジア開発銀行：インド贈与）、オーストラリア政府、ニュージーランド、世銀、ITU（国連）からの支援を受けている。	
			-	USP は、特に SPC との連携強化はなかなか進まなかったが、2011 年 10 月に USP と SPC は連携を強化するための MOU（覚書）に署名した。	

	プロジェクトはターゲットグループを超えて、ポジティブな影響を与えているか		関係者の意見	- USP は、フィジーの公立中・高等学校の e-learning の立ち上げに協力することが決まっている。本プロジェクトの効果が、C/P を通じて USP 外に波及することになる。	E
	日本の技術の比較優位性はあったか	日本においてノウハウが蓄積されている分野であったか 日本の経験を生かしたか 代替技術の適用を検討したか	関連資料、関係者の意見	- ICT や衛星通信技術における日本の技術の比較優勢がみられる分野でそのノウハウや経験をプロジェクトに生かすことができた。	S
	プロジェクト開始後にプロジェクトをとりまく環境に変化があったか		関係者の意見	- プロジェクト開始後にプロジェクトをとりまく環境に特に変化はなかった。	-
有効性	プロジェクト目標をどの程度達成しているか。プロジェクト目標はプロジェクト終了までに達成される見込みがあるか	アウトプットはどの程度産出されているか プロジェクト目標を達成するのに影響を与えた貢献要因はあったか プロジェクト目標の達成を阻害する要因はあったか	(実績の検証のとおり)		-
	プロジェクト目標を達成するためのアウトプットレベルの外部要因に変化はあったか	最新版 PDM のアウトプットレベルの外部要因はいまだに有効か 外部要因はアウトプット産出に影響を与えたか	PDM、関係者の意見	- すべての外部要因はいまだ有効である。 - アウトプットレベルの外部要因の多くは満たされているが、外部要因「ITS、CFDL、SCIMS 及び ICT センターの C/P が USP で勤務を続ける」という外部条件については、SCIMS と ITS の C/P が何名か辞職しており満たされていないため、早急に採用を進め、ア	- -

				<p>アウトプット1の産出に影響を与えないようにする必要がある。</p>	
	アウトプットはプロジェクト目標を達成するのに十分であるか	アウトプットがプロジェクト目標を達成するのに貢献しているか	PDM、関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト目標を達成するのに4つのアウトプットがデザインされている。アウトプット1、2、3はプロジェクト目標1に関連しており、アウトプット2、3、4は、プロジェクト目標2に関連している。 	A
	指標やターゲットは適切か			<ul style="list-style-type: none"> - 中間レビュー時に、多くの指標がアウトプットレベルの達成を測るのに適切でなく、指標の明確化や検証可能な形態に変更する必要があると指摘されていた。中間レビュー時の提案を基に、プロジェクトチームは、PDM ver1.0をPDM ver2.0に改訂し、ほぼすべての指標は検証可能となった。ターゲットグループも明確に記されている。 	A
効率性	適切にアウトプットが産出されているか		(実績の検証のとおり)		-
	アウトプット産出を阻害する要因はあったか		PDM、関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> - 活動はアウトプット産出に貢献しており、インタビューを受けたC/P全員が、活動について満足していると述べた。 	S
	活動はアウトプットを産出するのに十分であったか	活動はアウトプット産出に貢献しているか		<ul style="list-style-type: none"> - 全体として、活動の大部分はアウトプット産出に関連していると考えられる。 	S
	アウトプットを産出するための活動レベルの外部要因に変化はあったか	最新版PDMの活動レベルの外部要因はいまだに有効か		<ul style="list-style-type: none"> - いまだ有効であり、VAT還付問題については現行PDM(PDM ver2.0)では、外部要因として認識されている。 	-
		外部要因はアウトプット産出に影響を与えたか		<ul style="list-style-type: none"> - 活動レベルの外部要因の多くは満たされているが、「C/Pのトップマネジメント(ITS、CFDL、SCIMS及びICTセンター)がプロジェクトに活発に参画している」については、一部満たされていないが、他のC/Pがフォローすることによってプロジェクトへの影響が最小限に抑えられている。 	-
	活動を行うために過不足ない量・質の投入が実		(実績の検証のとおり)		S

	施されたか				
	活動はタイミングよく実施されたか		PO、関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> - 大部分のインプットは量的にも質的にも適切であり、活動が計画どおりに実施されるように適切に投入された。 - プロジェクトのチーフの派遣及び機材調達の遅れがみられたが、現在は解決している。ICT センター長は 2012 年 1 月に着任した。 	S
	類似プロジェクトと比較してアウトプットは投入コストに見合っているか	より低いコストで達成する代替手段はなかったか	類似プロジェクト文書、関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> - 類似するプロジェクトはみられなかった。 - 大洋州島嶼国に共通の遠隔の問題や他の要因もあり、現状以上に費用対効果を上げるのは困難である。 - 1 機関への貢献で 12 カ国への貢献を実現するのは効率的であるといえる。 	-
	同じコストでより高い達成度を実現することはできなかったか	より低いコストで達成する代替手段はなかったか			-
	類似プロジェクトと比較してプロジェクト目標の達成度は投入コストに見合っているか	より低いコストで達成する代替手段はなかったか		- 同 上	-
インパクト	投入・アウトプットの実績、活動の状況に照らし合わせて、上位目標は、プロジェクトの効果として発現が見込まれるか	プロジェクト終了 5-10 年後に上位目標の達成見込みはあるか。指標は適切か	PDM、関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> - 上位目標の達成見込みについて検証するのは時期尚早である。 	-
	上位目標を達成するのに阻害する要因はあるか		関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> - 特になし。 	-
	上位目標はプロジェクト目標と乖離していないか		PDM、関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト目標と上位目標は、密接に関係している。 	S

	上位目標を達成するためのプロジェクト目標レベルの外部要因に変化はあったか	最新版 PDM の活動レベルの外部要因はいまだに有効か		- いまだ有効である。	-
		外部条件が満たされる可能性は高いか		<ul style="list-style-type: none"> - 満たされる可能性は高い。 - 政治面及び組織面を考慮した場合、USP は、その能力の高さ及びプロジェクトを成功させようとする決意からいって申し分のない C/P 機関である。 - 大洋州島嶼国域内戦略であるパシフィック・プラン及び USP の 2020 年をめざしたビジョンも、ICT 開発と教育のための長期にわたる継続したコミットメントと考えられる。 - すべてのメンバー国はコミットメントを変更していない。 	E
	上位目標以外の正負のインパクトは生じたか	民間セクターICT 基準や国家的 ICT 教育整備への影響	経済・社会統計上の数値の変化、メディアや市民社会、関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> - USP のフィジー中高等学校への協力 - アディ・マオバ中高等学校への Ku-band 設置及び USP-Net の提供が開始されているが、USP は、フィジーの公立中高等学校の e-learning をサポートすることが決まっており、本プロジェクトで技術が向上した C/P により、プロジェクトを超えた協力が開始されている。 - プロジェクトのターゲットグループを超えた裨益 - トンガのハーパイ離島ラーニングセンターはハーパイ中高等学校の敷地内にあるため、Ku-band が設置されてから、USP の学生だけではなく、中高等学校関係者、政府関係者等が同センターを利用している。 - ICT センターで開催されたセミナーやワークショップは、USP スタッフや学生に限らず、外部教育関係者（FNU のような他大学関係者や中高等学校の教職者、学生）、ICT 企業スタッフや政府関係者等にも提供されている。 - トンガキャンパスの学生数の増加 - 上位目標の達成指標の一つにある学生数の増加について、トンガキャンパス中、本島のトンガタブ本校及びババウ離島ラーニングセンターにおいては学生数が増加している。特にババウラーニングセンターについては、Ku-band 設置後、今までトンガタブ(本島)で就学していた学生が、トンガタブでしか受けられなかった講座 	E

				やコースを同センターで継続受講することが可能になったため、地元(離島)に戻ったケースが多くみられた。	
		ジェンダー、人権、貧富など社会・文化的側面への影響		- ICT は生活のいろいろな局面に影響を及ぼしているが、現状ではその影響を検証するのは時期尚早である。	-
		技術面での変革による影響		- 時期尚早	-
		対象社会、プロジェクト関係者、受益者への経済的影響		- ICT 関連の学士を取得することでより良い生活や給料を得られる仕事に就けることを期待している。社会やターゲットグループにおいて経済的な効果をもたらすと考えられるが、現在その効果を検証するには時期尚早である。	-
		その他の影響		- 時期尚早	-
	ジェンダー、民族、社会的階層の違いにより、異なったインパクトが生じているか			- スタッフのなかでは、インド系フィジー人のエンジニアが大勢を占めていた。しかしながら、USP は 12 カ国のメンバー国から構成されており、異なった人種、文化、背景の人々に対するオープンな態度として知られている。	-
持続性	協力終了後も ICT 政策や教育整備への働きかけが継続するか		関係者の意見	- USP の域内 ICT 開発に対するコミットメントは継続していくと考えられる。	2
	協力終了後も、効果を上げていくための活動を実施するに足る組織能力はあるか	実施機関において、プロジェクトに対するオーナーシップ及び活動を実施する組織能力はあるか	関係者の意見	- すべての C/P はプロジェクトをよく認識しており、プロジェクトに深い感謝の念を表していた。 - 政治面及び組織面を考慮した場合、USP は、その能力の高さ及びプロジェクトを成功させようとする決意からいって申し分のない C/P 機関である。	E
		人材配置は継続されるか	プロジェクト終了後の活動や資機材維持管理費の予算措置の有無、関係者の意見	- USP はプロジェクトの活動に必要なスタッフや C/P を手当てしているが、辞職した C/P が数名がいることや、比較的最近になって開始された活動もあるため、技術的な継続性は他の局面よりも弱い。	S
		経常経費を含む予算の確保が行われるか		- USP が将来的にも経常経費を含む予算の確保をしていくかということを検証するのは時期尚早である。	-

				- しかしながら、USP は、ICT センターに係る経常経費を 2010 年 70 万 FJD、2011 年以降も 100 万 FJD が承認されており、予算確保を継続していく可能性は高い。	
		資機材の維持管理は適切に行われるか	維持管理方法の確立、メンテナンスブックの有無・運用、関係者の意見	- 機材供与はほぼ完了している。ITS は機材の維持管理をしており、2000 年に日本の無償資金協力によって供与された C-band サテライトが今でも利用されていることをかんがみ、供与された機材は適切に維持管理されていくと予想される。	-
	プロジェクトで用いられた技術及び技術移転の手法は、適切だったか	技術移転の手法は、受容されつつあるか	関係者の意見	- 本邦研修、OJT、長期・短期専門家によるセミナーやワークショップを組み合わせると効果的な技術移転が実施された。 - 技術移転の手法に問題はみられず、C/P をはじめとする関係者からの評価は高かった。	E
		高等教育分野以外においても応用できる技術であるか		- USP は、フィジーの公立中・高等学校の e-learning の立ち上げに協力することが決まっている。C/P がプロジェクトで得た（向上させた）技術を他の分野（中等教育）にも応用させることができることを示している。	S
	女性・貧困層、社会的弱者への配慮不足により、持続的効果を妨げる可能性はないか			- ICT 分野は男性が多い分野であるが、USP においては管理職に女性が活躍している。女性・貧困層、社会的弱者への配慮不足により、持続的効果を妨げる可能性ほとんどないと考ええる。	3

*評点：

達成度：達成(3)、部分的に達成(2)、未達成(1)、対象外(-)

クオリティ：優れている (E)、満足(S)、可(A)、不可(N)、対象外(-)

3. インタビュー概要及び質問票回答のまとめ

インタビュー概要及び質問票回答のまとめ

質問内容	質問票送付先/インタビュー先	回答入手方法
A, B, F	USP メインキャンパス C/Ps（インタビュー8名、質問票回答 9 名） <ul style="list-style-type: none"> - ITS（インタビュー2 名、質問票回答 3 名） - CFDL（インタビュー1 名、質問票回答 5 名） - SCIMS（FSTE 含む）（インタビュー2 名） - ICT センター（インタビュー1 名） - USP マネジメント（インタビュー1 名） - PacCERT（インタビュー1 名、質問票回答 1 名） 	質問リスト・質問票を事前に送付、インタビュー及び質問票にて回答
B	教育省（インタビュー1 名）	質問リストを事前に送付、インタビュー及び質問票にて回答
C	USP トンガキャンパス（インタビュー10 名、質問票回答 4 名） <ul style="list-style-type: none"> - トンガタブ（インタビュー8 名、質問票回答 2 名） - ババウ離島 LC（インタビュー1 名、質問票回答 1 名） - ハーパイ離島 LC（インタビュー1 名、質問票回答 1 名） 	質問リスト・質問票を事前に送付、インタビュー及び質問票にて回答
C	トンガキャンパス学生（インタビュー14 名、質問票回答 4 名） <ul style="list-style-type: none"> - トンガタブ（インタビュー6 名） - ババウ離島 LC（インタビュー5 名、質問票回答 2 名） - ハーパイ離島 LC（インタビュー4 名、質問票回答 2 名） 	同上
C	USP トンガキャンパスを除いた遠隔キャンパススタッフ（質問票回答 6 名） <ul style="list-style-type: none"> - フィジーラウトカキャンパス（3 名） - ナウル、ニウエ、クック諸島（1 名ずつ） 	質問票を送付、回収
C	USP トンガキャンパスを除いた遠隔キャンパス学生（質問票回答 11 名） <ul style="list-style-type: none"> - フィジーラウトカキャンパス（7 名） - ナウルキャンパス（4 名） 	同上

D	BNC/BSE 履修中の学生（質問票回答 10 名） - BNC（6 名）、BSE（4 名）	同上
E	SPC（インタビュー2 名） PITA（インタビュー1 名）	質問リストを事前に送付、インタビューにて回答
F	プロジェクト専門家 - 長期専門家（インタビュー2 名） - 短期専門家（インタビュー6 名）	同上
G	JICA 及び日本大使館関係者（インタビュー8 名）	インタビュー
H	ICT 関連企業（Software Factory）（インタビュー 1 名）	質問リストを事前に送付、インタビューにて回答

A：C/P としてのプロジェクトに対する評価及び JICA の当該分野での将来的な方向性

B：プロジェクト全般に対する認識や評価及び JICA の当該分野での将来的な方向性

C：USP スタッフ及び学生のプロジェクトや日本の支援に関する認識、USP-Net の状況や Moodle の改善に関する認識

D：新学士コースに対する評価

E：パートナー機関のプロジェクト全般に関する認識や評価及び JICA、USP の当該分野での方向性

F：プロジェクト一般情報及び問題、目的・成果達成度

G：プロジェクト全般に対する評価、問題、将来的な方向性

H：セクター全般の状況、USP 卒業生に対する意見、求められる人材像等

- A. C/P としてのプロジェクトに対する評価及び JICA の当該分野での将来的な方向性
- C/P のプロジェクトに対する認識、評価は高く、プロジェクトに対するオーナーシップも高い。
 - すべての C/P は、本プロジェクトの妥当性や有効性が非常に高いとしており、プロジェクトに対する深い感謝の念を表していた。
 - すべての C/P は、JICA（日本）の ICT 分野に関する支援に感謝し、今後とも支援を継続してほしいと強調していた。次期プロジェクトの申請が行われており、採択への期待も大きい。
 - USP のマネジメントでは、ICT は日本がリードドナーであると認識しており、今後も当該分野への支援を希望していた。
- B. プロジェクト全般に対する認識や評価及び JICA の当該分野での将来的な方向性
- 教育省においては、ICT センターが日本の無償で建設されていたこと、既に利用していたことから、評判は高かった。
 - フィジー政府としては、アディ・マオパ中高等学校に Ku-band が導入されたこともあり、プロジェクトに対する認識も高かった。
 - 遠隔教育のシステムとしては、既存の FTL（教材が届かなかったときのためなど、最低限の機能を持ち合わせている）と USP-Net では全くサービスの質が違いため、今後 USP と連携を強めていきたい旨、またシステムを調和化していく必要があると考えている。
- C. フィジーのメインキャンパス以外の USP スタッフや学生のインターネット・USP-Net の接続状況や 2 年前との比較、Moodle への評価（使いやすさ・内容等）
- USP-Net はここ 2 年の間に大きく改善したという意見が大勢を占めた（特に REACT）
 - 特に、フィジーラウトカキャンパス、Ku-band が設置されたトンガのババウ離島 LC 及びハーパイ離島 LC においては、スタッフ・学生ともにインターネットのスピードや USP-Net の接続状況が大幅に改善していると一致していた（ババウとハーパイについては、Ku-band 設置以前は Moodle や REACT を使うこと自体がほぼ不可能であった由）。
 - ナウルでは、停電が多いため、インターネット接続に不満をもっている学生が多かった。また、トンガタプ（トンガメインキャンパス）についても、学生が増えていることもあり、特に午後になると接続が遅くなるという不満が聞かれた。
 - ナウル、マーシャル、クック諸島、ニウエにおいては、m-learning に興味があるとしているが、ナウルのスタッフは、それよりも Moodle がもっと安定して使えるようになることが先決であるとしていた。
 - マーシャル諸島については、この 2 年間にインターネット接続状況は大幅に改

善し、REACT がよく使えるようになったとのこと。

- ナウルを含め、学生からの Moodle への評価は高かった（ナウルは、接続状況が悪いことが不満であるだけで、Moodle に必要なときに必要なだけ接続できるようにしてほしいという要望が聞かれた）。

D. 新学士コースに対する評価、ICT センター機能への満足度

- ICT 環境については、大部分の学生が満足しているとしているが、なかには、BNC と BSE の学生のためのラボがないため、いつも他の学部の学生でいっぱい自分たちの宿題や課題をするのに必要なコンピューターへのアクセスがないとする声があった。
- ICT センターの機能・サービスには満足している学生が大部分であったが、数名の学生が、必要なときに使えないことにフラストレーションを感じるとしていた。
- 同コースに登録した理由は、将来の就業に有利になると考えたからというものが一番多く、次いで個人的な興味であった。
- 興味をもっている分野は、コンピューターや情報に関する広い範囲である旨うかがえた。
- 半数以上が新学士コースに満足していると回答しており、「妥当」としている学生と合わせるとほぼ全員が満足・妥当だと感じているという結果を得た。
- Moodle を頻繁に使っている学生は半数程度であったが、Moodle で提供されるコースに対する満足度は高かった。

E. パートナー機関のプロジェクト全般に関する認識や評価及び JICA、USP の当該分野での方向性

- SPC は PacCERT の理事会の一員となったこともあり、JICA と間接的な連携が進んでいる。プロジェクトに対する認識も進み、PacCERT だけではなく、USP の新学士号コース支援（BNC、BSE）をしていることも把握していた。また、遠隔地の Ku-band にも注目している。ICT センターは ICT の地域機関が入居したこともあり、評価していた。
- PITA（テレコムフィジー：TFL）については、既に USP や JICA とともに連携関係にあり、ICT センターに移転、その前から域内の通信に関するトレーニングを開催している（PITA のメンバーは PacCERT や SPC と同様 22 カ国）。
- 大洋州の ICT 関連分野の課題として ICT 人材のキャパシティビルディングが喫緊の問題だと考えている。
- プロジェクトについては、USP-Net と ICT センターのコンポーネントを理解しているが、USP-Net の改善は、USP と大洋州域内全体のためになったと考えている。ただし、衛星による接続が一番良いというわけではないので、使用量が増えれば増えるほど、光ファイバーによる接続が将来的には必要になってくる

と考えている。

- ICT センターは日本の素晴らしいイニシアティブだとして高く評価している。ただし、USP の教育用施設にとどまるのでは無駄であるので、今後、域内への貢献に重点をおくことを希望する（技術的、政策・経済分野で地域をリード・サポートできるような機能をもたせる）。PacCERT を立ち上げたことも、プロジェクトの大きな功績である。
- 学生を通したインキュベーションの支援を考えており、JICA の支援が終わるのは痛手だとしていた。

F. プロジェクト一般情報及び問題、目的・成果達成度

- アウトプット 1 は既に達成しているとしているが、教授や講師が辞職したこともあり、ポジションを早急に埋める必要に迫られている。
- アウトプット 2 は問題なく進捗している。プロジェクト後期に入って、NOC と ITIL が結びついたのが評価されていた。Ku-band は 6 カ所は既に設置が行われているが、あと 3 カ所についても 2012 年中に設置が完了する予定。
- アウトプット 3 については、予想以上の効果を上げられたとして非常に高い評価がされていた。m-learning についても USP 側の予算もつき、順調に進んでいる。
- アウトプット 4 は、唯一達成が危ぶまれる指標が含まれている。一つは新しいセンター長が着任したため、新しいビジネスプランを策定することになっているが、まだ確定されていないこと、ビジネスインキュベーションについては、ようやくスペースを占有するテナントが決まったところであるため、プロジェクト期間中に十分な支援を行えるかどうかという問題がある。PacCERT の開始もスタッフの給与の捻出に手間どったため遅れたが、incident handling や malware analysis の本邦研修にスタッフが 2 名参加することになっており、基本的なところまでカバーできる体制が整いつつある。
- JICA の技術協力は、長・短期専門家、研修（本邦、国内）、資機材供与を含めきめ細かい協力が行われ、すべて効果的であった。長・短期専門家の支援は高く評価されていた。
- 同プロジェクトにより、ITS と各セクション間の連携関係が強化された。
- USP 側のカウンターパートと日本側のコミュニケーションは密で、JCC より頻繁に行う全体ミーティングは現在は開催していないが、コンポーネントごとの会合には、日本人専門家も必ず出席するようにしている。
- チーフアドバイザー着任の遅れに関しては、業務調整専門家がカバー、遅れて赴任したチーフアドバイザーの努力もあり、負のインパクトは最小限に抑えられていると考えている。
- 日本人専門家は、アウトプット 4 に係る活動の進捗状況の遅れを危惧している。同アウトプットについては、2012 年 1 月に新 ICT センター長の着任後も、期待

されていたような効果発現には至っていない。当初 ICT センター長が行うはずだった部分についても、副学長補と ITS 部長がメインで行っている（PacCERT は ITS 部長、ICT センターの運用ガイドラインの策定についても、結局副学長補が中心となって行った）。新センター長の担当は、ビジネスプランの策定及びビジネスインキュベーションであるが、ビジネスプランについてもまだ USP のトップマネジメントを満足させられるようなプランの策定には至っていない。

- USP 側は、CS/IS 職員も忙しく、特に 3 名の教授・上級講師が最近になり辞職したため、人員は足りない状況が続いている（修士レベルの若手講師が多く、PhD を取得した教授・助教授、上級講師がいない）。早急な人の手当てはもちろん、若手講師についても、経験のある者に関しては、キャリアアップを図れるような方向性を模索しなければ、人手不足の根本的な問題は解決しないという声も聞かれた。

G. プロジェクト全般に対する評価、問題、将来的な方向性

- チーフアドバイザー赴任が遅れ、ICT センター長の不在、USP の VAT 還付問題、機材調達の遅れなど、プロジェクト前半にさまざまな障害はあったものの、全体的なプロジェクトの進捗状況は順調。プロジェクトの専門家を高く評価している。
- プロジェクトチームとの関係は良好で、プロジェクトマネジメントを担う長期専門家と PADECO を中心とした短期専門家グループ、その他のパートナーシップ等お互いの動きを牽制しながらうまく動いたと感じている。
- 次期プロジェクトの申請書（案）が提出されたが、「ナレッジハブ」とはいつても、内容は総花的で今一つ焦点が絞られていない。すべてをできるわけではないので、もっと精査されたものにする必要がある。
- 本プロジェクトは USP からの評価も高く、域内でもプレゼンスの大きなプロジェクトとなっているため、今後も同分野において協力を継続してほしい・していきたいという希望が聞かれた。

H. セクター全般の状況、USP 卒業生に対する意見、求められる人材像等

- フィジーには、才能のある IT 技術者が多数いるが、自分の会社は会計を手がけるソフトが多いため、その部分の理解が足りない。セクターの問題としては、域内の政府や大企業がなかなか国内のソフトウェア会社に発注しないことが挙げられる。
- 過去に雇った USP 卒業の社員（19 名）のうち、優秀なのは 53%、可が 21%、平均以下が 26%と考えている。分析力や問題解決スキルは良いが、財務的な理解、コミュニケーションスキル、User interface designs に弱い。
- ICT センターの機能の向上を行うには、JICA の支援や日本政府やマイクロソフトやグーグル、アップルのような大手のソフトウェア技術者から、ビジネス・

インテリジェンス、セキュリティ、フレームワーク設計、Near Field Communication、Touch-centric UI Designs 等の ICT 分野に係る支援をしてほしい。

- インキュベーションスペースのテナントに手を挙げているが、本プロジェクトがもうすぐ終了するのは気がかりである（上記 E の PITA Chairman と同様の意見）。

（各インタビュー結果、質問票回答結果詳細については、JICA フィジー事務所及び運輸交通・情報通信第二課にて保管）

4. エンドライン調査項目

エンドライン調査項目

プロジェクトの実績	
プロジェクトの残り半年のインプットが計画どおりに行われたかを確認する。	
プロジェクト目標	
指標 2	80%以上の BNC/BSE 学士号プログラム在学生在が、同プログラムに満足している データ入手方法の例: 2012 年学生のコースレビューを参照する。もしくは、BNC/BSE 学生全員に対して質問票調査
指標 3	70%以上の本校及びリージョナルキャンパス在学生在が、ICT を通じた教育サービスの提供に満足している データ入手方法の例: 本校及びリージョナルキャンパス在在学生への質問票調査。全員に行うのは困難であるため、サンプリングを行ったうえで実施する。
指標 4	70%以上の ICT センターの利害関係者及び利用者が ICT センターの施設やサービスに満足している データ入手方法の例: インタビュー及び質問票調査を行う。インタビュー先としては、FSTE スタッフ及び学生、ITS スタッフ、地域機関 (ITU、PIRRC、PITA、PacCERT)、インキュベーションテナント等が考えられる。
アウトプット	
指標 2-2	Ku-band がハブ (USP 本校) 及び離島 USP ラーニングセンター9カ所に設置されているという事実 データ入手方法: インタビューにより、残り 3 サイトの離島ラーニングセンターへの Ku-band 設置が完了したかどうかを確認する。
指標 2-3	70%以上のセミナー参加者 (USP の IT 関係スタッフ) が ITIL の概念及び重要性を認識している データ入手方法: ITS スタッフに質問票調査を実施する。
指標 2-4	70%以上の利用者が ITS サービス提供が改善していると感じており、ITS カスタマーサービスに満足している データ入手方法の例: インタビュー及び質問票調査を行う。全学スタッフ・学生を対象にするのは困難であるため、サンプリングを行ったうえで実施する。
指標 3-1	Moodle を利用する遠隔教育提供科目の割合が 90%まで増加する/Moodle システムの安定性、利用性及び機能性が強化される データ入手方法の例: Moodle に関する 2012 年の統計を確認する。
指標 3-2	モバイル技術を利用した双方向学生支援システムのパイロットプロジェクトが 1 件以上成功裏に実施される データ入手方法の例: インタビューを通して、サモアで実施された双方向学生支援システムが成功裏に実施されたかどうかを確認する。
指標 3-3	70%以上の CFDL スタッフ及び教員は、遠隔教育法のワークショップに満足している/ワークショップの成果がコースデザインや開発に実践されている事実 データ入手方法の例: CFDL スタッフ及びワークショップに参加した教員に対する質問票調査。2 番目の指標については、インタビューで実践されているかどうかを聞き取りする。

指標 4-1	ICT センターの運用計画が策定され承認された事実
	データ入手方法: インタビューで運用計画が策定・承認されたかを確認し、運用計画を入力する。
指標 4-3	インキュベーションスペースが占有され、占有テナントが ICT から受けられるサービスや支援に対して満足している
	データ入手方法: インタビューと現場視察によりインキュベーションスペースが占有されていることを確認する。占有テナントがサービスや支援について満足しているかどうか聞き取り調査をする。
指標 4-5	PacCERT が ICT センターに設立され、地域内にサービスを提供する基本的な体制が整う
	データ入手方法: PacCERT 及び理事会メンバーへのインタビューと現場視察によりサービス提供への基本的な体制が整っているかどうかを確認する。

